

亀山市子どもの貧困に関する実態調査 報 告 書

平成 31 年 3 月

亀 山 市

目次

I 調査の概要	3
1. 調査の背景	4
2. 調査の目的	4
3. 調査の内容	5
(1) ヒアリング調査	5
(2) アンケート調査	7
4. 調査結果のまとめ	11
(1) 教育支援に関すること	11
(2) 生活支援等に関すること	13
(3) 地域社会とのかかわりに関すること	15
(4) 行政の支援制度、及び必要となる施策に関すること	16
II ヒアリング調査結果	19
(1) 教育支援に関すること	20
(2) 生活支援等に関すること	21
(3) 地域社会とのかかわりに関すること	24
(4) 行政の支援制度、及び必要となる施策に関すること	25
III アンケート調査結果	27
(1) お子さんご家族の状況について	28
(2) お子さんの学校や学習の状況について	41
(3) お子さんの生活の状況について	54
(4) お子さん保護者や地域の方とのかかわりについて	73
(5) お子さんの教育費や生活費について	86
(6) 相談や支援・助成制度について	96
(7) 今後必要となる施策について	109

I 調査の概要

1. 調査の背景

平成 25 年 6 月に制定された「子どもの貧困対策の推進に関する法律」や、これに基づき平成 26 年 8 月に閣議決定された「子供の貧困対策に関する大綱」においては、子どもの貧困対策の基本方針として、「貧困の世代間連鎖を断ち切ること」や「国の将来を支える積極的な人材育成策として取り組むこと」をめざすとしており、「第一に子どもに視点を置いて、その生活や成長を権利として保障する観点から、成長段階に即して切れ目なく必要な施策が実施されるよう配慮する」としています。

また、「子供の貧困対策に関する大綱」においては、従来の子どもの貧困に対する調査研究が十分でなかったことが指摘され、子どもたちが置かれている貧困の実態や支援の実態を継続的に把握、分析し、その成果を対策に生かしていくことが謳われています。

実際には、貧困が疑われる家庭の実態は隠れがちであり、家庭そのものが地域から孤立しているケースも少なくないため、実態が見えていないのが実情です。一方で、子どもの貧困に関する課題は多様化・複合化していると考えられ、単に経済的な支援にとどまらず、総合的な子どもの貧困対策が求められています。子どもの貧困にかかわる多様で複合的な課題に対し、総合的な対策が取られなければ、子どもが成長する中で課題が積み重なり、貧困が深刻化していく可能性が懸念されます。

2. 調査の目的

以上の背景から、本調査においては、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」及び「子供の貧困対策に関する大綱」、「三重県子どもの貧困対策計画」を踏まえることはもとより、本市における子どもの貧困を含めた子育て世代の現状を把握し、子どもの貧困対策の対象となるべき層を明らかにするとともに、子どもの幸せな未来に資するという観点から、取り組むべき課題や施策の方向性などを分析するため、経済的な側面に限定せず、家庭における親子のかかわりや地域における人間関係なども含めた広い観点から実態調査を行うこととしました。

3. 調査内容

(1) ヒアリング調査

〈調査の趣旨〉

亀山市における子どもの貧困にかかる「①実態、実情の把握」、「②支援の実態及び課題の把握」、「③活用可能な資源の把握」、「④子どもの貧困対策として必要なことについての提案を得ること」をねらいとして、関係機関・団体等に対するヒアリング調査を行いました。

さらに、調査結果を整理し、課題をあぶり出すことによって、アンケート調査の実施方針（対象者や設問内容）の検討の基礎資料としました。

〈調査方法〉

学校及び福祉分野における関係機関・団体等（51 団体）に対し、あらかじめ調査項目を示し、対面形式によって聴き取りを行いました。

調査は、平成 30 年 6 月下旬から 9 月上旬にかけて、1 機関・団体あたり 30 分～2 時間程度で行いました（機関によっては集団での聴き取り）。

〈調査対象者〉

団体名	日時	会場
1 亀山西小学校	7 月 19 日(木)9:00～	亀山西小学校
2 亀山東小学校	7 月 27 日(金)9:30～	亀山東小学校
3 亀山南小学校	8 月 6 日(月)10:00～	亀山南小学校
4 昼生小学校	7 月 26 日(木)11:00～	昼生小学校
5 井田川小学校	7 月 25 日(水)13:30～	井田川小学校
6 川崎小学校	7 月 19 日(木)13:00～	川崎小学校
7 白川小学校	8 月 28 日(火)13:30～	白川小学校
8 野登小学校	7 月 19 日(木)15:00～	野登小学校
9 神辺小学校	7 月 24 日(火)14:00～	神辺小学校
10 関小学校	7 月 26 日(木)13:00～	関小学校
11 加太小学校	7 月 23 日(月)14:00～	加太小学校
12 亀山中学校	8 月 7 日(火)9:30～	亀山中学校
13 中部中学校	8 月 8 日(水)10:00～	中部中学校
14 関中学校	7 月 23 日(月)15:30～	関中学校
15 教育委員会教育総務課	8 月 23 日(木)11:00～	市役所西庁舎
16 教育委員会学校教育課	8 月 23 日(木)11:00～	市役所西庁舎
17 教育委員会生涯学習課	8 月 23 日(木)11:00～	市役所西庁舎
18 第一愛護園	7 月 5 日(木)15:00～	総合保健福祉センター
19 第二愛護園	7 月 5 日(木)15:00～	総合保健福祉センター
20 みなみ保育園	7 月 5 日(木)15:00～	総合保健福祉センター
21 昼生保育園	7 月 5 日(木)15:00～	総合保健福祉センター
22 神辺保育園	7 月 5 日(木)15:00～	総合保健福祉センター
23 和田保育園	7 月 5 日(木)15:00～	総合保健福祉センター
24 川崎南保育園	7 月 5 日(木)15:00～	総合保健福祉センター
25 加太保育園	7 月 5 日(木)15:00～	総合保健福祉センター
26 関認定こども園アスレ	7 月 5 日(木)15:00～	総合保健福祉センター
27 第三愛護園	8 月 2 日(木)15:15～	総合保健福祉センター
28 亀山愛児園	8 月 2 日(木)15:15～	総合保健福祉センター
29 川崎愛児園	8 月 2 日(木)15:15～	総合保健福祉センター

30 野登ルンビニ園	8月2日(木)15:15～	総合保健福祉センター
31 なのはな保育園	8月2日(木)15:15～	総合保健福祉センター
32 亀山幼稚園	7月25日(水)10:00～	総合保健福祉センター
33 亀山東幼稚園	7月25日(水)10:00～	総合保健福祉センター
34 みずほ台幼稚園	7月25日(水)10:00～	総合保健福祉センター
35 井田川幼稚園	7月25日(水)10:00～	総合保健福祉センター
36 みずきが丘道伯幼稚園	8月8日(水)13:00～	みずきが丘道伯幼稚園
37 日の本クラブ(学童)	9月5日(水)13:30～	総合保健福祉センター
38 亀山子育て支援センター	8月17日(金)13:00～	総合保健福祉センター
39 関子子育て支援センター	8月17日(金)13:00～	総合保健福祉センター
40 亀山市ファミリーサポートセンター	8月28日(火)10:00～	総合保健福祉センター
41 青少年総合支援センター	8月28日(火)15:00～	青少年研修センター
42 学習支援コーディネーターの会(亀山中)	9月10日(月)11:00～	関支所
43 学習支援コーディネーターの会(中部中)	9月10日(月)9:30～	中央公民館
44 学習支援コーディネーターの会(関中)	9月10日(月)11:00～	関支所
45 みらいじゅく	8月23日(木)9:30～	亀山西小学校
46 亀山みんなの食堂	8月22日(水)9:30～	岡田屋本店・月の庭
47 亀っこサポート	8月24日(金)13:30～	総合保健福祉センター
48 亀山市社会福祉協議会	9月4日(火)10:00～	総合保健福祉センター
49 主任児童委員	6月25日(月)15:20～	総合保健福祉センター
50 生活保護ケースワーカー	8月23日(木)13:30～	総合保健福祉センター
51 こども未来課	6月28日(木)9:00～	総合保健福祉センター

（２）アンケート調査

〈調査の趣旨〉

亀山市における子どもの貧困にかかる実態、実情を把握するため、子どもがいる世帯全体に対する調査（Ａ：全体調査＝①就学前児童調査、②小学校児童調査、③中・高生調査）とともに、児童扶養手当や就学援助といった支援の利用者に対する調査（Ｂ：支援利用者調査）を行いました。

アンケート調査の設計に当たっては、調査に先立ち実施したヒアリング調査の結果を材料に仮説を立て、これを検証すべく設問設計を行いました。

〈調査方法〉

下記の調査対象に対し、Ａ：全体調査については学校・園を通じた直接配布・回収方式により（一部、未就園児については郵送による）、また、Ｂ：支援利用者調査については、郵送による配布・回収方式により調査を実施しました。

調査は、平成 31 年 1 月から 2 月にかけて実施し、下記の通りの回収率を得ました。

〈調査対象者〉

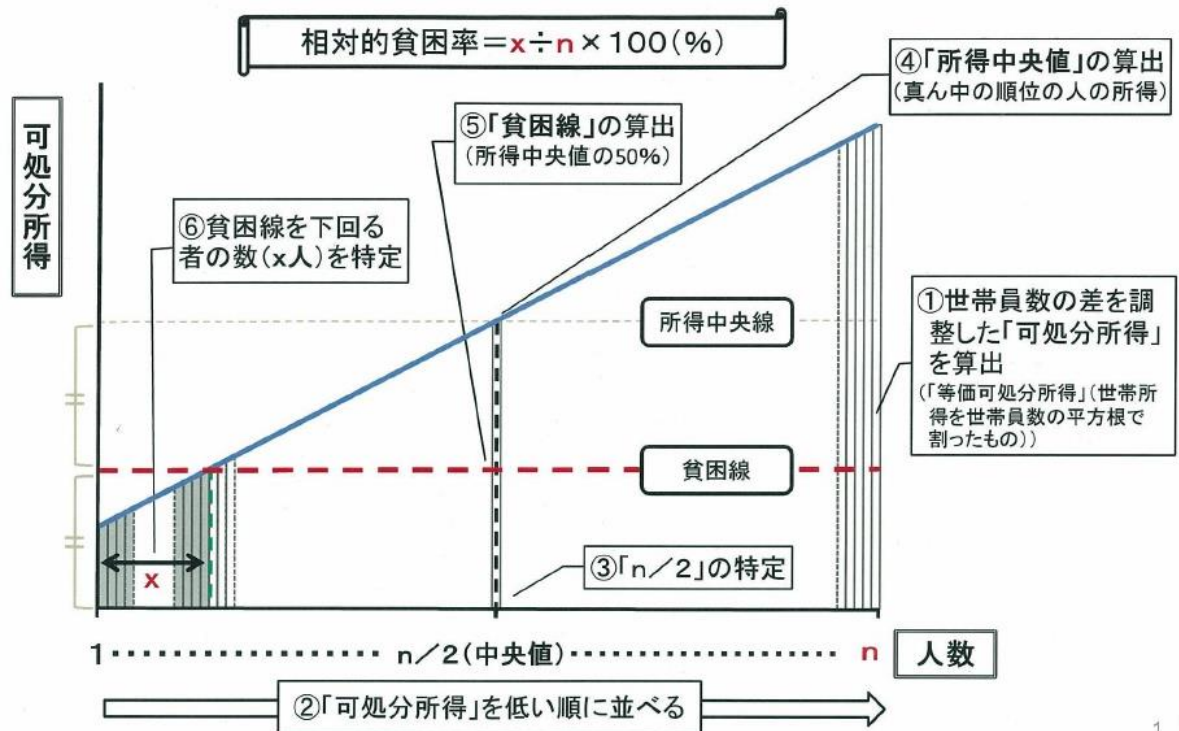
調査種別	配布数	有効回収数	有効回収率
A：全体調査（以下、『全体』）	2,452	2,176	88.7%
①就学前児童調査（以下、『就学前児童』）	1,280	1,172	91.6%
②小学校児童調査（以下、『小学生』）	659	553	83.9%
③中・高生調査（以下、『中高生』）	513	451	87.9%
B：支援利用者調査（以下、『支援利用者』）	364	152	41.8%

〈注意事項〉

- ① 集計はすべてパーセントで示しましたが、小数点第 2 位で四捨五入しているため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合があります。
- ② 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- ③ 文中の N 数（number of case）は、「無回答」や「不明」を除く有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

〈貧困層区分について〉

本調査における「貧困」とは、内閣府が行った「親と子の生活意識に関する調査」（平成 23 年度）における「相対的貧困層」の定義に準じることとします。この内閣府の調査における「相対的貧困層」とは、厚生労働省が公表している相対的貧困率の算出方法（下図）を参考とし、等価可処分所得（世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分（「貧困線」という。）に満たない世帯（下図の x）を指します。



※厚生労働省報道発表資料（2009 年 10 月）より

上記の内閣府調査にならい、本調査における相対的貧困層の分布をみると次ページの表のようになり、太線の枠内が「相対的貧困層」と想定されます。ただし、貧困線に対応する世帯収入は下記の参考表のとおりであり、次ページの表では、その対応する世帯収入を含む回答区分をすべて含む想定としています。

また、世帯収入と子どもの人数の回答から便宜的に想定したものであり、次ページの表の枠内に該当する世帯のすべてが実際の生活に困難を抱えているというわけではありません。

〔参考：世帯人数ごとの相対的貧困層となる世帯収入〕

	貧困線(万円)	係数	対応する世帯収入(万円)	本調査における回答区分
2人世帯	177	1.11	196	200 万円未満
3人世帯	217	1.15	249	300 万円未満
4人世帯	250	1.15	288	
5人世帯	280	1.15	321	400 万円未満
6人世帯	306	1.15	352	
7人世帯	331	1.18	390	500 万円未満
8人世帯	354	1.18	417	

※係数は「親と子の生活意識に関する調査」（平成 23 年度）に準じた

〔全体調査における「相対的貧困層」の該当範囲（N=240）〕

（上段：人数／下段：比率（％））

		世帯収入									
		50 万円 未満	50～100 万円	100 ～ 150 万円	150 ～ 200 万円	200 ～ 300 万円	300 ～ 400 万円	400 ～ 500 万円	500 ～ 600 万円	600 万円 以上	合計
世帯人数 （子どもと親の人数）	2人	1 0.0	1 0.0	3 0.1	9 0.4	9 0.4	15 0.7	8 0.4	6 0.3	9 0.4	61 2.8
	3人	3 0.1	2 0.1	14 0.6	13 0.6	28 1.3	49 2.3	70 3.2	97 4.5	135 6.2	425 19.5
	4人	2 0.1	3 0.1	10 0.5	18 0.8	47 2.2	109 5.0	177 8.1	263 12.1	460 21.1	1,118 51.4
	5人	1 0.0	3 0.1	6 0.3	1 0.0	16 0.7	46 2.1	79 3.6	97 4.5	215 9.9	470 21.6
	6人	- -	- -	1 0.0	1 0.0	1 0.0	6 0.3	11 0.5	19 0.9	22 1.0	64 2.9
	7人	- -	- -	1 0.0	- -	2 0.1	- -	- -	- -	6 0.3	10 0.5
	8人 以上	- -	- -	- -	1 0.0	- -	- -	- -	- -	2 0.1	3 0.1
	合計	7 0.3	9 0.4	35 1.6	45 2.1	105 4.8	228 10.5	352 16.2	486 22.3	855 39.3	2,176 100.0

※合計数値には無回答等を含む

〔支援利用者調査における「相対的貧困層」の該当範囲（N=95）〕

（上段：人数／下段：比率（％））

		世帯収入（問8）									
		50 万円 未満	50～100 万円	100 ～ 150 万円	150 ～ 200 万円	200 ～ 300 万円	300 ～ 400 万円	400 ～ 500 万円	500 ～ 600 万円	600 万円 以上	合計
世帯人数 （子どもと親の人数）	2人	2 1.3	2 1.3	8 5.3	15 9.9	12 7.9	8 5.3	5 3.3	1 0.7	- -	54 35.5
	3人	4 2.6	1 0.7	9 5.9	9 5.9	17 11.2	6 3.9	5 3.3	- -	- -	51 33.6
	4人	1 0.7	5 3.3	5 3.3	3 2.0	4 2.6	9 5.9	2 1.3	1 0.7	- -	31 20.4
	5人	1 0.7	1 0.7	1 0.7	1 0.7	- -	2 1.3	- -	1 0.7	- -	8 5.3
	6人	- -	- -	1 0.7	- -	- -	1 0.7	2 1.3	1 0.7	- -	6 3.9
	7人	- -	- -	- -	- -	1 0.7	- -	- -	- -	- -	1 0.7
	8人 以上	- -	- -	- -	1 0.7	- -	- -	- -	- -	- -	1 0.7
	合計	8 5.3	9 5.9	24 15.8	29 19.1	34 22.4	26 17.1	14 9.2	4 2.6	- -	152 100.0

※全体数値には無回答等を含む

〈本調査における「貧困」のとりえ方について〉

調査の背景・目的に即して、本市におけるアンケート調査の全体調査における分析軸は「経済的貧困」と「文化的貧困」に着目することとします（支援利用者調査は母数が少ないことから、支援利用者調査全体として全体調査と比較分析することを主眼に置きます）。

「経済的貧困」については、前述の「相対的貧困層」がこれに該当するものとして分析します。加えて、ヒアリング調査において聞かれた「経済的には困窮していなくとも、親子の関係や愛情が希薄であるため、結果的に子どもが貧困と同じような状況に陥っているおそれがある」との指摘から、本調査においては、主に親子関係に起因するこうした状況を「文化的貧困」と位置付け、分析することとします。

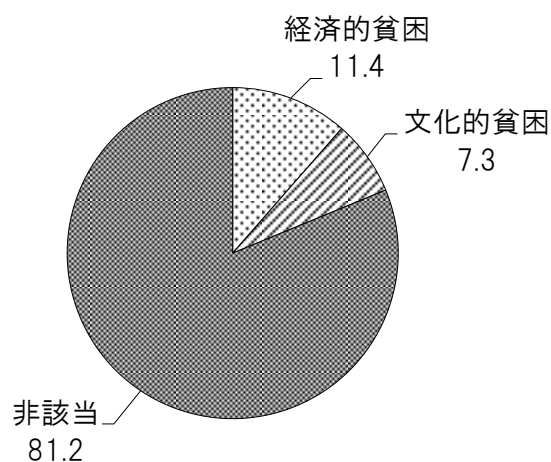
経済的貧困	「相対的貧困層」に該当する人
文化的貧困	親子関係に関する次の4つの設問のうち、2つ以上、否定的回答（「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」）を選択した人で、「相対的貧困層」に該当しない人 ● お子さんと十分時間を過ごしている ● お子さんとよく会話をする ● お子さんに十分愛情をかけている ● 自分自身のことよりも子どものことや教育にお金を使うことが多い

全体調査及び支援利用者調査における、上記の「経済的貧困」と「文化的貧困」に該当する人の割合は以下の通りです。

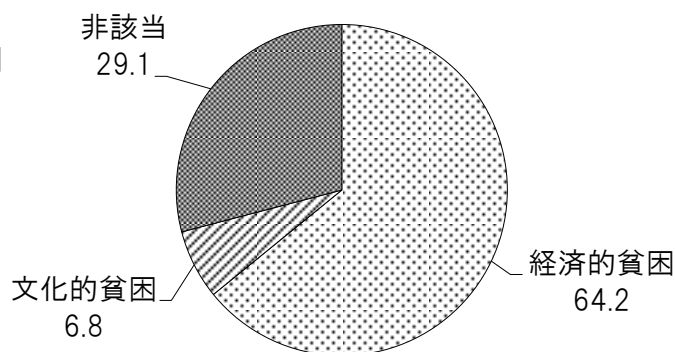
全体調査では、「経済的貧困」は11.4%、「文化的貧困」は7.3%、「非該当」は81.2%、また、支援利用者調査では、「経済的貧困」は64.2%、「文化的貧困」は6.8%、「非該当」が29.1%となっています。

支援利用者調査は、全体調査に比べ、「非該当」は52.1ポイント少なくなっている一方で、「経済的貧困」が52.8ポイント多くなり、経済的な貧困層の割合が多くなっています。

〔全体調査（N=2,098）〕



〔支援利用者調査（N=148）〕



4. 調査結果のまとめ

(1) 教育支援に関すること

〔子どもや家庭の実情（ヒアリング調査結果より）〕

学校や学習に関しては、子どもによっては学習意欲が低く、学習の積み重ねができず、学年が進むにつれて遅れが顕在化してくるケースが見られるようです。また、家庭の状況によっては不登校につながるケースもあります。

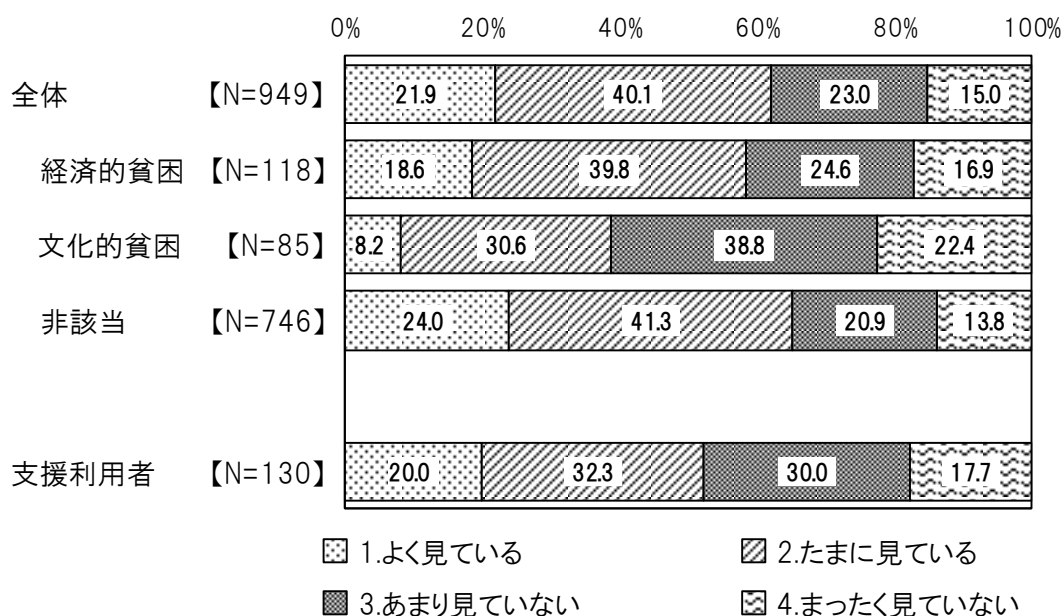
子どもたちは進学に対する意欲は持っており、高校に通うことができても授業料が払えず辞めてしまうケースがあります。特に外国籍市民の中には、給付型の奨学金制度を知らなかったり、手続きが面倒なために申請をしなかったりすることがあるようです。

〔子どもや家庭の実態（アンケート調査結果より）〕

子どもの学力や学習意欲に関して、全体調査では、「経済的貧困」に該当する人は塾や習い事に通っていない人が多く、その理由も「経済的に余裕がないから」が最も多くなっています。一方、「文化的貧困」に該当する人は、授業の理解度において否定的回答がやや多くなっています。また、「文化的貧困」に該当する人は家庭において勉強を見ていない人が多く、教育に関して心配なこととしても「保護者が勉強を見てあげることができない」が他に比べて多くなっています。

支援利用者調査では、学校が楽しいかどうかについてやや否定的回答が多く、進学に関しても「経済的な負担ができるかどうか」が不安だという回答が最も多くなっています。また、全体調査の「経済的貧困」と同様、塾や習い事に通っていない人のほうが多い状況です。学習支援については中学生で利用している人が34.1%であり、小学生で今後利用したいと考えている人が42.3%となっています。

問 あなた（回答されている方）や配偶者の方は、家でお子さんの勉強を見ることはありますか。



〔支援・資源についての現状と課題（ヒアリング調査結果より）〕

子どもの学習機会を保障するために、学校（教師）ができる範囲での支援を行っていますが、個別対応には限界があり、どこまで家庭に踏み込むかというジレンマも抱えているようです。一方、外国籍市民については、「みらいじゅく」が学習支援を通じてかわり、保護者からの相談などにも応じています。現在、中部中学校区でモデル的に配置されているスクールソーシャルワーカーのような立場の人が、個々のケースにも対応できるようになることが理想的だと言えます。

市が中学生を対象に行っている学習支援は意欲ある子どもたちの受け皿になっていますが、人目を気にしたり、自宅から遠かったりして、来られない子も多いようです。学習支援については、遅れの始まる小学校からの導入が望ましいという声も聞かれました。さらに、「亀っ子サポート」による不登校の生徒やひきこもりの若者に対する併走型の学習支援が行われており、地域の放課後子供教室での学習支援なども展開されています。制度のはざまの問題もあり、教育と福祉とが切れ目なくつながって支援していくことが求められています。

(2) 生活支援等に関すること

〔子どもや家庭の実情（ヒアリング調査結果より）〕

就学援助を受けている世帯の多くはひとり親家庭であり、近所に祖父母がいるケースも多いものの、頼る先がなくひとりで子育てをしている家庭が市内に偏在しているようです。就学援助を受けているひとり親家庭の中でも、子どもに不便をかけないように努めて子育てに一生懸命な保護者がいる反面、昼夜の就労のために疲弊し、子育てや家事がままならず、生活が乱れている家庭が見られます。一方、ひとり親でなくても両親の関係などの家庭環境に問題がある家庭においては、より経済的な困窮が深刻であったり、子どもが不安定で不登校につながったりしているようです。そのような家庭に限って、地域で孤立しがちだと言えます。

生活が乱れている家庭では、子どもが学校に遅刻したり、朝食を欠食したりすることが多いようです。家庭で十分な食事がなされていないかもしれず、学校や園の給食が頼りになっている子どももいるようです。経済的に困窮しておらずとも、時間的な余裕のない家庭では朝食がなおざりにされがちであるようです。保護者が子育てに手が回らないため放任になりがちで、長兄などが家事や下の子の世話を肩代わりしている家庭もあるようです。医療機関の受診についても、時間的な問題で受診しない保護者がいるとのことでした。

親子の関係が希薄である場合は、園や学校で不安や甘えが態度に出てくるようです。また、思春期に差し掛かると自分の置かれた状況に矛盾を感じ、自己肯定感の低下にもつながります。保護者自身が子どもの頃に世話をしてもらえなかったために、同じことを我が子にするという連鎖が見られます。

〔子どもや家庭の実態（アンケート調査結果より）〕

食生活、就寝・起床といった生活リズムに関して、全体調査では、「経済的貧困」に該当する人は、朝食を食べない子どもや保護者、ゲーム・スマホの利用時間が長い子どもがやや多くなっています。一方、「文化的貧困」に該当する人は、夕食を子どもだけで食べる人がやや多く、その理由として「働いている保護者の帰宅が遅い」に次いで「育児・介護などで忙しい」が挙げられています。

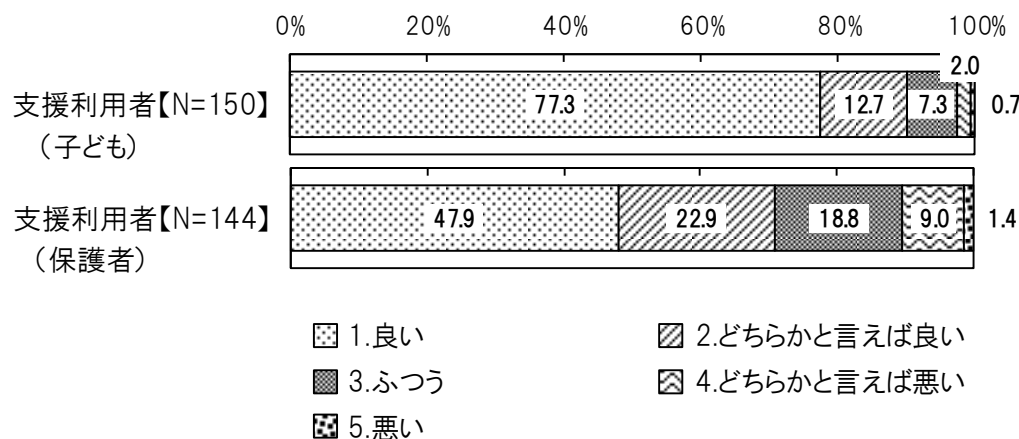
支援利用者調査では、全体調査の「経済的貧困」と同様、朝食を食べない子どもや保護者、ゲーム・スマホの利用時間が長い子どもが一定割合みられました。

子どもと保護者の健康面に関して、全体調査の「経済的貧困」及び支援利用者調査は、ともにむし歯のある子ども（治療・未治療）が約5割程度となっています。

支援利用者調査では、医療機関の受診をさせなかった経験がある人が約15%であるとともに、保護者の健康状態が悪いとの回答が約1割程度あります。

問 お子さんの健康状態はいかがですか。

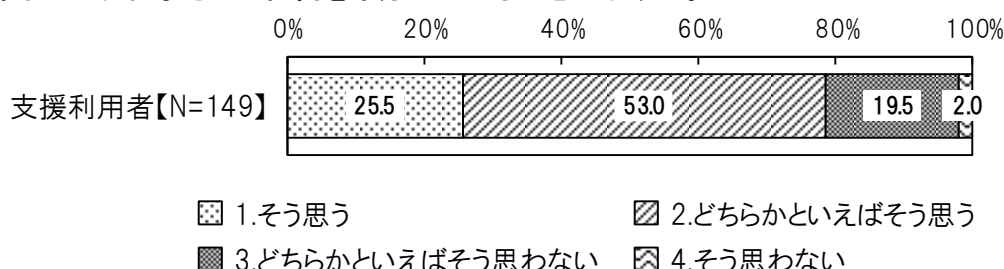
問 あなたや配偶者の方の健康状態はいかがですか。



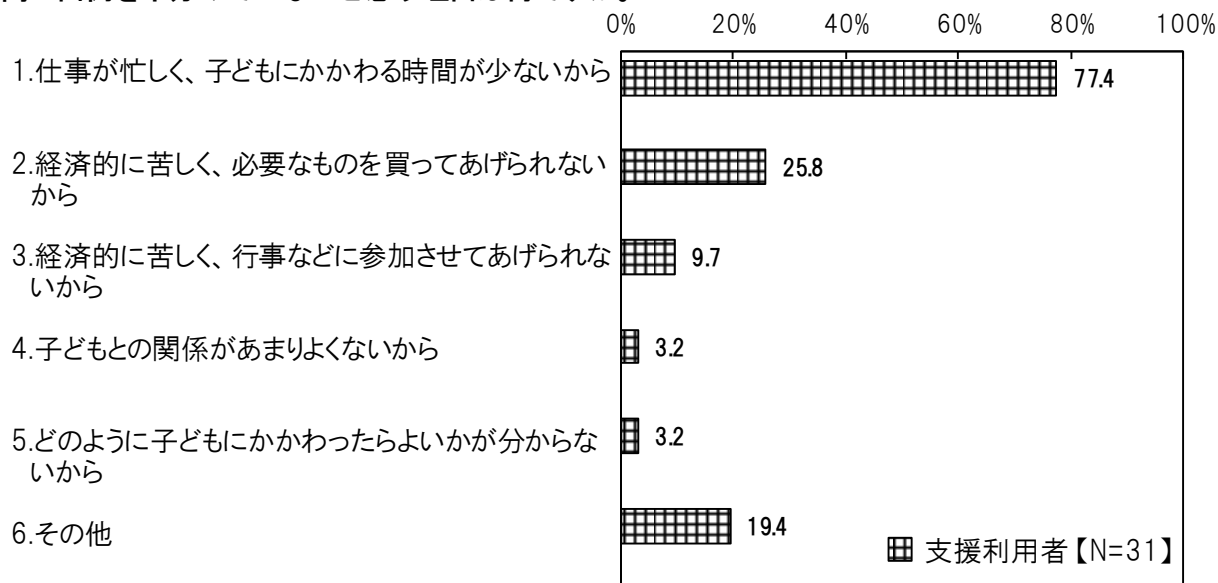
子どもと保護者とのかかわりに関して、全体調査では、「経済的貧困」に該当する人は「非該当」の人との差は大きくありません。しかし、「文化的貧困」に該当する人については、子どもと過ごす時間や会話が少なく、十分に愛情をかけているかどうかについても否定的回答が多くなっているほか、保護者自身も子どもについても自分のことが好きかという問いに対して、やや否定的回答が多くなっています。

支援利用者調査では、子どもと過ごす時間が少なく、子どもの面倒を十分みられていないと感じている人が一定割合おり、その理由として「仕事が忙しく、子どもにかかわる時間が少ない」と答えた人が77.4%に上ります。子ども食堂については、利用したことがある人は6.8%ですが、今後利用したい人は26.3%に上ります。

問 あなたは、お子さんの面倒を十分みていると思いますか。



問 面倒を十分みていないと思う理由は何ですか。



〔支援・資源についての現状と課題（ヒアリング調査結果より）〕

ひとり親家庭は就労と家庭との両立が難しく、「亀山市ファミリーサポートセンター」などが保育サービスを補完していますが、有料サービスであるため利用が限られることがあります。経済的に困窮している家庭には、国の事業を活用し、ファミリーサポートセンターの低価格での利用支援を実施していますが、制度の周知が広がっておらず支援につなげていないことが想定され、継続的な支援が求められています。また、親子の関係性の構築には家庭の教育力を高めていくことが求められます。

食事に関しては、「亀山みんなの食堂」が月1回、無料で食事を提供していますが、その場に出てこられる人はまだ良く、地域で埋もれている人のほうが深刻であると捉えられています。こうした食の提供については、市内のさまざまな地域で取り組まれることが望まれます。

(3) 地域社会とのかかわりに関すること

〔子どもや家庭の実情（ヒアリング調査結果より）〕

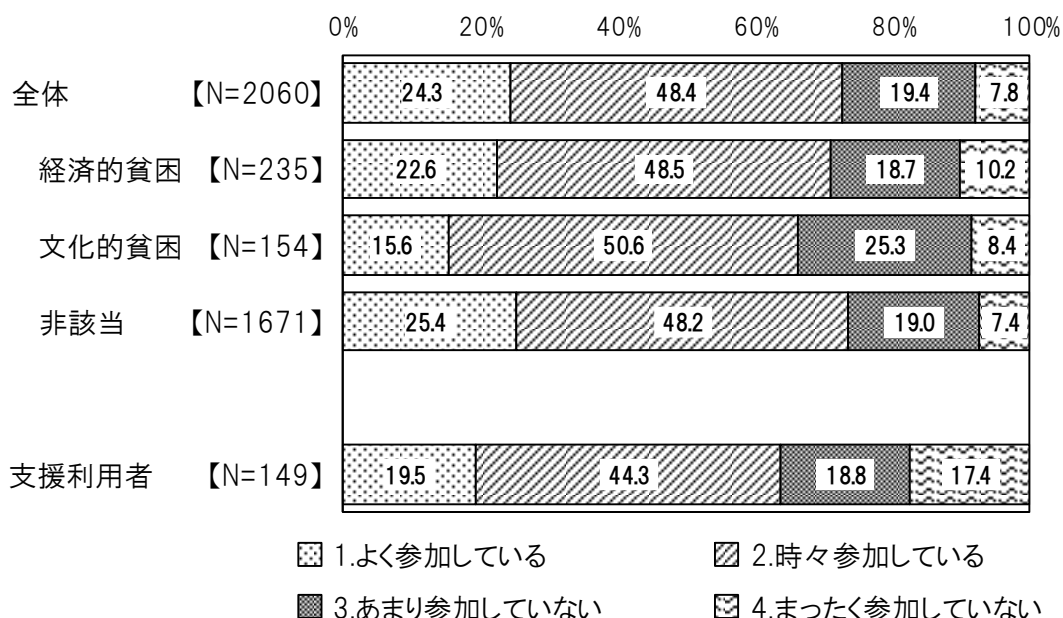
経済的に困窮している家庭などの厳しい状況におかれた家庭は自治会に未加入であったり、近隣の人との付き合いが疎遠になりがちであるため、子どもの学校が唯一の社会的接点である場合があります。さらに、保護者が自分のことで精一杯でだれとのつながりもないため、ＳＯＳを出せない状況も考えられます。子どもたちも周囲とそれなりにかかわりを持っていても、積極的にかかわることは少ないようです。

〔子どもや家庭の実態（アンケート調査結果より）〕

近隣との付き合い、地域行事や学校・園行事への参加に関しては、全体調査では、「文化的貧困」に該当する人が、近所づきあいの程度が浅く、行事への参加についてもやや否定的回答が多いなど、地域とのかかわりが希薄であることがうかがえます。

支援利用者調査では、地域行事に「まったく参加しない」という人が17.4%に上るなど、やや地域とのかかわりの少なさが見られました。

問 あなたの家庭では、地域の行事に参加していますか。



〔支援・資源についての現状と課題（ヒアリング調査結果より）〕

地域においては、主任児童委員や民生委員児童委員をはじめ、子どもの見守りにかかわる人びとが子どもへの声掛けを行っています。こうした地域の人びとが子どもたちに気軽に声をかけ、話を聞いてあげられる関係性をつくることが重要だと言えます。市内の各小・中学校はコミュニティスクールとしての取組を進めており、学校を通じて子どもと地域の人びととのかかわる機会が増え、課題を抱える子どもの情報を地域と共有していくことが望まれます。また、地域で埋もれている貧困家庭を見付ける上でも、学習支援や食の提供といった市民活動や地域のつながりが重要です。

(4) 行政の支援制度、及び必要となる施策に関すること

〔子どもや家庭の実情（ヒアリング調査結果より）〕

就学援助制度が教育関連支出の支援として機能していますが、金銭管理ができないために、子どもの教育に使われない家庭もあります。教育の機会が妨げられるまでには至りませんが、学習道具などが揃えられず、学校から貸与を受けているケースもあります。

お金の使い方について、就学援助などを受けても、計画性がないために教育や子どものことに使われず、生活環境の悪化にもつながっているケースがあります。経済的に困窮しておらずとも、情緒的に不安定であったり、生活能力に乏しかったりするため、必要な養育ができず、「心の貧困」とも言うべき状況を与えている場合があります。

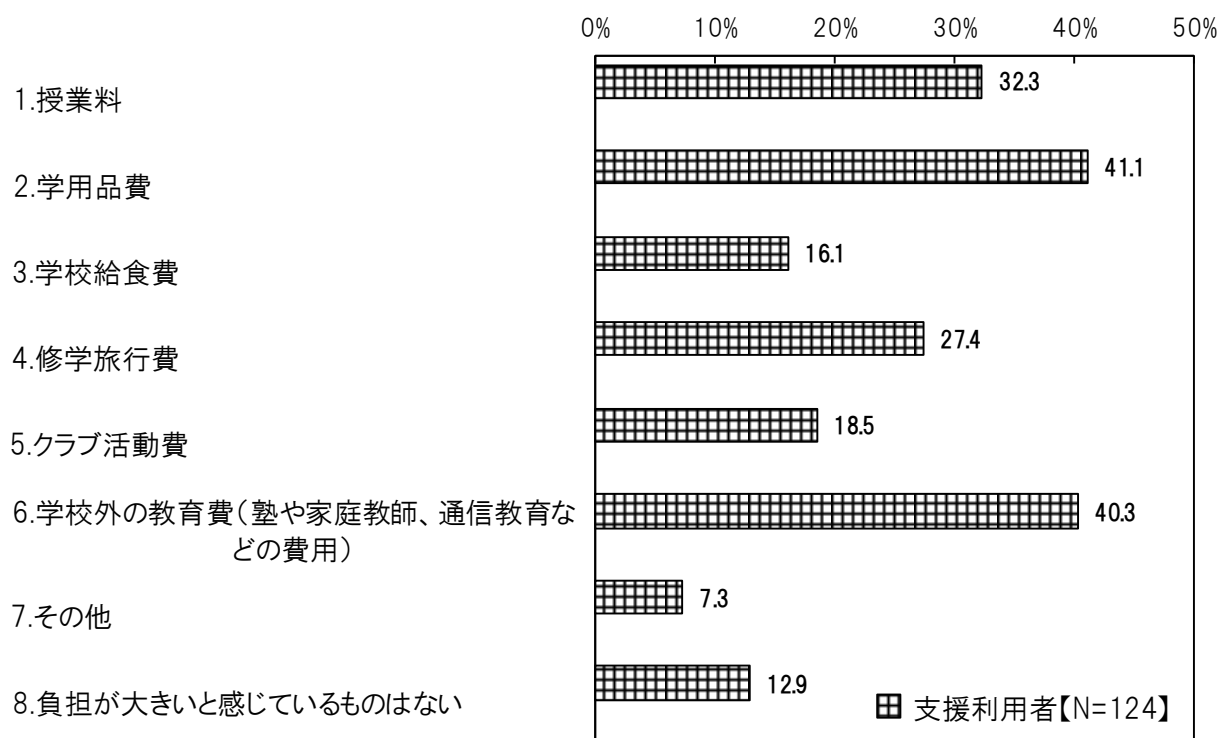
〔子どもや家庭の実態（アンケート調査結果より）〕

行政の支援制度について、支援利用者調査では、児童扶養手当や就学援助に対する認知度は高いものの、高等学校等就学援助金や奨学のための給付金など進学に際しての支援制度、及び母子父子寡婦福祉資金や生活福祉資金といった福祉資金貸付制度への認知度が低くなっています。また、就学援助が学校にかかる費用をカバーできていないという人が一定割合おり、必要な使途にお金を回せていない状況がうかがえます。さらに、文具や教材が購入できなかったことが、「よくあった」と「たまにあった」を合わせて19.1%となっており、学用品の負担が大きいことも明らかになりました。

支援利用者調査では、相談できる人・場所がないという人が全体調査結果に比べて多く、19.0%の人が相談相手が「ない」と回答しています。相談できなかったケースでも、「だれに相談すればよいのか分からなかった」という回答が25.8%と多くなっています。

必要していること、重要なことについては、子どもの就学にかかる費用の軽減が76.1%に上り、住宅に関する相談・支援（29.1%）、離婚に伴う相談・支援（26.9%）、悩みごとへの相談（26.9%）などが必要とされていることが明らかになりました。

問 お子さんの教育にかかる費用について、負担が大きいと感じるものは何ですか。



〔支援・資源についての現状と課題（ヒアリング調査結果より）〕

経済的に困窮している家庭への支援としては、市による生活保護及び就学援助等の制度、並びに市社協による生活困窮者自立支援事業や生活福祉資金貸付事業などがありますが、自立意欲が低く、生活の管理がままならないなど、貧困からの脱却が難しいケースが見られます。また、生活困窮だけでなく、障がいがあったり、介護や看護を抱えていたりして、問題が複雑であることも多いと言えます。問題が顕在化して相談機関につなげようにも、保護者にそのような意識がなく、つなぐことができないことがあり、支援を拒否されるケースもあります。一方で、どこに相談したらよいか分からないという声もあります。支援制度はあるものの、認知がされていないためにうまく活用できていないケースなどに対して、アウトリーチしていくことが求められています。

Ⅱ ヒアリング調査結果

(1) 教育支援に関すること

分類項目	ヒアリング調査の結果（まとめ）
○学校や学習に関すること	● 親の送迎がないために学校に来なかったり、宿題をしてこなかったりという状況では、学習の積み重ねができない。 ● 生活が乱れている子どもは、学習意欲も高くない傾向が見られる。 ● 忘れ物が多いので、家庭の協力が必要であるが、理解が得られないときもある。 ● 不登校傾向がみられる。少し学校に来づらいという子どももいる。 ● 生活の乱れからの不登校の場合は、迎えに行ったり、保護者と連絡を取ったりすることで改善するケースが多い。
○教育関連支出に関すること	● 就学援助のお金を他のことに使ってしまう、学用品費等が払えない家庭がある。 ● 就学援助の申請をしても、収入の微妙なラインで不認定になる家庭がある。 ● 申請書類の作成などが面倒という理由で就学援助を申請しないケースもある。 ● 就学援助を受けている家庭は、集金時に支払えないことが多い。最終的には就学援助のお金の中から徴収することになる。 ● 必要な学習道具、教材について高額なものについては、学校貸与のような場合もある。
○進学に対する不安に関すること	● 親が「高校なんて行かなくても良い」という考え方だと、子どもはさらにモチベーションが下がる。 ● 貧困家庭でも、親が子どもの教育や社会とのつながり方を真剣に考えている家庭はやはり違う。親に対する意識づけが必要である。 ● どの子も高校に行きたいという気持ちはある。 ● 高校に入学しても、その後授業料が払えず、辞めざるを得ない人もいる。 ● 給付型奨学金などの制度があることを知らない人が多い。案内文が日本語で、読めない人が多い。
○学習支援事業に関すること	● 常時来る子は一生懸命勉強する子ばかりである。 ● 学習支援の場に来ている子どもはみな頑張っており、手ごたえを感じている。 ● 「貧困家庭の子どものための学習支援」という看板を掲げると、人の目を気にして、かえって来にくくなる。 ● 貧困状況にあることを周囲に知られたくないという思いがあり、学習支援の参加者は少ないらしい。 ● 自宅が遠くて来れない子どもがいる。 ● 学習支援の場が子どもたちの居場所になっている。 ● 中学校単位で学習支援をおこなっているが、小学校からの学習支援も必要である。

(2) 生活支援等に関すること

分類項目	ヒアリング調査の結果（まとめ）
○ひとり親世帯の状況に関すること	● 貧困状況にある家庭が増えているという実感はない。 ● 就学援助を受けている家庭は、ひとり親家庭、転入してきた家庭、自営業の家庭が多い。経済的にかなり苦しいのに受給対象にならない家庭もある。 ● ひとり親家庭が多く、近所に頼る先がなく母親が一人で子育てをしているケースが多い。 ● ひとり親家庭が多いが、子どもに不便を掛けたくないよう頑張っている印象である。 ● 就学援助を受けている家庭は子どもの数が多い傾向がある。 ● ひとり親家庭等日常生活支援事業を利用する人は、1日8時間という利用の上限を越えないよう工夫しながら、目いっぱい利用している人が多い。
○問題のある家庭に関すること	● 実質的にはひとり親だが、法的には離婚が成立していないという人は、ひとり親家庭等日常生活支援事業は受けられないので、経済的な困窮がより深刻である。 ● 一見普通の家庭に見えるが、両親が不仲で家庭内別居のような形になっており、家庭環境が複雑で、不登校になっている子どもがいる。 ● 家庭の状況が不安定になると子どもも不安定になり、荒れるか不登校という形で出てくる。 ● 生活が乱れている家庭は、近くに親戚縁者がいないか、いても頼れない状況にあることが多い。 ● ネグレクトや虐待のある家庭は核家族で、近くに祖父母がいないことが多く、地域でも孤立しがちである。 ● 校区外の祖父母宅から通っているなど、家庭の事情が複雑な家庭もある。 ● 子どもの障がいがあった時点で離婚するケースが多い。そうになると、たちまち経済的に困窮する。 ● 外国籍の人は、日本で生活できなくなったら母国に帰ればいいと思っている人が多い。 ● みんなの食堂に来れる人はまだ良い。来られない人のほうが深刻な問題を抱えていることが多い。そこにいかにアプローチするか。
○子どもの自己肯定感に関すること	● 保育士が傍についていないと何もできず、常に不安な顔をしている子がいる。 ● 家庭での愛情不足からか、教師に甘えたり、やたらスキンシップをしたりする子どもがいる。 ● 自己肯定感が低いからではなく、承認欲求が満たされていないことが要因として大きいと思う。 ● 小学校5～6年生くらいになると、自分の過去と将来が見えてきて、自分の置かれている状況に矛盾を感じるようになる。 ● どちらかと言うと、経済的に裕福な家庭のほうが引きこもりが多い。

分類項目	ヒアリング調査の結果（まとめ）
	● 10 歳代のころに恵まれない家庭環境であったり、学校に馴染めなかったり、メンタルが傷ついた子をきちんとケアしないと、20 歳を越えてから不適合や引きこもりになる。
○親らしくない親に関すること	● 保護者自身が子どもの頃にしてもらってこなかったら、子どもにもしないという連鎖がある。 ● 自己肯定感が低い親に育てられた子どもは、自己肯定感が低くなると言われている。 ● 子どもの育て方がわからない保護者が増えている。駄目なことを駄目と言えない。子どもに我慢させることを教えない。道徳性の貧困である。 ● 子どものことは子どもに任せると言いつつ、面倒なことから手を離している。一方で、子どもの言うことだけを信じて判断する、保護者らしくない保護者が以前に比べ増えている。 ● 自分自身が注目を浴びたいという精神的に未発達な親に育てられると、子どもの自己肯定感が低くなる。 ● 仕事があるという大義名分をもって子どもを預けるが、その分、子どもと一緒に過ごす時間が減っていることを認識していない親が多い。
○生活の乱れに関すること	● 親が夜遅くまで働いていて、朝起きるのが遅いため、子どもが学校に遅刻したり、朝食を食べてこなかったりする家庭がある。 ● 家族で食卓を囲み、食事をしている形跡がない。 ● 親が朝食を食べる習慣がないと、親が朝食を作らないので、牛乳、ドーナツ、フルーツだけという家庭が多い。登園途中の車で朝食をとる子どもも少なくない。 ● 給食をたくさん食べる子がおり、家庭で十分な食事をとっていないのではないかと思われる。 ● 夏休みは給食がないので心配である。 ● 学童保育に持ってくるお弁当がコンビニで買ったおにぎりや菓子パンという家庭がある。 ● 野菜嫌いで、好き嫌いが多い子どもが多い。干物など食べ慣れてないものには手を出さない。 ● 食べたことがない、見たことがない、やったことがないなどの経験不足が、能力の形成に大きく影響する。 ● 幼稚園に上がるまでに基本的な生活リズムを身につけさせていない家庭が多く、小学校でじっと座って勉強することができない子どもが多いと聞く。 ● 多子家庭で、下の子が熱を出した時などは、送迎が大変ということで幼稚園を休ませる家庭がある。
○子どもの放任に関すること	● 両親が共働きで子どもに手が回らず、朝食は用意して、子どもに声をかけて出勤するが、子どもが起きて学校に行くのを見届けないので、結局登校しない。 ● ひとり親家庭では放任になりがちになるので、他の子に比べ、外を出歩くことが多くなる。

分類項目	ヒアリング調査の結果（まとめ）
	● 母子家庭で、母親が出張等で留守にすることも多く、高校生の兄がご飯を作ったり、兄弟で家事を分担したりしている。 ● 小さな弟や妹の面倒を見なければならず、教科書やノートを破られるなど勉強する環境にない子がいる。 ● 母親が下の子の世話を年の離れた上の子に任せきりにしている家庭がある。
○医療や健康に関すること	● 歯医者には、予約をするのが面倒という理由で、子どもをなかなか連れて行かない家庭もある。 ● 子どもが熱を出しても病院に連れて行かない親も多い。受診すると、数日間静養が必要と言われることがあるので、仕事を休むのが嫌で受診しないらしい。 ● 状況の厳しい家庭は、母親自身が精神的なケアを必要とする場合が多い。
○モノや生活環境の充足度に関すること	● 経済的に苦しい中でも、子どもの進路を考えて教育にお金をかける人もいれば、スマホや車など嗜好品にお金をかける人もいる。 ● 収入があっても貧困状況にある人は、自分を律することができない。 ● 給食費等を滞納しているのに、飛行機を使って遠方に出かけたりする家庭もある。 ● お金の使い方が日本人とは違う外国籍の人がいる。計画性がなく、お金が入ると服や色々な物を買って、しばらくすると電気が止められているという具合である。
○心の貧困、文化的な貧困に関すること	● 就学援助を受けていない家庭の中にも、支払いがかなり滞る家庭はある。生活が困窮しているわけではなく、お金にルーズな家庭である。そういう家庭は親が昼夜逆転していて、それが原因で子どもが学校に来づらい状況になっていることが多い。 ● 経済的な貧困だけでなく、情緒の欠如、人としてあるべきところからの逸脱といった心の貧困もある。 ● 子どものことより自分の服や家の調度品にお金をかける保護者はたまにいる。感覚が人とは違う。 ● 生活環境が乏しい、困り感があるという家庭も、子どもに対し必要な養育ができていないという意味では貧困家庭と言えるかもしれない。

(3) 地域社会とのかかわりに関すること

分類項目	ヒアリング調査の結果（まとめ）
○地域社会とのかかわりについて	● 厳しい状況にある人は、人とつながりにくい人が多い。人と関わるにはエネルギーが必要だが、そのエネルギーすらない状況である。 ● 外との関わりを一切シャットアウトしている家庭にとって、子どもが通う学校は唯一の社会との接点となる可能性がある。 ● 自分のことで精一杯で、地域や他の家庭とつながっていないため、SOSを出すところがない。唯一つながることができるのは学校である。 ● 外国籍の人は言語の問題でコミュニケーションが取りにくいいため子ども会等に入らず、地域との接点がない家庭も見られる。 ● 問題のある家庭の親は、他の親との関係が希薄である。しかし、実は、話を聞いてもらいたいという思いを持っている。 ● 旗持ちをしてくれる地域の方には、子どもの様子にも気づいてもらいやすい。 ● 一番良いのは、地域の人たちが子どもたちに気軽に声をかけ、話を聴いてあげたり、フォローしたりする環境づくりである。 ● 地域で埋もれている貧困家庭を見つけるには、地域住民からの情報提供が必要である。地区によっては、まちづくり協議会との連携があるところもある。
○子ども同士のかかわりについて	● 子どもたちの人間関係は、多くの場合、特に問題ない。 ● 家庭で十分満たされてないと、子どもどうしの関係にも影響が出てくるように思う。 ● まわりの友だちに家の状況を話すことができず、しんどい思いをしている子もいると思う。 ● どちらかという人と人の関わりが苦手で、友だちはそれほど多くなく、学校に来たら、それなりに周囲との関わりはあるが、積極的に関わることは少ない。 ● 友だちの家で勝手に冷蔵庫を開ける、帰りなさいと言っても帰らない、遊びの中での共通ルールが認識できないというように、人との関わり方がわからない子どもがいる。 ● 引きこもっている子どもだけでなく、社会に出てはいるがしんどい思いをしている子どもについても支援していく必要がある。

(4) 行政の支援制度、及び必要となる施策に関すること

分類項目	ヒアリング調査の結果（まとめ）
○相談に関する こと	● 保護者があまり状況を理解せず、危機感を持ってくれないことがある。相談機関に繋げようとしても、保護者にその気がないとなかなか繋がってもらえない。 ● 相談したくてもどこに相談したらよいかわからないという保護者が増えている。
○支援制度・助成 などに関するこ と	● 福祉の問題の中には教育に関わるものも多く、そういう問題に教育側がもっと関わっていかなければならない。

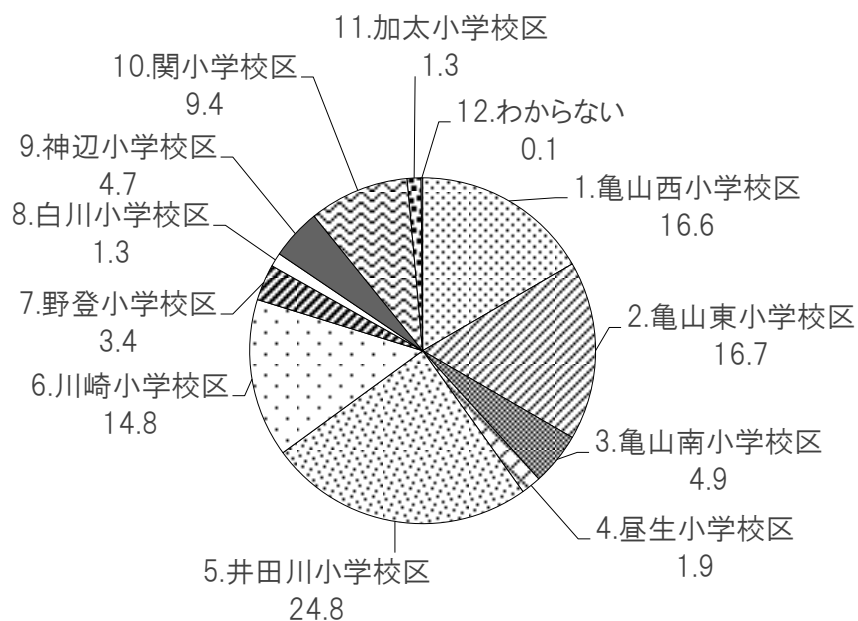
Ⅲ アンケート調査結果

(1) お子さんとご家族の状況について

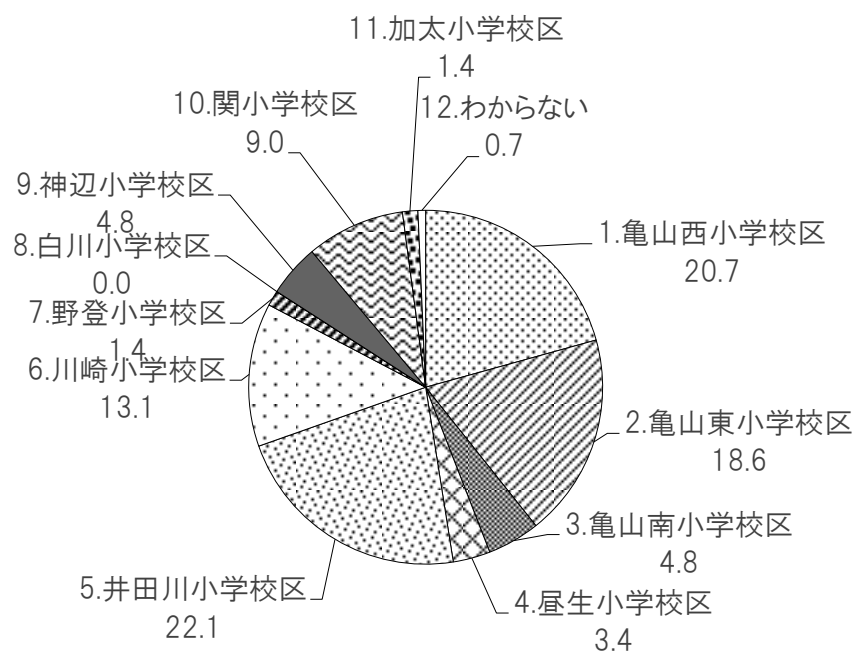
問 現在どちらの小学校区にお住まいですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 1	問 1	問 1	問 1
N 値	1,127	532	433	145

〔全体調査 (N=2, 092)〕



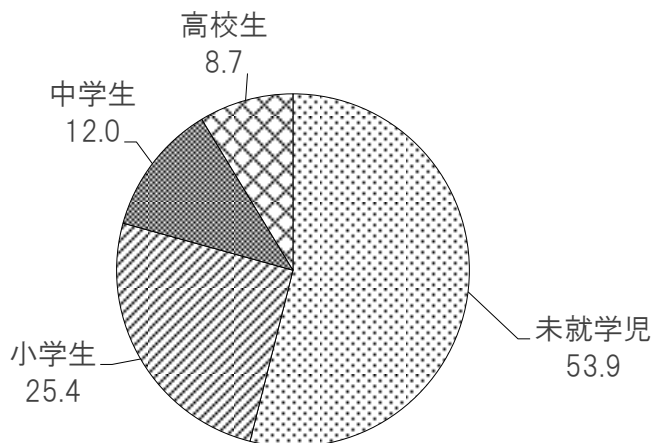
〔支援利用者調査 (N=145)〕



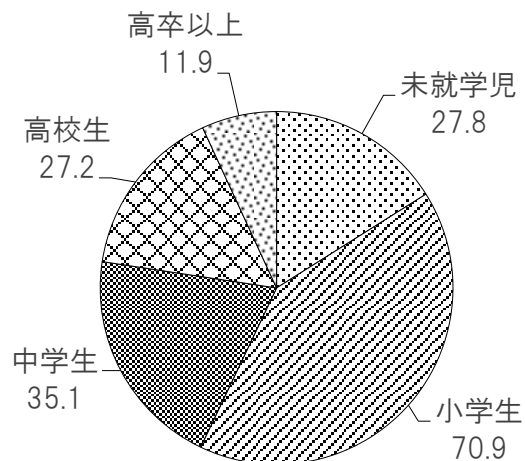
問 お子さんの年齢・学年をお答えください。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 2	問 2	問 2	問 2
N 値	1,128	531	433	151

〔全体調査 (N=2,092)〕



〔支援利用者調査 (N=151)〕

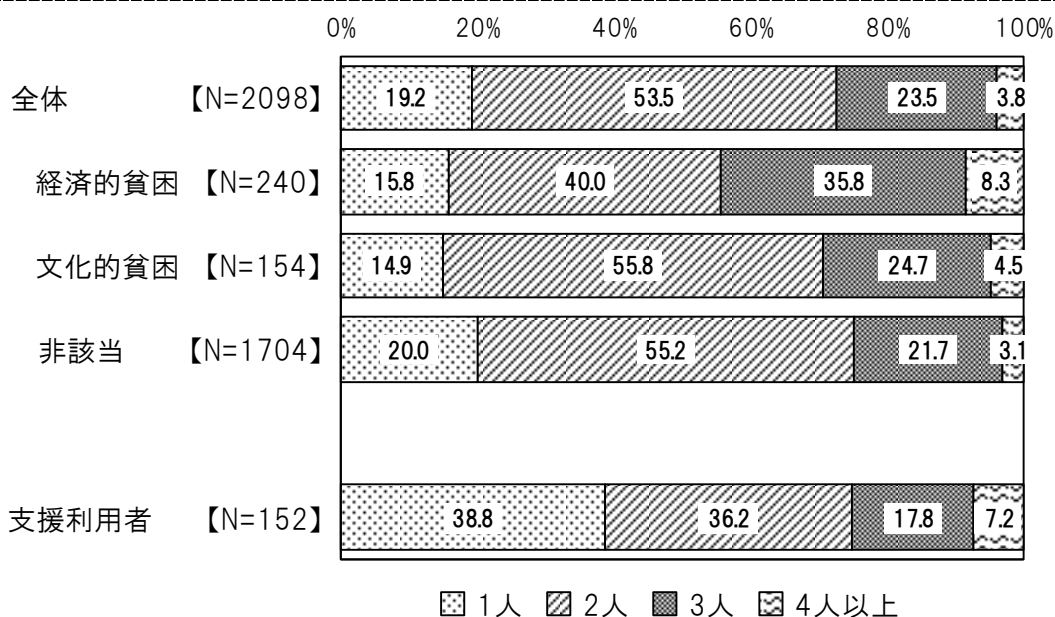


問 お子さんは何人いらっしゃいますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 3	問 3	問 3	問 3
N 値	1,130	532	436	152

子どもの人数については、『文化的貧困』『非該当』については「2人」が約5割を占めています。一方、『経済的貧困』では「3人」が35.8%と、他に比べて多くなっています。

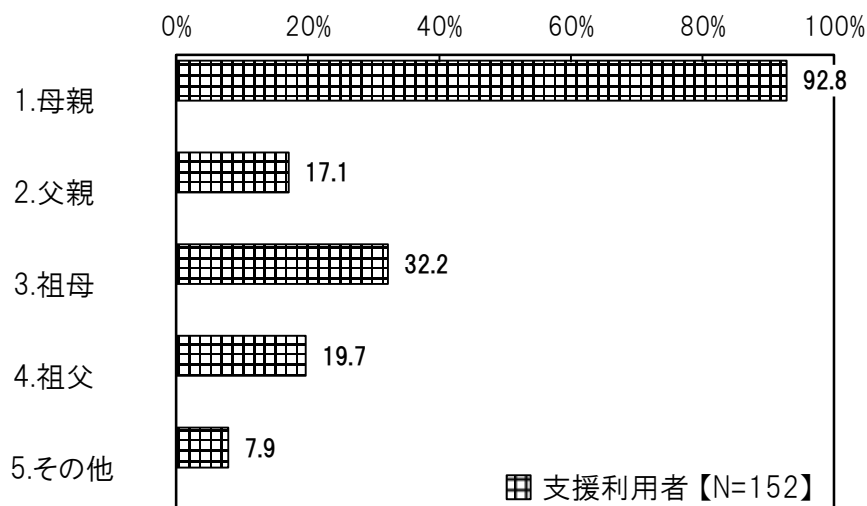
『支援利用者』では「1人」の割合が最も多く、38.8%となっています。



問 お子さんと同居されているご家族はどなたですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 4
N 値				152

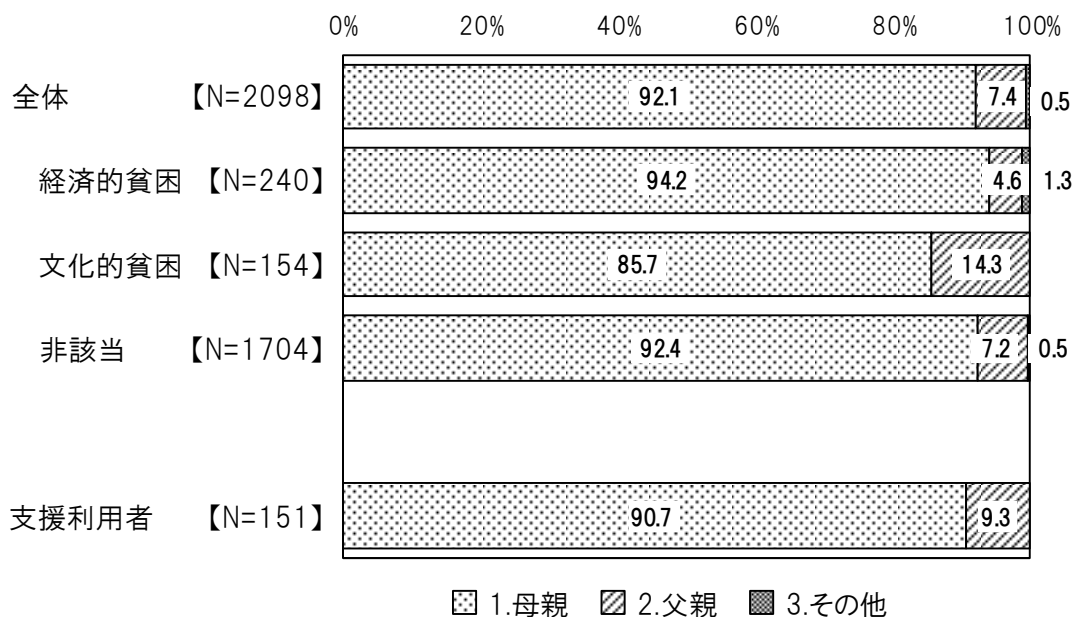
『支援利用者』の同居家族については、「父親」の同居が非常に少なく 17.1%にとどまり、母親とのひとり親家庭が多いことがうかがえます。また、「祖母」「祖父」の同居が比較的多くなっています。



問 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 4	問 4	問 5	問 5
N 値	1,130	532	436	151

いずれの区分も、回答者の多くが「母親」となっています。

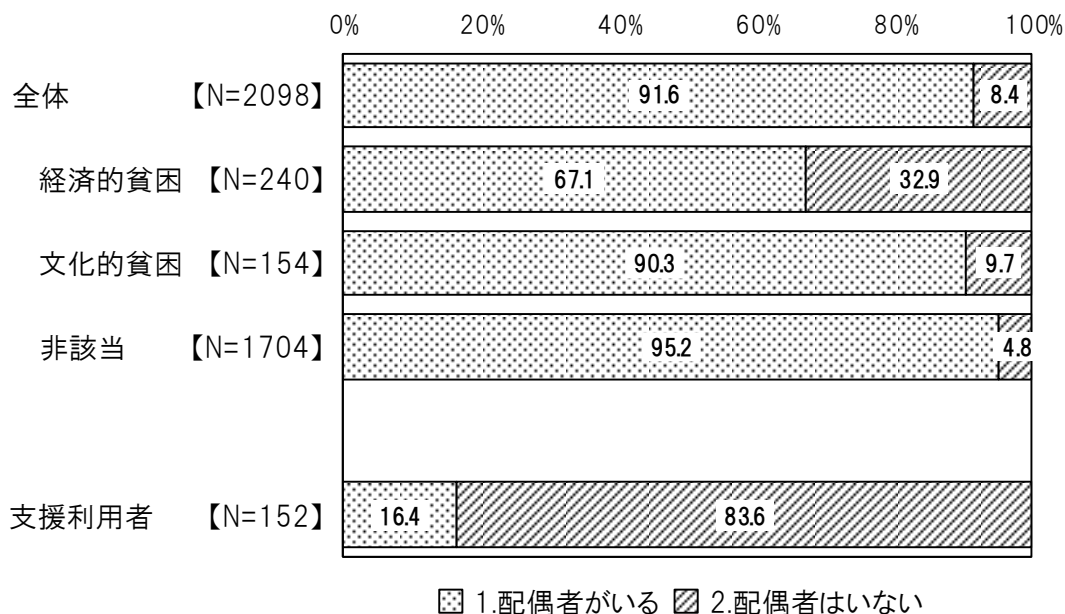


問 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 5	問 5	問 6	問 6
N 値	1,130	532	436	152

配偶関係については、『文化的貧困』『非該当』では9割以上が「配偶者がいる」となっているのに対し、『経済的貧困』では32.9%が「配偶者はいない」となっています。

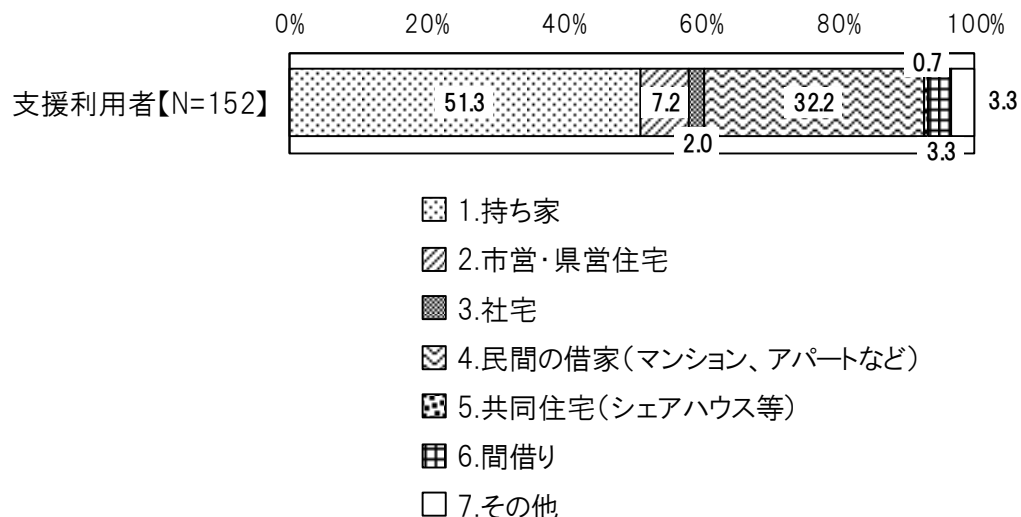
『支援利用者』では83.6%が「配偶者はいない」となっています。



問 現在の住居の状況についてお答えください。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 7
N 値				152

『支援利用者』の住居の状況については、「持ち家」が51.3%を占め、「民間の借家」が32.2%に上ります。

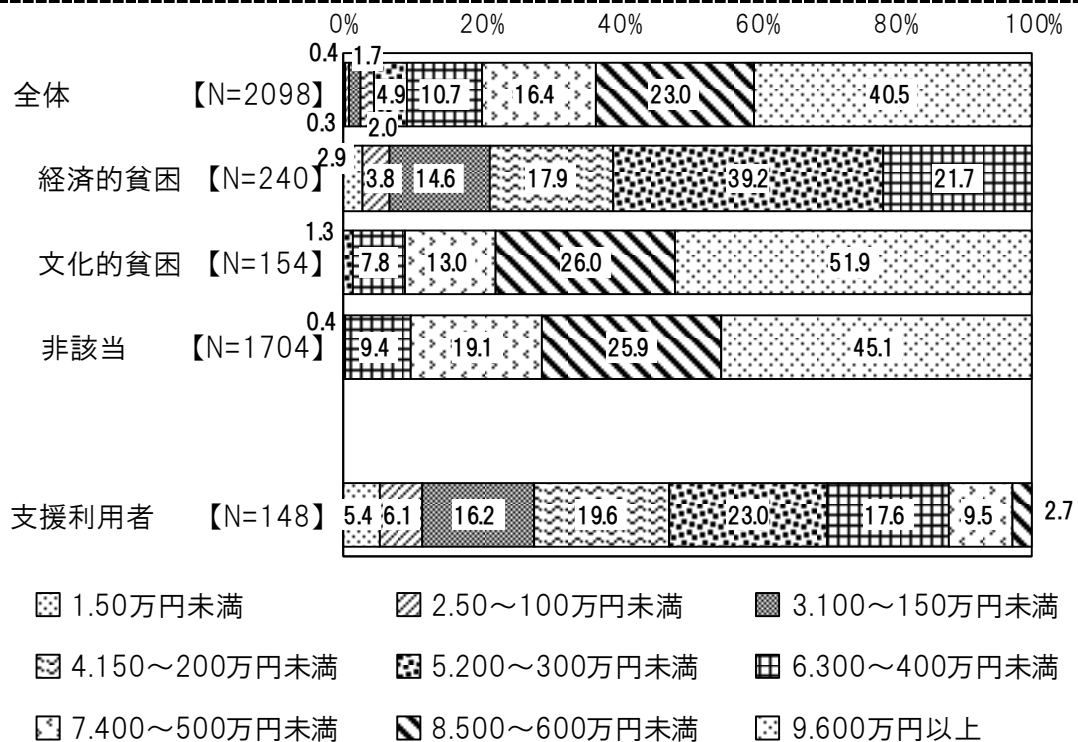


問 お子さんと家計を共にするご家族全員の年間収入は、およそどれぐらいですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 7	問 7	問 7	問 8
N 値	1,130	532	436	148

世帯収入については、『非該当』『文化的貧困』では「600 万円以上」が最も多く、400 万円以上が約 9 割に上る一方、『経済的貧困』では「200～300 万円」が 39.2%と最も多く、400 万円以上は 0%となっています。

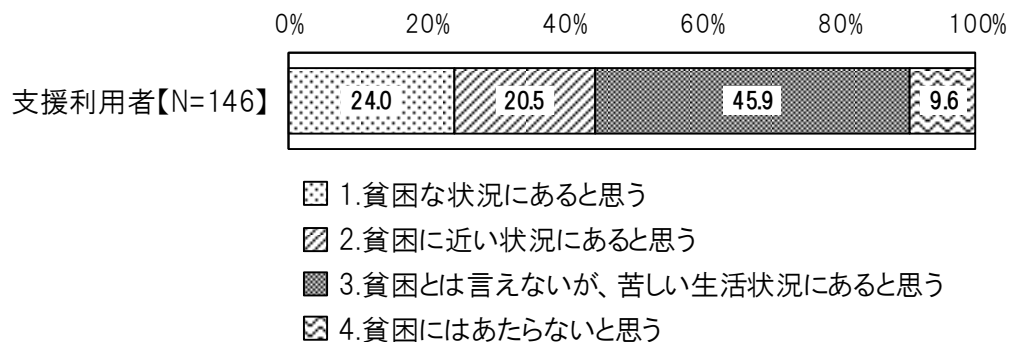
『支援利用者』では「200～300 万円」が 23.0%と最も多く、400 万円以上は約 1 割となっています。



問 お答えいただいた年間収入からみて、現在、あなたのご家庭は「貧困」とされる状況にあると思いますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 9
N 値				146

『支援利用者』が「貧困」とされる状況かどうかについて、「貧困とは言えないが苦しい生活状況」が 45.9%に上り、「貧困な状況」「貧困に近い状況」も合わせて 44.5%であり、約 9 割が生活状況を「貧困」または苦しいと感じていることがうかがえます。



『支援利用者』を貧困層区別にみると、『経済的貧困』では「貧困な状況」が 27.5%に上ります。一方、『文化的貧困』『非該当』では「貧困にはあたらない」がそれぞれ 22.2%、18.2%となっています。

【支援利用者／貧困層区別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1. 貧困な状況にあると思う	27.5	22.2	15.2
2. 貧困に近い状況にあると思う	19.6	22.2	21.2
3. 貧困とは言えないが、苦しい生活状況にあると思う	47.1	33.3	45.5
4. 貧困にはあたらないと思う	5.9	22.2	18.2
N値(人)	102	9	33

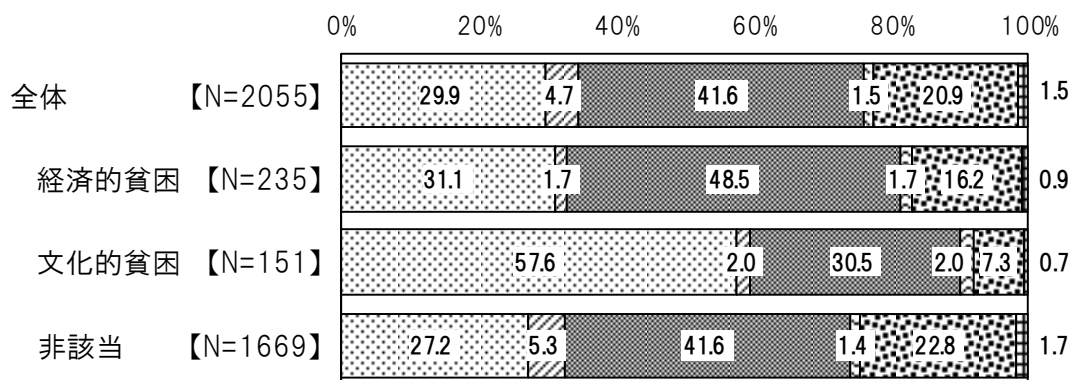
※本調査における「貧困層区分」は、調査項目から把握できる範囲内での便宜的な区分によるものです（9 ページ参照、以下同じ）。

問 お子さんの母親の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をお答えください。

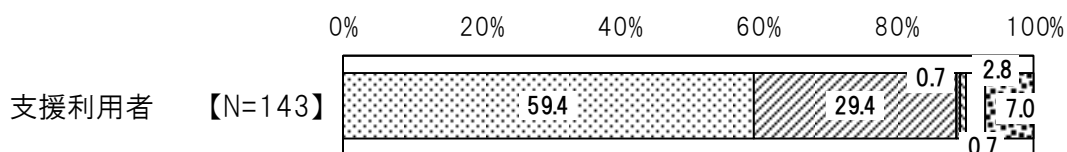
種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 10	問 10	問 8	問 10
N 値	1,120	523	412	143

母親の就労状況については、『文化的貧困』では「フルタイム」が 59.6%に上っています。また、『経済的貧困』では「パート・アルバイト等」が 50.2%と半数を占めています。一方、『非該当』では「就労していない」が 22.8%と、他に比べて多くなっています。

『支援利用者』については「フルタイム」が 59.4%に上り、「就労していない」は 7.0%にとどまっています。



- 1. フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- 2. フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- 3. パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- 4. パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- 5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
- 6. これまで就労したことがない



- 1. フルタイムで就労している
- 2. パート・アルバイト等で就労している
- 3. フルタイムに加え、パート・アルバイト等でも就労している
- 4. 複数のパート・アルバイト等で就労している
- 5. その他
- 6. 就労していない

『支援利用者』を子どもの年齢別にみると、就学前児童では「フルタイム」と「パート・アルバイト等」がほぼ同率であり、年齢が高まるにつれて「フルタイム」の割合が高まります。

【支援利用者／子どもの年齢別集計】

	就学前児童	小学生	中高生
1.フルタイムで就労している	44.4	53.8	67.1
2.パート・アルバイト等で就労している	41.7	35.0	26.3
3.フルタイムに加え、パート・アルバイト等でも就労している	2.8	-	-
4.複数のパート・アルバイト等で就労している	-	-	1.3
5.その他	2.8	2.5	2.6
6.就労していない	8.3	8.8	2.6
N値(人)	36	80	76

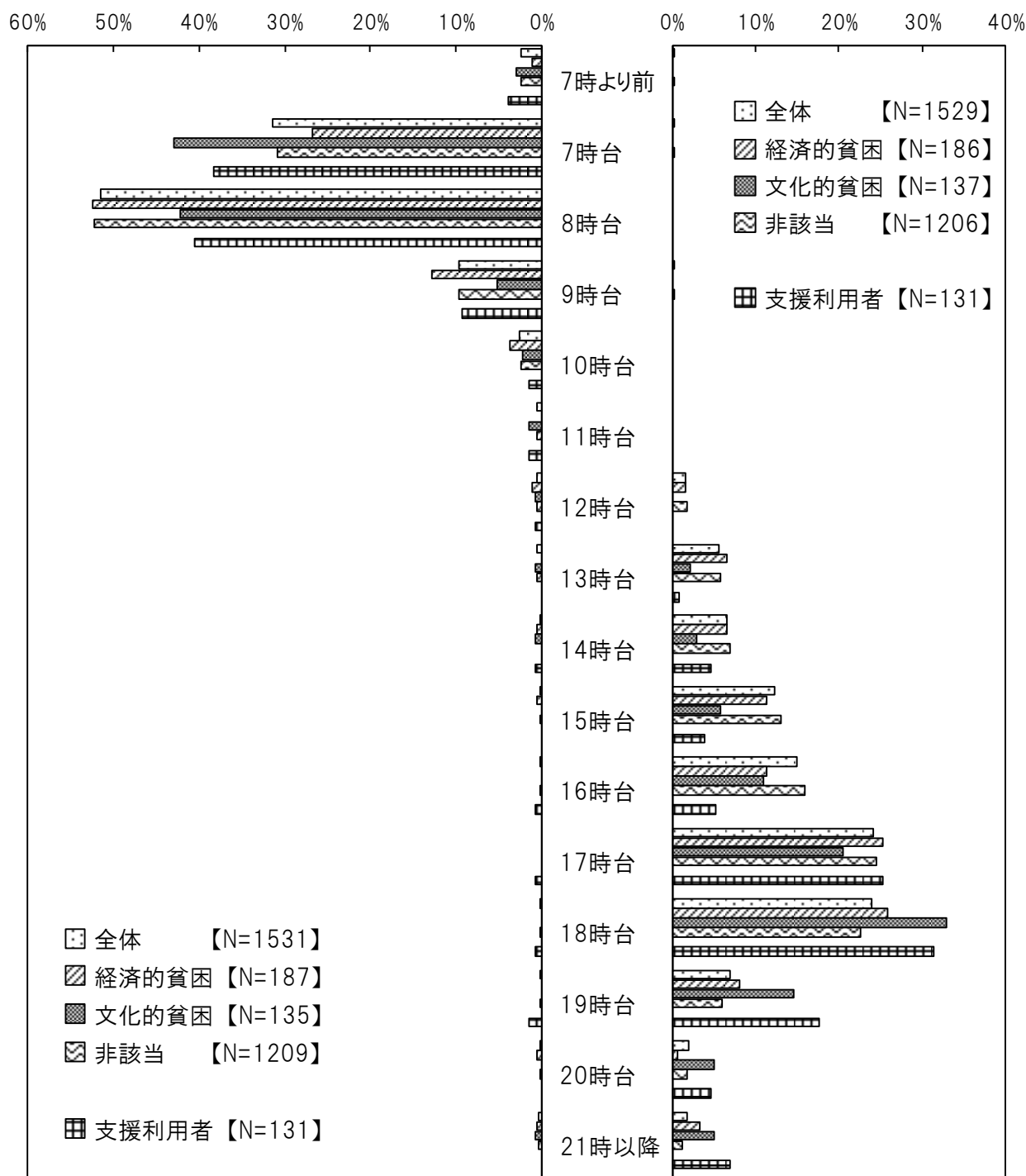
問 「1」～「5」に○をつけた方にうかがいます。

ふだん、就労のために家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 11(2)	問 11(2)	問 8-①	問 10-①
N 値	788(出る時刻) 786(帰宅時刻)	393	350	131

就労のために家を出る時刻は、「8 時台」が最も多く、「7 時台」が続きます。帰宅時刻は「18 時台」「17 時台」が多いですが、「12 時台」から「21 時以降」までばらつきがみられます。『文化的貧困』については、「フルタイム」が多いためか「18 時台」「19 時台」が比較的多く、他の区分よりも長時間労働になっていることがうかがえます。

『支援利用者』についても、「フルタイム」が多いためか「19 時台」が多く、長時間労働になっていることがうかがえます。

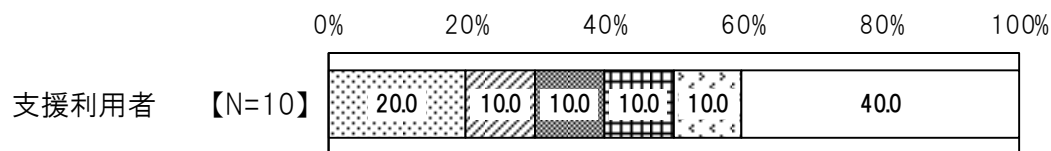


問 「6」に○をつけた方にうかがいます。

現在働いていない理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 10-②
N 値				10

(※人数が少なく、傾向がつかめなため、集計結果のみ掲載します。)



- ☒ 1.まだ子どもが小さいから
- ☒ 2.保育サービスが利用できないから
- ☒ 3.働きながら子育てできる適当な仕事がないから
- ☒ 4.自分の知識、能力にあう仕事がないから
- ☒ 5.家族の考え方等就労する環境が整っていないから
- ☒ 6.家族の介護や看護などの理由で働けないから
- ☒ 7.自分の病気や障がいなどの理由で働けないから
- ☐ 8.その他

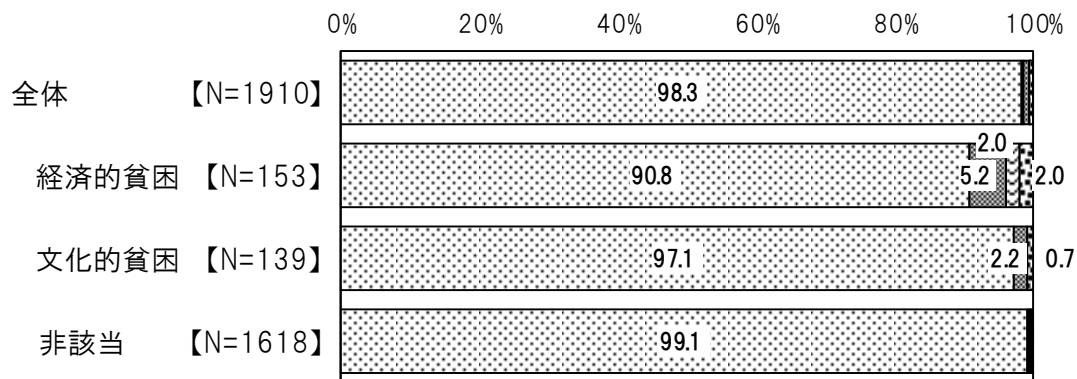
【支援利用者／子どもの年齢別集計】

	就学前児童	小学生	中高生
1.まだ子どもが小さいから	33.3	14.3	-
2.保育サービスが利用できないから	33.3	-	-
3.働きながら子育てできる適当な仕事がないから	-	14.3	-
4.自分の知識、能力にあう仕事がないから	-	-	-
5.家族の考え方(親族の理解が得られない)等就労する環境が整っていないから	-	-	-
6.家族の介護や看護などの理由で働けないから	-	14.3	50.0
7.自分の病気や障がいなどの理由で働けないから	-	-	50.0
8.その他	33.3	57.1	-
N値(人)	3	7	2

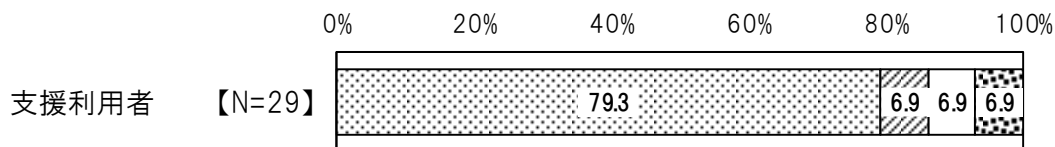
問 お子さんの父親の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をお答えください。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 14	問 14	問 9	問 11
N 値	1053	482	375	29

父親の就労状況については、いずれの区分においても「フルタイム」が多くなっています。



- ☒ 1. フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ☒ 2. フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- ☒ 3. パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
- ☒ 4. パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
- ☒ 5. 以前は就労していたが、現在は就労していない
- ☒ 6. これまで就労したことがない



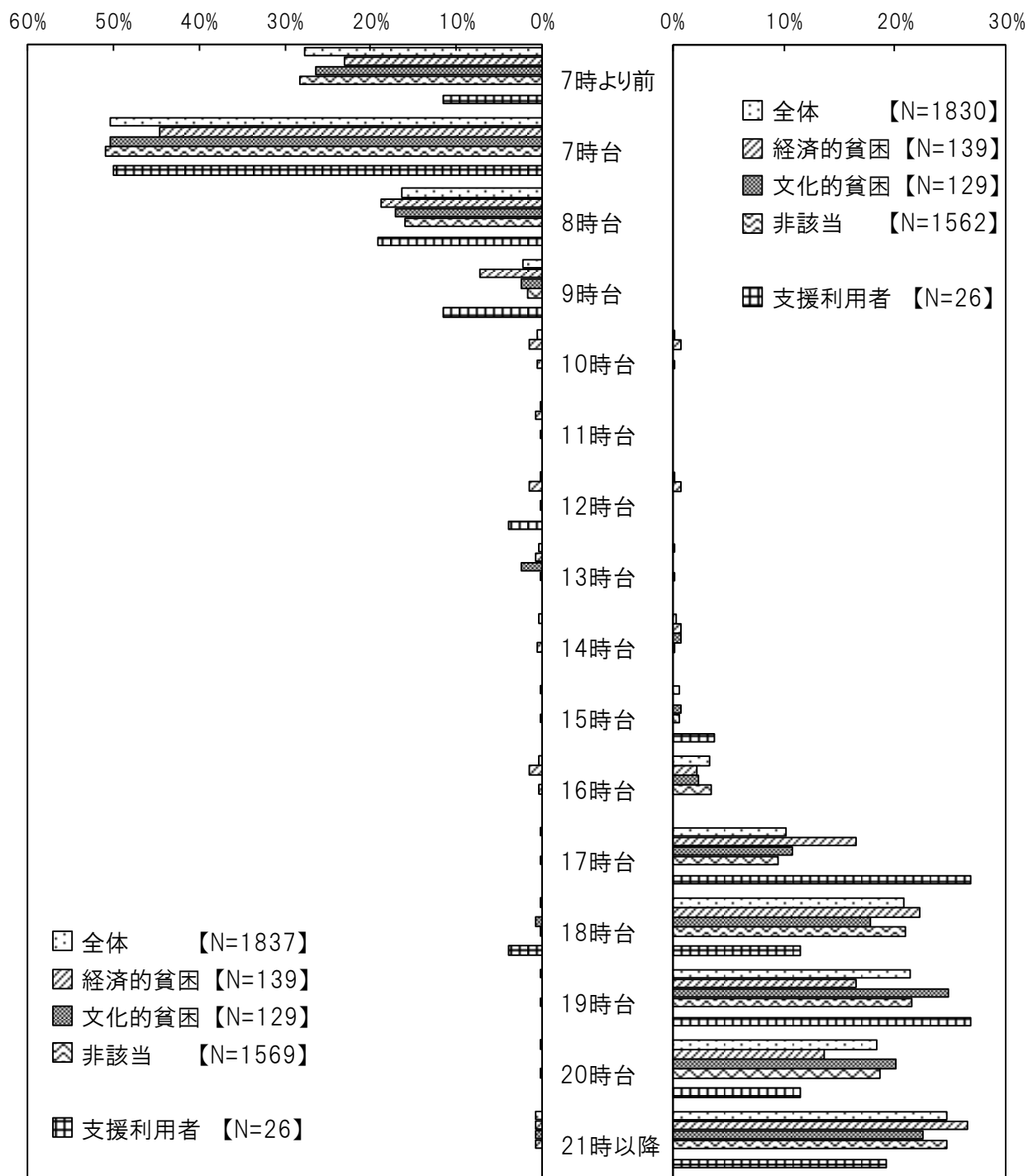
- ☒ 1. フルタイムで就労している
- ☒ 2. パート・アルバイト等で就労している
- ☒ 3. フルタイムに加え、パート・アルバイト等でも就労している
- ☒ 4. 複数のパート・アルバイト等で就労している
- ☐ 5. その他
- ☒ 6. 就労していない

問 「1」～「5」に○をつけた方にうかがいます。

ふだん、就労のために家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 15(2)	問 15(2)	問 9-①	問 11-①
N 値	1017(出る時刻) 1013(帰時刻)	458(出る時刻) 456(帰時刻)	362(出る時刻) 361(帰時刻)	26

就労のために家を出る時刻は、「7 時台」が最も多く、「7 時より前」も多くなっています。帰宅時刻は「17 時台」から「21 時以降」までばらつきがみられます。

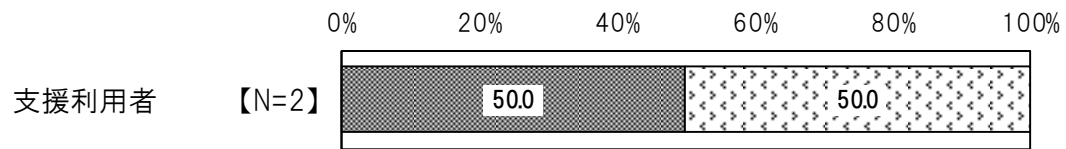


問 「6」に○をつけた方にうかがいます。

現在働いていない理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 11-②
N 値				2

(※人数が少なく、傾向がつかめないため、集計結果のみ掲載します。)



- ☒ 1.まだ子どもが小さいから
- ☒ 2.保育サービスが利用できないから
- ☐ 3.働きながら子育てできる適当な仕事がないから
- ☐ 4.自分の知識、能力にあう仕事がないから
- ☐ 5.家族の考え方等就労する環境が整っていないから
- ☐ 6.家族の介護や看護などの理由で働けないから
- ☐ 7.自分の病気や障がいなどの理由で働けないから
- ☐ 8.その他

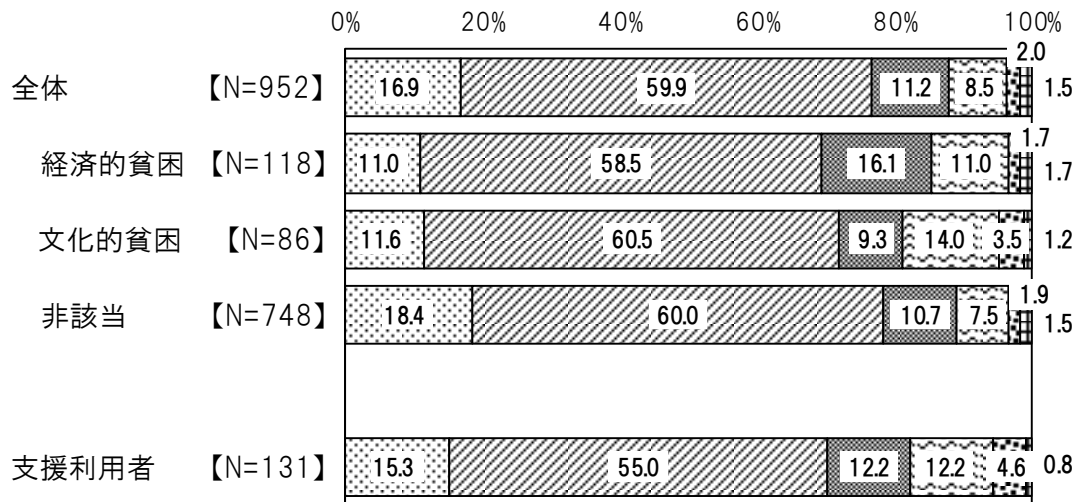
(2) お子さんの学校や学習の状況について

問 お子さんは、学校での授業は理解できていますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号		問 25	問 10	問 29
N 値		529	423	131

子どもの学校での授業への理解については、『非該当』では「十分」と「まあ」を合わせた理解できていると答えた肯定的回答が約8割となっています。一方、『文化的貧困』では「あまり」または「ほとんど」理解できていないと答えた否定的回答が17.5%と、他に比べて多くなっています。

『支援利用者』では肯定的回答が約7割となっており、否定的回答は16.8%となっています。



1. 十分理解できている 2. まあ理解できている
 3. どちらとも言えない 4. あまり理解できていない
 5. ほとんど理解できていない 6. 分からない

子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』の小学生は『全体』の小学生に比べて「十分」がやや少なく、「あまり」または「ほとんど」理解できていないと答えた否定的回答が若干多くなっています。また、『支援利用者』の中高生は『全体』の中高生に比べて肯定的回答が9.1ポイント少なく、逆に否定的回答が12.1ポイント多くなっています。

【子どもの年齢別集計】

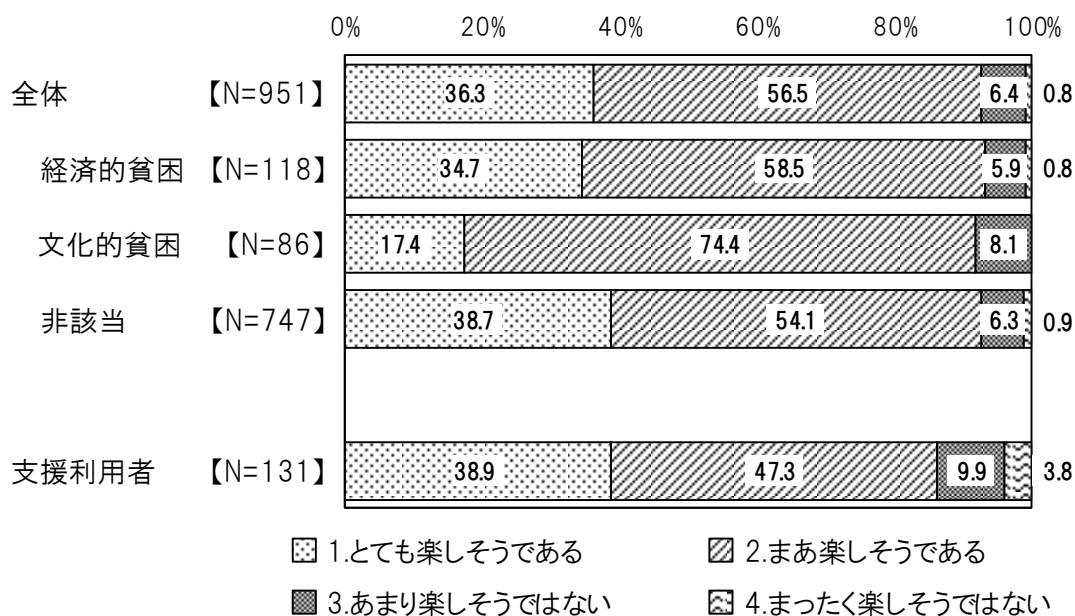
	全体調査		支援利用者調査	
	小学生	中高生	小学生	中高生
1. 十分理解できている	21.1	11.9	16.3	13.7
2. まあ理解できている	61.5	58.0	60.0	47.1
3. どちらとも言えない	10.4	12.6	12.5	11.8
4. あまり理解できていない	5.6	11.4	8.8	17.6
5. ほとんど理解できていない	0.5	3.9	1.3	9.8
6. 分からない	0.9	2.3	1.3	-
N値(人)	550	438	80	51

問 お子さんは、学校に通うことが楽しそうですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号		問 26	問 11	問 30
N 値		528	423	131

子どもが学校に通うことが楽しそうかどうかについては、「とても」と「まあ」を合わせた楽しそうと答えた肯定的回答が、いずれの区分でも 90%以上になっています。一方、『文化的貧困』では「とても楽しそうである」と回答した割合が 17.4%と、他の区分では 3 割を超えているのに対し、低くなっています。

『支援利用者』については、肯定的回答が 86.2%となっています。また、「あまり」と「まったく」を合わせた否定的回答は 13.7%と、1 割を超えています。



子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』の小学生は『全体』の小学生と比べて大きな差ではないものの、『支援利用者』の中高生は『全体』の中高生に比べて、「あまり」と「まったく」を合わせた否定的回答が 12.5 ポイント多くなっています。

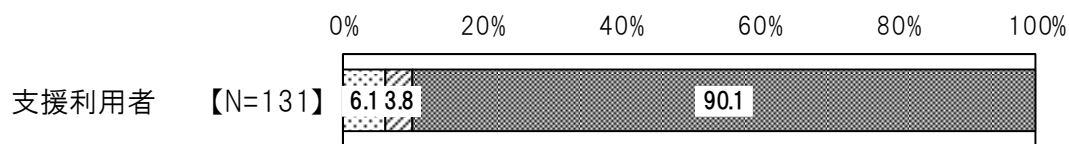
【子どもの年齢別集計】

	全体調査		支援利用者調査	
	小学生	中高生	小学生	中高生
1.とても楽しそうである	40.3	31.5	46.3	27.5
2.まあ楽しそうである	55.6	57.5	46.3	49.0
3.あまり楽しそうではない	4.0	9.4	6.3	15.7
4.まったく楽しそうではない	0.2	1.6	1.3	7.8
N値(人)	549	438	80	51

問 お子さんには、不登校の経験がありますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 31
N 値				131

『支援利用者』の子どもの不登校の経験については、現在と以前とを合わせて、9.9%が「ある」と回答しています。



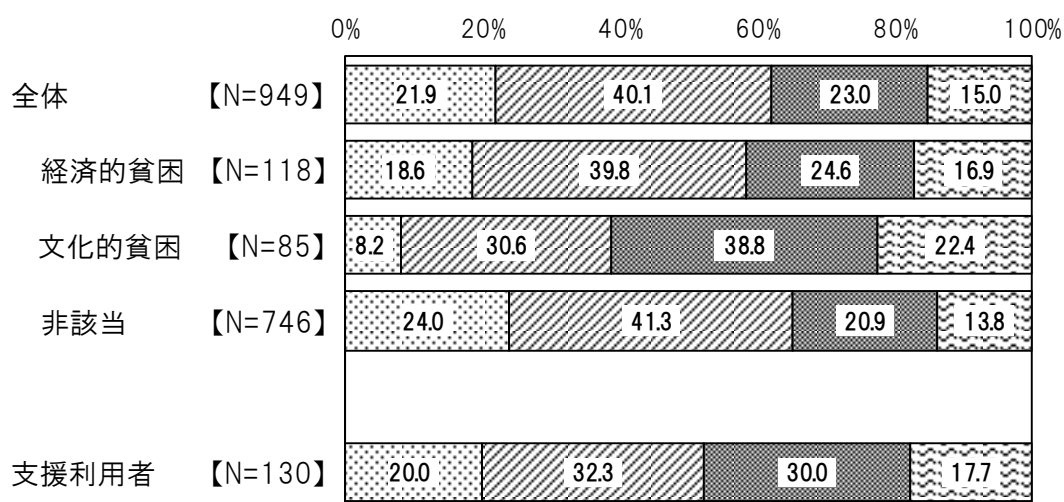
- 1.現在不登校の状態にある
- 2.以前、不登校の状態になったことがある
- 3.ない

問 あなた（回答されている方）や配偶者の方は、家でお子さんの勉強を見ることはありますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号		問 27	問 12	問 32
N 値		528	421	130

保護者が家で子どもの勉強を見るかどうかについては、「よく」と「たまに」を合わせた見ていると答えた肯定的回答が、『非該当』では 65.3%と他に比べて多くなっていますが、『文化的貧困』では 38.8%と他に比べて少なくなっています。

『支援利用者』については、肯定的回答が 52.3%となっており、「あまり」と「まったく」を合わせた否定的回答が 47.7%となっています。



- 1.よく見ている
- 2.たまに見ている
- 3.あまり見ていない
- 4.まったく見ていない

子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』の小学生は『全体』の小学生と「あまり」と「まったく」を合わせた否定的回答が13.7ポイント多くなっています。また、『支援利用者』の中高生は『全体』の中高生に比べて、否定的回答が12.0ポイント多くなっています。

【子どもの年齢別集計】

	全体調査		支援利用者調査	
	小学生	中高生	小学生	中高生
1.よく見ている	35.3	5.3	31.3	2.0
2.たまに見ている	48.3	30.7	38.8	22.0
3.あまり見ていない	13.8	33.5	23.8	40.0
4.まったく見ていない	2.6	30.5	6.3	36.0
N値(人)	549	436	80	50

『支援利用者』を母親の就労状況別にみると、フルタイムでは否定的回答が50.0%に上り、パート・アルバイト等の41.2%を上回っています。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

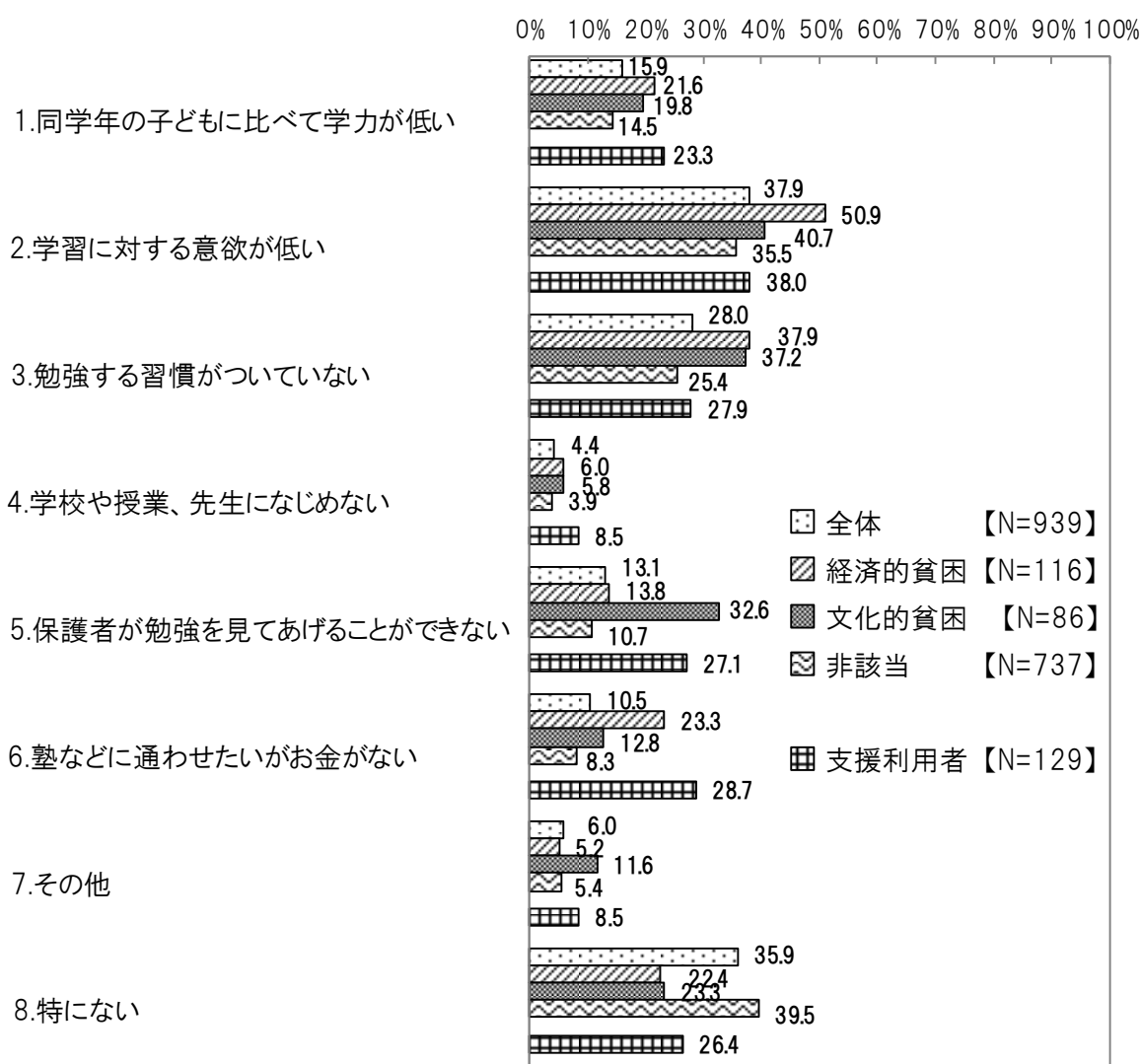
	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.よく見ている	17.1	23.5	-	-	25.0	57.1
2.たまに見ている	32.9	35.3	-	-	25.0	14.3
3.あまり見ていない	30.3	29.4	-	100.0	25.0	14.3
4.まったく見ていない	19.7	11.8	-	-	25.0	14.3
N値(人)	76	34	-	1	4	7

問 お子さんの教育に関して心配なことは何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号		問 28	問 13	問 33
N 値		519	420	129

子どもの教育に関して心配なことについては、『非該当』では「特にない」が最も多くなっていますが、その他の区分では「学習に対する意欲が低い」が最も多く、次いで「勉強する習慣がついていない」となっています。また、『経済的貧困』では「塾などに通わせたいがお金がない」が、『文化的貧困』では「保護者が勉強を見てあげることができない」が、それぞれ他に比べて多くなっています。

『支援利用者』では「学習に対する意欲が低い」が最も多く、次いで「塾などに通わせたいがお金がない」や「保護者が勉強を見てあげることができない」も僅差で続いています。



『支援利用者』を貧困層区分別にみると、『経済的貧困』では「学習に対する意欲が低い」がやや多くなっています。『文化的貧困』では「保護者が勉強を見てあげることができない」「塾などに通わせたいがお金がない」が42.9%と多くなっています。一方、『非該当』では「学習に対する意欲が低い」とともに「塾などに通わせたいがお金がない」も多く、32.0%に上ります。

【支援利用者／貧困層区分別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.同学年の子どもに比べて学力が低い	22.1	14.3	28.0
2.学習に対する意欲が低い	38.9	14.3	40.0
3.勉強する習慣がついていない	28.4	28.6	28.0
4.学校や授業、先生になじめない	10.5	-	4.0
5.保護者が勉強を見てあげることができない	27.4	42.9	24.0
6.塾などに通わせたいがお金がない	26.3	42.9	32.0
7.その他	8.4	-	8.0
8.特にない	25.3	28.6	32.0
N値(人)	95	7	25

『支援利用者』を母親の就労状況別にみると、「保護者が勉強を見てあげることができない」はフルタイム、パート・アルバイト等とともに3割弱に上ります。また「塾などに通わせたいがお金がない」はフルタイムよりもパート・アルバイト等のほうが多く、35.3%に上ります。

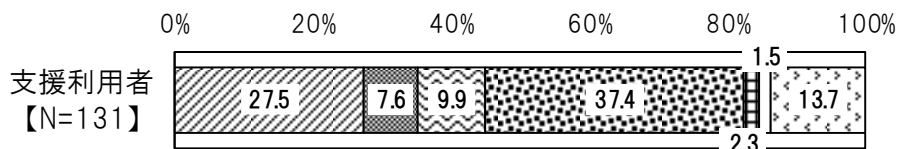
【支援利用者／母親の就労状況別集計】

	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.同学年の子どもに比べて学力が低い	21.3	17.6	-	-	75.0	28.6
2.学習に対する意欲が低い	32.0	41.2	-	100.0	50.0	42.9
3.勉強する習慣がついていない	28.0	26.5	-	-	50.0	28.6
4.学校や授業、先生になじめない	5.3	8.8	-	-	25.0	14.3
5.保護者が勉強を見てあげることができない	28.0	29.4	-	-	-	-
6.塾などに通わせたいがお金がない	26.7	35.3	-	-	-	14.3
7.その他	10.7	2.9	-	-	-	14.3
8.特にない	25	27	-	-	25	43
N値(人)	75	34	-	1	4	7

問 お子さんには、理想的にはどの段階まで進学してもらいたいと思いますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 34
N 値				131

『支援利用者』の子どもの理想とする進学段階については、「大学まで」が 37.4%と最も多く、次いで「高等学校まで」が 27.5%で続いています。

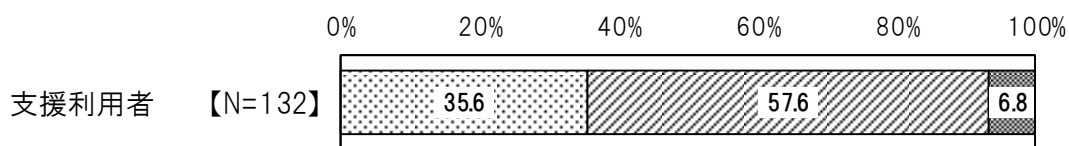


- ☒ 1. 中学校まで
- ☒ 2. 高等学校まで
- ☒ 3. 専門学校まで(高校卒業後に進学するもの)
- ☒ 4. 高等専門学校、短期大学まで
- ☒ 5. 大学まで
- ☒ 6. 大学院まで
- ☐ 7. その他
- ☐ 8. 特に理想はない

問 奨学金の制度があることはご存知ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 35
N 値				132

『支援利用者』の奨学金制度への認知度については、「さまざまな奨学金があることを知っている」が 35.6%であり、「あることは知っているが詳しくは知らない」が 57.6%に上ります。



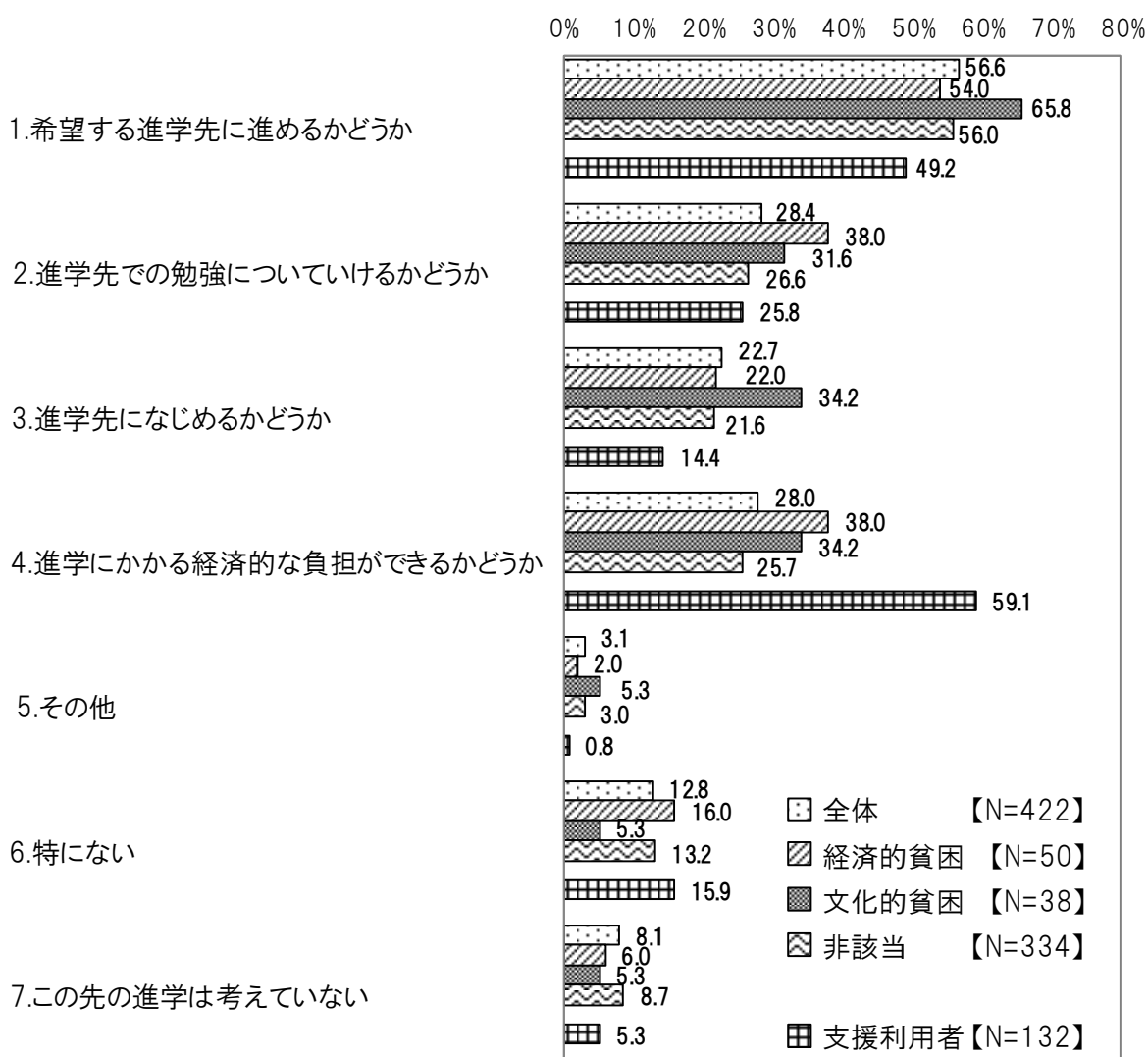
- ☒ 1. 給付型(返さなくても良いもの)など、さまざまな奨学金があることを知っている
- ☒ 2. あることは知っているが詳しくは知らない
- ☐ 3. 奨学金のこと自体を知らない

問 お子さんの進学に関して、不安に思うことはありますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号			問 14	問 36
N 値			422	132

子どもの進学に関する不安については、いずれの区分でも「希望する進学先に進めるか」が最も多くなっています。次いで、『非該当』では「進学先の勉強についていけるかどうか」が、『経済的貧困』では「進学先の勉強についていけるかどうか」と「進学にかかる経済的な負担ができるかどうか」が同率で、『文化的貧困』では「進学先になじめるかどうか」と「進学にかかる経済的な負担ができるかどうか」が同率で、それぞれ続いています。

『支援利用者』では「進学にかかる経済的な負担ができるかどうか」が 59.1% で最も多く、次いで「希望する進学先に進めるかどうか」が 49.2% で続いています。



『支援利用者』を貧困層区分別にみると、いずれの区分でも「経済的な負担ができるか」が最も多くなっています。また、「進学先に進めるかどうか」も多くなっています。

【支援利用者／貧困層区分別集計】

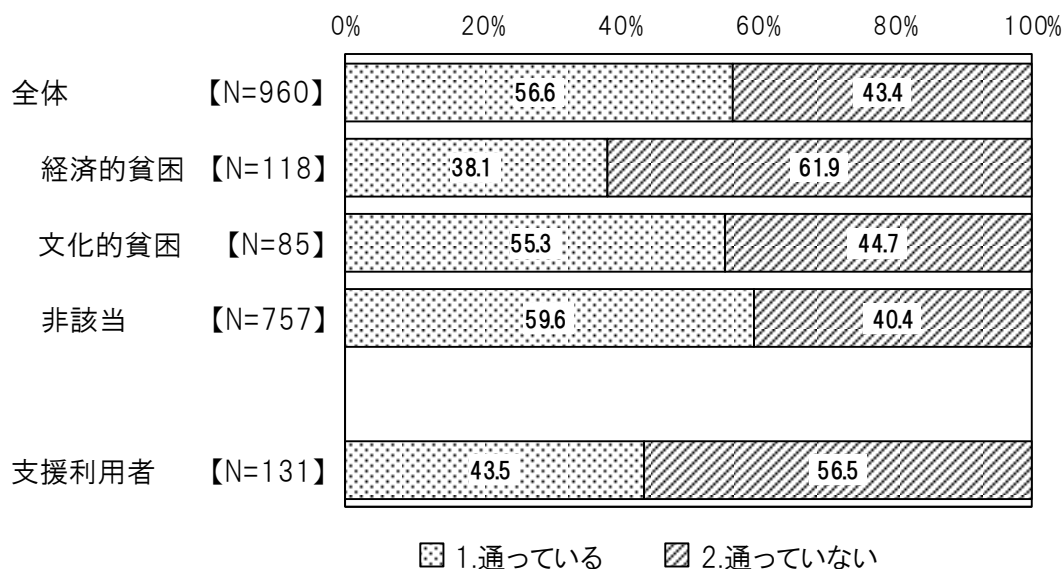
	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.希望する進学先に進めるかどうか	49.5	42.9	50.0
2.進学先での勉強についていけるかどうか	26.8	14.3	26.9
3.進学先になじめるかどうか	11.3	28.6	23.1
4.進学にかかる経済的な負担ができるかどうか	56.7	85.7	61.5
5.その他	1.0	-	-
6.特にない	15.5	14.3	19.2
7.この先の進学は考えていない	6.2	-	3.8
N値(人)	97	7	26

問 お子さんは塾や習い事に通っていますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号		問 29	問 15	問 37
N 値		529	431	131

子どもが塾や習い事に通っているかどうかについては、『非該当』『文化的貧困』では「通っている」がそれぞれ59.6%、55.3%に上りますが、『経済的貧困』では38.1%と低く、格差が生じていると思われます。

『支援利用者』では「通っている」は43.5%となっています。



子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』の中高生は『全体』の中高生とあまり差がありませんが、『支援利用者』の小学生は『全体』の小学生に比べて「通っている」が23.3ポイント少なくなっています。

【子どもの年齢別集計】

	全体調査		支援利用者調査	
	小学生	中高生	小学生	中高生
1.通っている	67.1	45.6	43.8	43.1
2.通っていない	32.9	54.4	56.3	56.9
N値(人)	550	445	80	51

『支援利用者』を貧困層区分別にみると、「通っていない」は『経済的貧困』では57.3%、『文化的貧困』では85.7%を占めます。『非該当』では「通っている」「通っていない」が同率となっています。

【支援利用者／貧困層区分別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.通っている	42.7	14.3	50.0
2.通っていない	57.3	85.7	50.0
N値(人)	96	7	26

『支援利用者』を母親の就労状況別にみると、フルタイム、パート・アルバイト等のいずれも「通っていない」が6割近くに上ります。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.通っている	42.9	41.2	-	100.0	-	57.1
2.通っていない	57.1	58.8	-	-	100.0	42.9
N値(人)	77	34	-	1	4	7

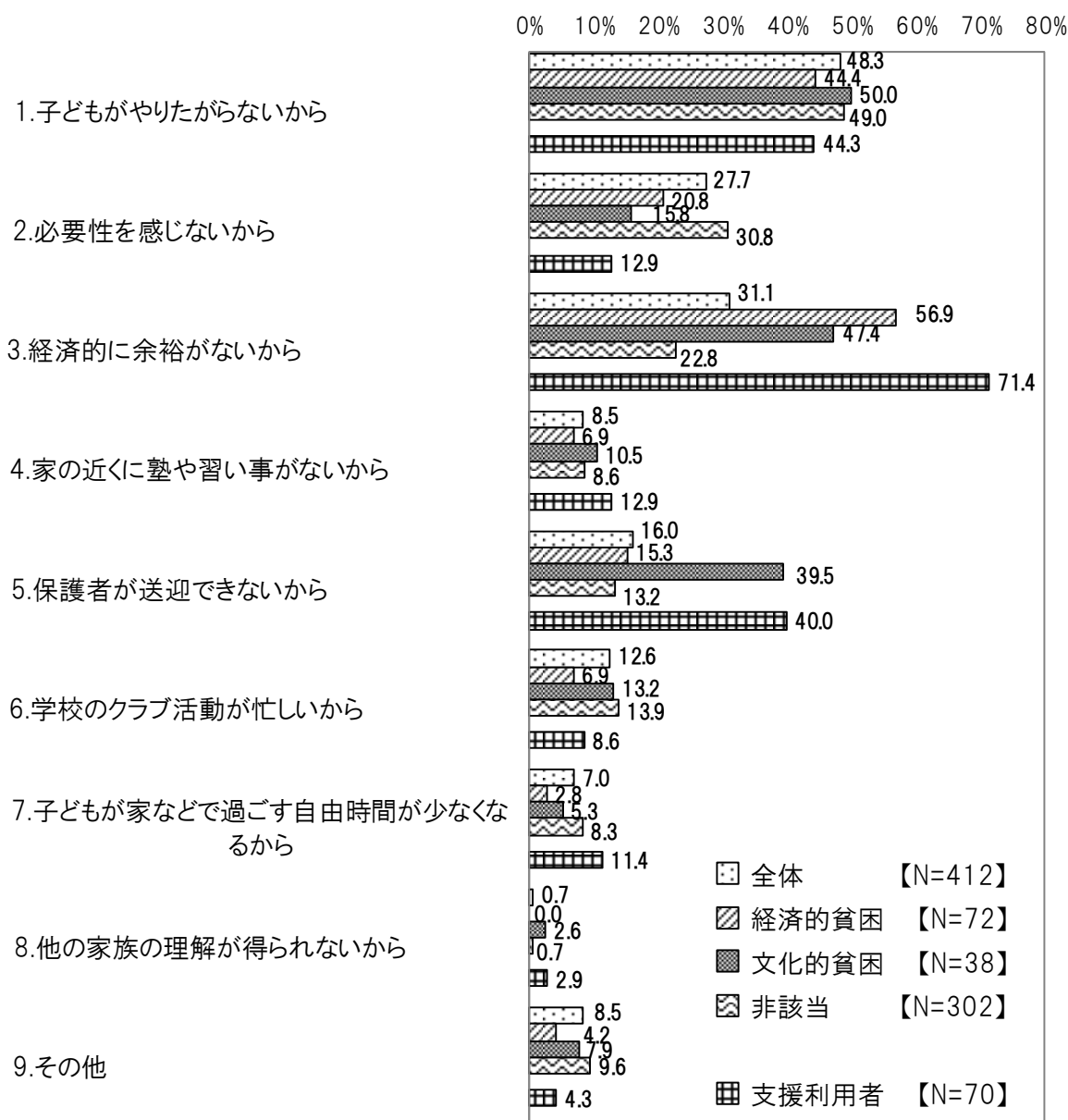
問 「2」に○をつけた方にうかがいます。

塾や習い事に通っていない理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号		問 29-①	問 15-①	問 37-①
N 値		176	236	70

子どもが塾や習い事に通っていない人に、その理由を訊いたところ、『経済的貧困』では「経済的に余裕がないから」が最も多く、「子どもがやりたがらないから」が続きます。『非該当』『文化的貧困』では「子どもがやりたがらない」が最も多く、これに『経済的貧困』では「必要性を感じないから」が、『文化的貧困』では「経済的に余裕がないから」が続きます。また、『文化的貧困』では「保護者が送迎できないから」が39.5%と、他に比べて多くなっています。

『支援利用者』では「経済的に余裕がないから」が71.4%に上り最も多くなっています。次いで、「子どもがやりたがらないから」が44.3%、「保護者が送迎できないから」が40.0%と僅差で続いています。



※小学生調査には「6.学校のクラブ活動が忙しいから」の選択肢なし

『支援利用者』を貧困層区分別にみると、いずれの区分でも「経済的に余裕がない」が多く、「子どもがやりたがらない」「保護者が送迎できない」などが続いています。

【支援利用者／貧困層区分別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.子どもがやりたがらないから	42.3	40.0	53.8
2.必要性を感じないから	13.5	20.0	7.7
3.経済的に余裕がないから	73.1	60.0	69.2
4.家の近くに塾や習い事がないから	13.5	-	15.4
5.保護者が送迎できないから	40.4	40.0	38.5
6.学校のクラブ活動が忙しいから	7.7	-	15.4
7.子どもが家などで過ごす自由時間が少なくなるから	11.5	-	15.4
8.他の家族の理解が得られないから	3.8	-	-
9.その他	1.9	20.0	7.7
N値(人)	52	5	13

『支援利用者』を母親の就労状況別にみると、「保護者が送迎できない」はフルタイムが43.9%とパート・アルバイト等を上回っています。また、「経済的に余裕がない」もフルタイムがパート・アルバイト等を上回っています。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.子どもがやりたがらないから	48.8	40.0	-	-	25.0	-
2.必要性を感じないから	14.6	10.0	-	-	25.0	-
3.経済的に余裕がないから	78.0	60.0	-	-	25.0	100.0
4.家の近くに塾や習い事がないから	17.1	5.0	-	-	25.0	-
5.保護者が送迎できないから	43.9	20.0	-	-	50.0	50.0
6.学校のクラブ活動が忙しいから	4.9	10.0	-	-	25.0	-
7.子どもが家などで過ごす自由時間が少なくなるから	14.6	10.0	-	-	-	-
8.他の家族の理解が得られないから	2.4	-	-	-	25.0	-
9.その他	4.9	5.0	-	-	-	-
N値(人)	41	20	-	-	4	2

(3) お子さんの生活の状況について

問 お子さんは、朝食を毎日食べますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 40	問 31	問 17	問 12
N 値	1,089	524	430	150

朝食を食べるかどうかについて、『非該当』『文化的貧困』では、「毎日」「たいてい」は食べるという人が合わせて約 95%に上り、大半の子どもが朝食を食べています。一方、『経済的貧困』では「あまり食べない」「食べない」という人が約 1 割あります。

『支援利用者』では、「毎日」が比較的少なく 71.3%となっていますが、「たいてい」を加えた食べるという人は合わせて 88.0%に上ります。「あまり食べない」「食べない」という人はやや多く、合わせて 12.0%に上ります。

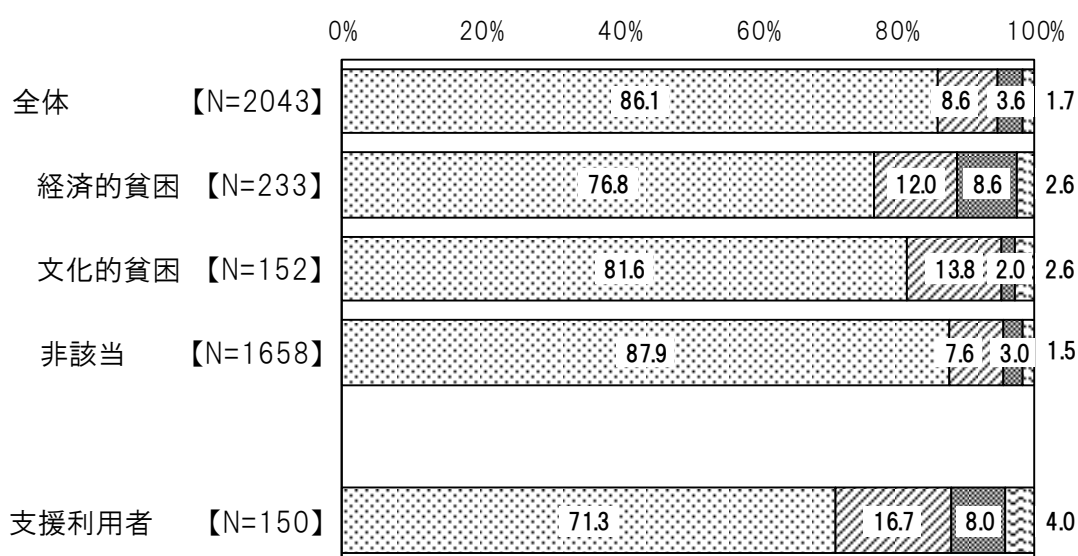


図 1.毎日食べる 2.たいてい食べる 3.あまり食べない 4.食べない

子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』はどの年代においても「毎日」が少なくなっています。一方、「あまり食べない」「食べない」を合わせると、『支援利用者』の就学前児童は『全体』の就学前児童に比べて 3.6 ポイント、『支援利用者』の小学生は『全体』の小学生に比べて 5.6 ポイント、『支援利用者』の中高生は『全体』の中高生に比べて 9.6 ポイント、それぞれ多くなっています。

【子どもの年齢別集計】

	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1.毎日食べる	87.4	87.5	81.3	71.1	72.6	69.4
2.たいてい食べる	8.3	8.4	9.9	21.1	17.7	12.2
3.あまり食べない	2.5	3.5	5.9	5.3	9.7	8.2
4.食べない	1.8	0.6	2.9	2.6	-	10.2
N値(人)	1,127	545	444	38	62	49

『支援利用者』を貧困層区別にみると、『文化的貧困』では「毎日食べる」が55.6%とやや少なく、「食べない」が11.1%とやや多くなっています。

【支援利用者／貧困層区別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.毎日食べる	69.5	55.6	78.1
2.たいてい食べる	17.1	33.3	12.5
3.あまり食べない	9.5	-	6.3
4.食べない	3.8	11.1	3.1
N値(人)	105	9	32

『支援利用者』を母親の就労状況別にみると、「毎日食べる」がフルタイムでは77.1%と多く、「パート・アルバイト等」ではやや少なく64.3%となっています。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.毎日食べる	77.1	64.3	-	100.0	75.0	60.0
2.たいてい食べる	12.0	26.2	100.0	-	-	10.0
3.あまり食べない	7.2	7.1	-	-	25.0	20.0
4.食べない	3.6	2.4	-	-	-	10.0
N値(人)	83	42	1	1	4	10

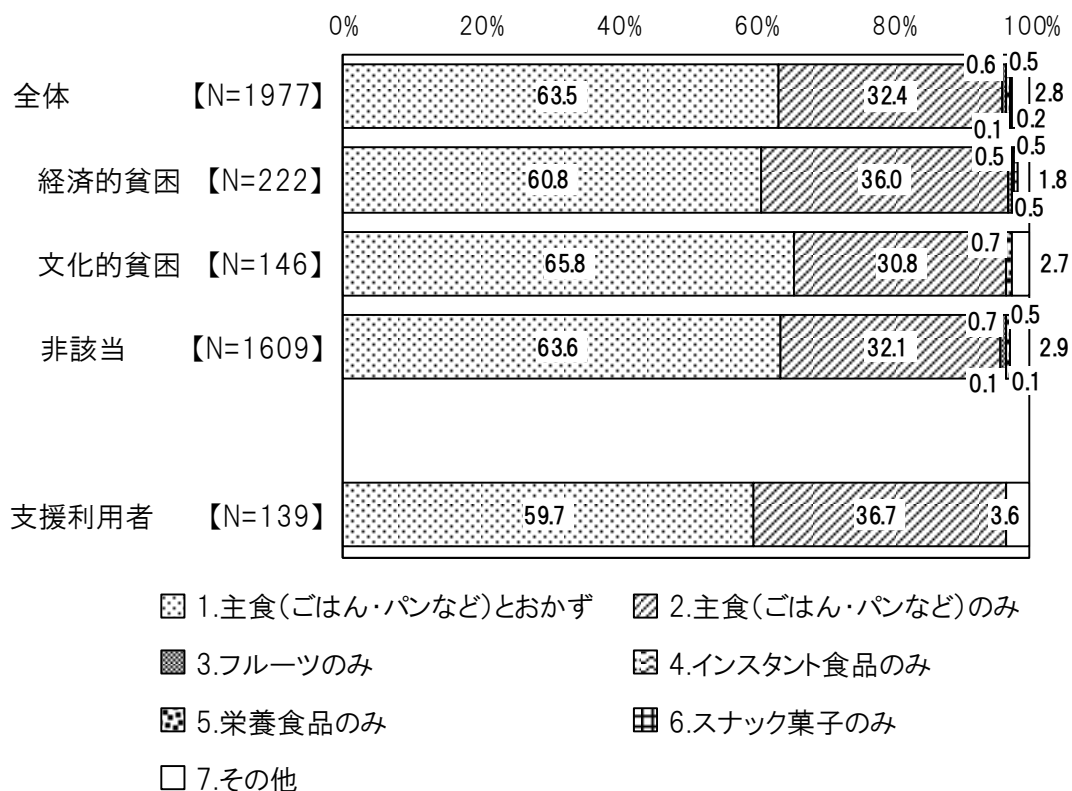
問 「1」「2」「3」に○をつけた方にうかがいます。

お子さんのふだんの朝食は、どのようなものが多いですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 40-①	問 31-①	問 17-①	問 12-①
N 値	1,056	511	410	139

朝食の内容については、いずれの区分も「主食とおかず」が約 6 割に上り、「主食のみ」が 3 割程度となっており、「フルーツのみ」などはごくわずかとなっています。

『支援利用者』でも「主食とおかず」が約 6 割に上り、「主食のみ」が約 4 割となっています。



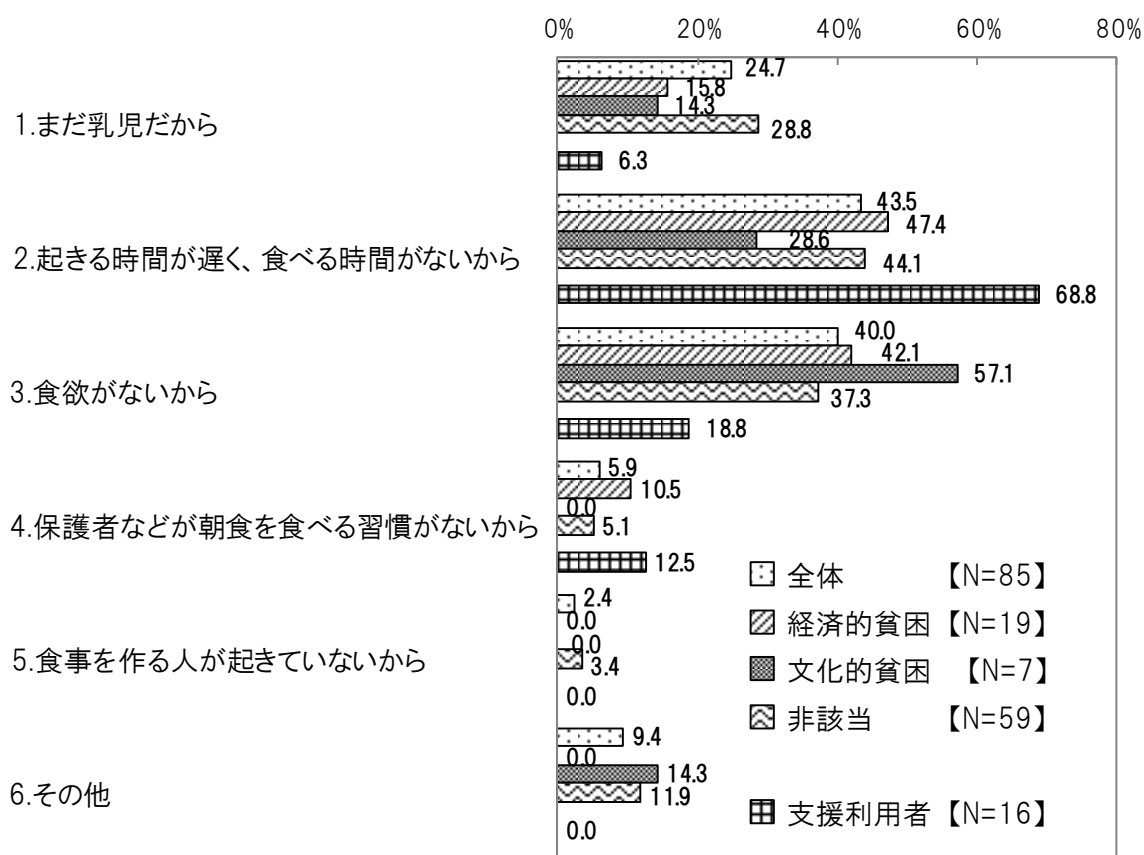
問 「3」または「4」に○をつけた方にうかがいます。

朝食を食べないことがある理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 40-②	問 31-②	問 17-②	問 12-②
N 値	36	18	31	16

朝食を食べない理由は、『文化的貧困』では「食欲がない」が57.1%と最も多く、『非該当』『経済的貧困』では「起きる時間が遅く、食べる時間がないから」がそれぞれ44.1%、47.4%と最も多くなっています。一方、『経済的貧困』では「保護者などが朝食を食べる習慣がないから」が10.5%と、他に比べて多くなっています。

『支援利用者』も「起きる時間が遅く、食べる時間がないから」が68.8%に上りますが、「食欲がないから」は18.8%にとどまっています。また、「保護者などが朝食を食べる習慣がないから」は12.5%となっています。



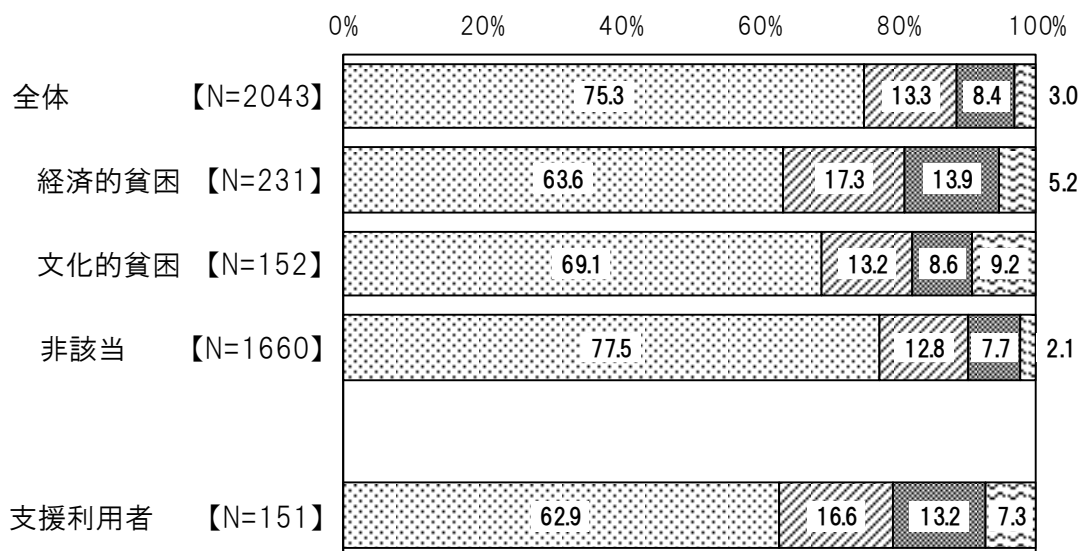
※小学生調査、中高生調査には「1.まだ乳児だから」の選択肢なし

問 保護者の方は、朝食を毎日食べますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 41	問 32	問 18	問 13
N 値	1,089	525	429	151

保護者の朝食については、『非該当』では「毎日」「たいてい」を合わせた食べる人が 9 割を占めます。『経済的貧困』『文化的貧困』では朝食を食べる人は 8 割程度にとどまっています。

『支援利用者』は朝食を食べる人が 8 割程度にとどまり、朝食を「あまり食べない」は 13.2%、「食べない」は 7.3%となっています。



1.毎日食べる 2.たいてい食べる 3.あまり食べない 4.食べない

子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』はどの年代においても「毎日」が少なくなっています。一方、「あまり食べない」「食べない」を合わせると、『支援利用者』の就学前児童保護者は『全体』の就学前児童保護者に比べて 4.0 ポイント、『支援利用者』の小学生保護者は『全体』の小学生保護者に比べて 14.8 ポイント、『支援利用者』の中高生保護者は『全体』の中高生保護者に比べて 7.8 ポイント、それぞれ多くなっています。

【子どもの年齢別集計】

	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1.毎日食べる	73.7	76.7	78.6	60.5	65.1	61.2
2.たいてい食べる	14.5	12.6	10.8	23.7	9.5	20.4
3.あまり食べない	9.3	6.6	7.4	5.3	17.5	14.3
4.食べない	2.5	4.0	3.2	10.5	7.9	4.1
N値(人)	1,129	546	443	38	63	49

『支援利用者』を貧困層区分別にみると、『文化的貧困』では「あまり食べない」が33.3%、「食べない」が22.2%と、食べない人が過半数を占めています。

【支援利用者／貧困層区分別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.毎日食べる	63.8	11.1	75.8
2.たいてい食べる	14.3	33.3	18.2
3.あまり食べない	14.3	33.3	3.0
4.食べない	7.6	22.2	3.0
N値(人)	105	9	33

『支援利用者』を母親の就労状況別にみると、全体的な傾向と大きな差はみられませんでした。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

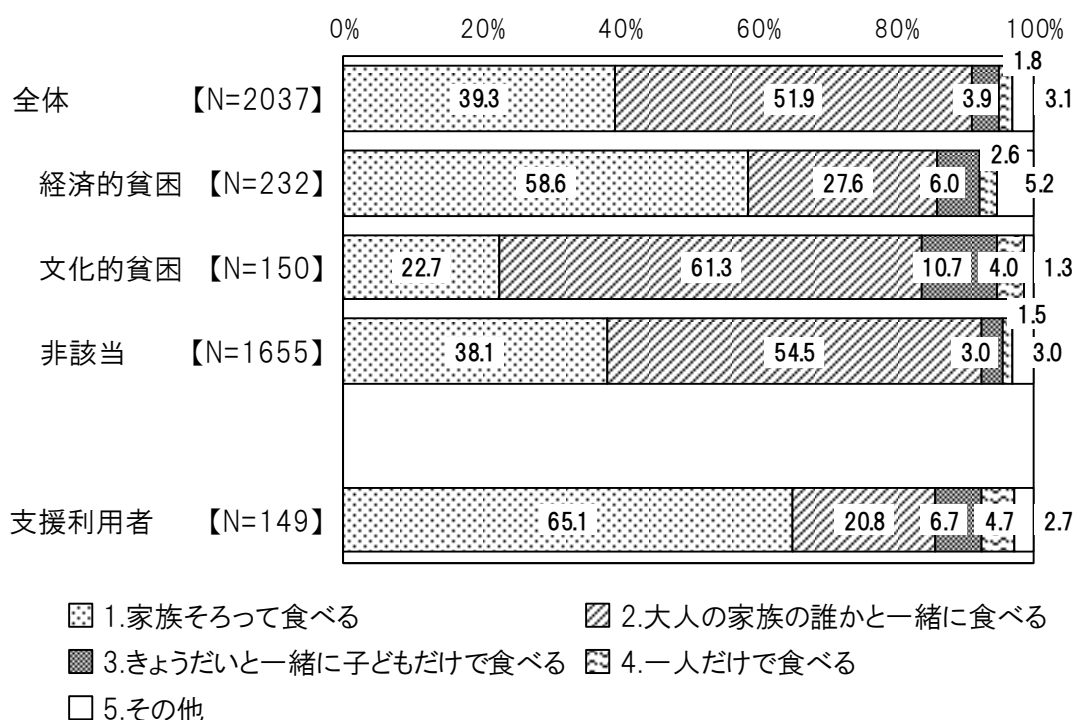
	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.毎日食べる	63.1	64.3	-	-	50.0	70.0
2.たいてい食べる	14.3	16.7	100.0	100.0	25.0	10.0
3.あまり食べない	15.5	9.5	-	-	25.0	20.0
4.食べない	7.1	9.5	-	-	-	-
N値(人)	84	42	1	1	4	10

問 お子さんは、ふだん夕食をだれと食べていますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 42	問 33	問 19	問 14
N 値	1,088	524	425	149

夕食をだれと食べるかについて、『非該当』『文化的貧困』では「大人の家族の誰かと一緒に食べる」が最も多く、5～6割に上ります。次いで、「家族そろって食べる」が2～4割となっています。また、『経済的貧困』では「家族そろって食べる」が58.6%と最も多く、「大人の家族の誰かと一緒に食べる」は27.6%となっています。一方、『文化的貧困』では「きょうだいと一緒に」と「一人だけで」を合わせた子どもだけで食べている人が14.7%と、他に比べて多くなっています。

『支援利用者』では、「家族そろって」が65.1%に上り、「大人の家族の誰かと一緒に」は20.8%となっています。



子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』は『全体』に比べて「家族そろって」が多くなっていますが、年齢が高まるにつれてその割合は減少します。『支援利用者』の小学生は『全体』の小学生に比べて「きょうだいと一緒に子どもだけで」が6.3ポイント多く、また、『支援利用者』の中高生は『全体』の中高生に比べて「一人だけで」が9.6ポイント多くなっています。

【子どもの年齢別集計】

	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1.家族そろって食べる	38.8	42.8	38.2	81.1	69.8	47.9
2.大人の家族の誰かと一緒に食べる	53.9	50.1	48.0	13.5	17.5	29.2
3.きょうだいと一緒に子どもだけで食べる	3.0	4.8	4.8	2.7	11.1	4.2
4.一人だけで食べる	1.1	0.6	5.0	-	-	14.6
5.その他	3.2	1.8	4.1	2.7	1.6	4.2
N値(人)	1,126	545	440	37	63	48

『支援利用者』を母親の就労状況別にみると、パート・アルバイト等のほうが、フルタイムよりも「家族そろって食べる」の割合がやや多くなっています。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.家族そろって食べる	65.1	70.7	100.0	100.0	25.0	50.0
2.大人の家族の誰かと一緒に食べる	21.7	17.1	-	-	50.0	30.0
3.きょうだいと一緒に子どもだけで食べる	6.0	9.8	-	-	-	-
4.一人だけで食べる	4.8	2.4	-	-	-	10.0
5.その他	2.4	-	-	-	25.0	10.0
N値(人)	83	41	1	1	4	10

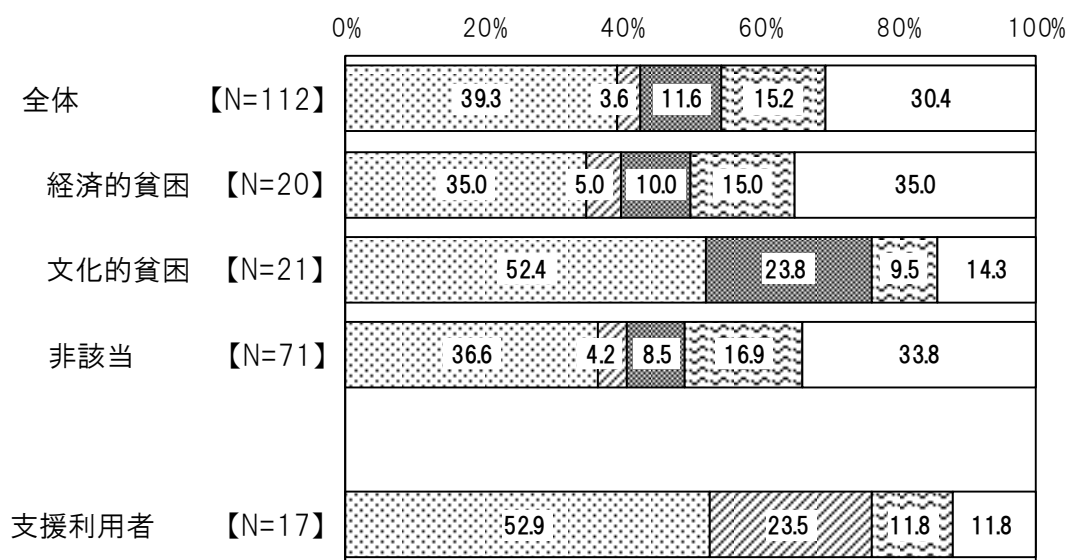
問 「3」または「4」に○をつけた方にうかがいます。

夕食を子どもだけで食べる理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 42-①	問 33-①	問 19-①	問 14-①
N 値	44	27	41	17

夕食を子どもだけで食べる人に、その理由を訊いたところ、いずれの区分でも「働いている保護者の帰宅が遅いから」が最も多くなっています。また、『文化的貧困』では「保護者が育児・介護などで忙しいから」が23.8%と、他に比べて多くなっています。

『支援利用者』では「保護者が夜間の勤務で不在になるから」が23.5%と比較的多くなっています。



- ☒ 1. 働いている保護者の帰宅が遅いから
- ☒ 2. 保護者が夜間の帰宅で不在になるから
- ☒ 3. 保護者が育児・介護などで忙しいから
- ☒ 4. 学校のクラブ活動、塾や習い事などで子どもの帰宅が遅くなるから
- ☐ 5. その他

※就学前調査には「4.学校のクラブ活動、塾や習い事などで子どもの帰宅が遅くなるから」の選択肢なし
小学生調査では選択肢「4」は「4.塾や習い事などで子どもの帰宅が遅くなるから」

『支援利用者』を母親の就労状況別にみると、人数が少ないものの、フルタイムでは「働いている保護者の帰宅が遅い」が 66.7%（6 人／9 人）と多く、パート・アルバイト等では「保護者が夜間の勤務で不在になる」が 40.0%（2 人／5 人）と多くなっています。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

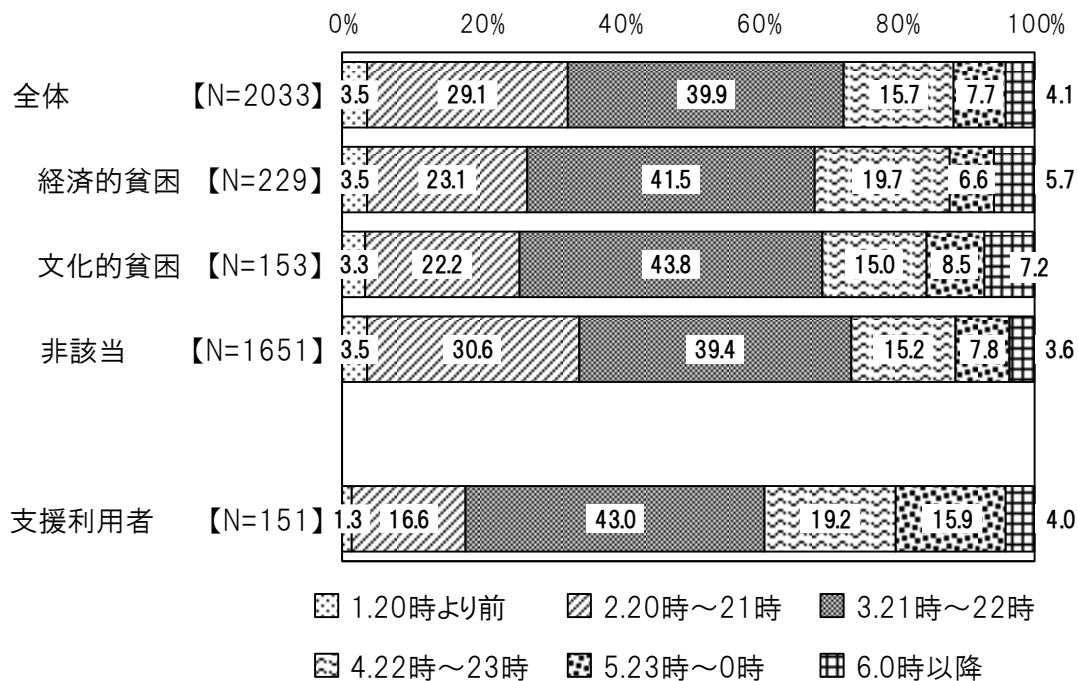
	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.働いている保護者の帰宅が遅いから	66.7	20.0	-	-	-	-
2.保護者が夜間の勤務で不在になるから	22.2	40.0	-	-	-	-
3.保護者が育児・介護などで忙しいから	-	-	-	-	-	-
4.学校のクラブ活動、塾や習い事で子どもの帰宅が遅くなるから	11.1	-	-	-	-	100.0
5.その他	-	40.0	-	-	-	-
N値(人)	9	5	-	-	-	1

問 お子さんは、ふだん何時頃に寝ますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 43	問 34	問 20	問 15
N 値	1,087	524	422	151

子どもの就寝時刻について、いずれの区分でも「21～22 時」が最も多く、4 割前後を占めています。次いで、「20 時～21 時」が 2～3 割で続いています。

『支援利用者』でも、「21～22 時」が最も多く、43.0%に上ります。



子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』と『全体』とは同様の傾向を示していますが、『支援利用者』の小学生については『全体』の小学生よりも「20～21 時」が 10.0 ポイント少なく、「23～0 時」が 7.1 ポイント多くなっています。

【子どもの年齢別集計】

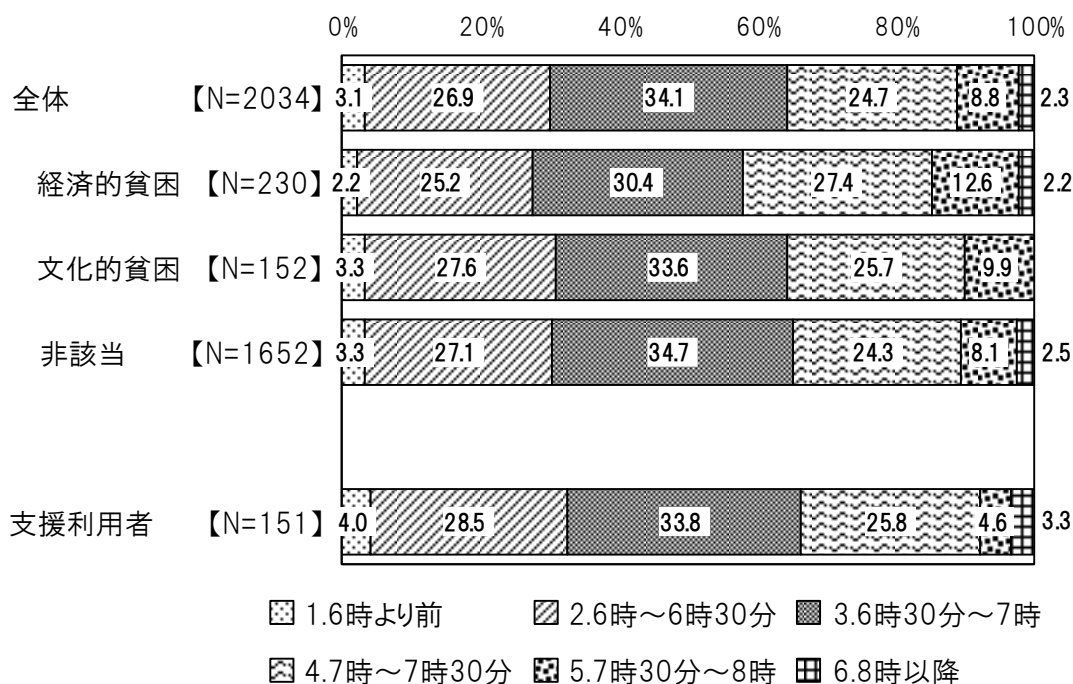
	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1. 20 時より前	5.4	2.0	0.5	2.6	1.6	–
2. 20 時～21 時	43.5	21.1	1.1	39.5	11.1	6.1
3. 21 時～22 時	43.3	58.2	9.8	50.0	61.9	12.2
4. 22 時～23 時	6.7	16.1	37.5	5.3	15.9	34.7
5. 23 時～0 時	0.7	2.4	32.5	2.6	9.5	34.7
6. 0 時以降	0.3	0.2	18.5	–	–	12.2
N 値(人)	1,126	545	437	38	63	49

問 お子さんは、ふだん何時頃に起きますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 44	問 35	問 21	問 16
N 値	1,086	524	424	151

子どもの起床時刻について、いずれの区分でも「6 時 30 分～7 時」が最も多く、約 3 割を占めています。次いで、「6 時～6 時 30 分」「7 時～7 時 30 分」が続いています。

『支援利用者』では、「6 時～6 時 30 分」「6 時 30 分～7 時」が 3 割前後となっています。



子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』の就学前児童では『全体』の就学前児童に比べて「6 時 30 分～7 時」が 14.4 ポイント多く、それよりも遅い時間帯が少なくなっています。逆に、『支援利用者』の小学生は『全体』の小学生に比べて「7 時～7 時 30 分」が 9.5 ポイント多く、やや遅い時間帯が多くなっています。

【子どもの年齢別集計】

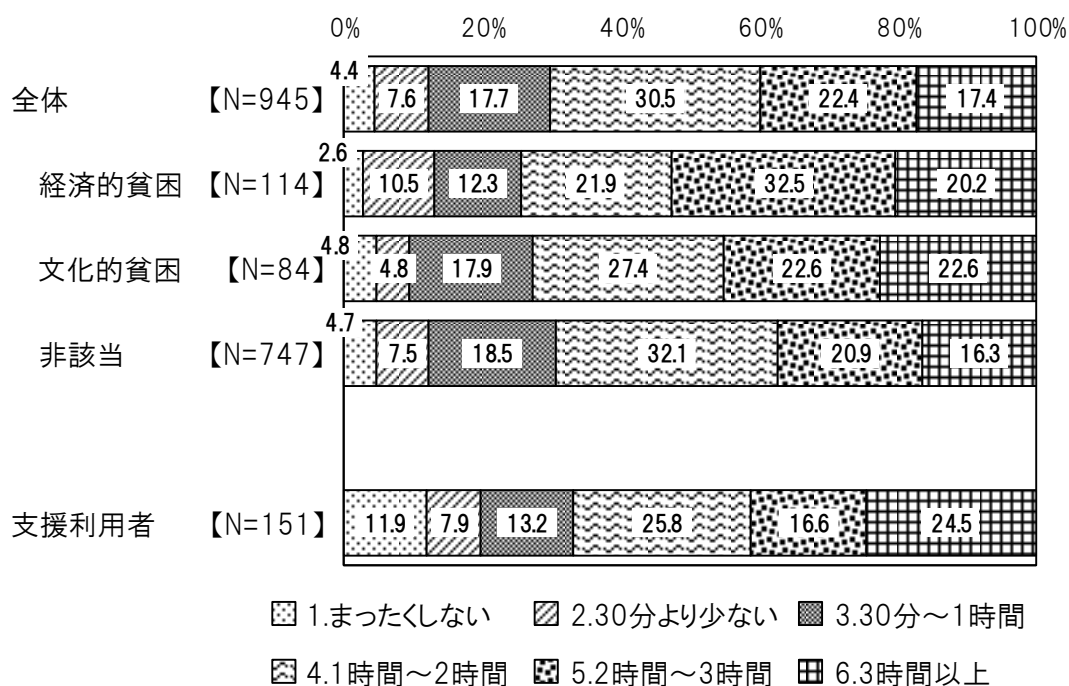
	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1.6 時より前	2.7	3.1	4.6	5.3	3.2	4.1
2.6 時～6 時 30 分	20.8	40.7	25.1	15.8	36.5	28.6
3.6 時 30 分～7 時	33.0	41.5	27.3	47.4	34.9	20.4
4.7 時～7 時 30 分	28.0	14.3	30.3	21.1	23.8	32.7
5.7 時 30 分～8 時	11.8	0.4	11.6	7.9	1.6	6.1
6.8 時以降	3.7	0.0	1.1	2.6	-	8.2
N 値(人)	1,125	545	439	38	63	49

問 お子さんが家でゲームやスマホを利用する時間はどれくらいですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号		問 36	問 22	問 17
N 値		523	422	151

子どものゲーム・スマホの利用時間について、『非該当』『文化的貧困』では「1時間～2時間」が最も多く、『経済的貧困』では「2時間～3時間」が最も多くなっています。2時間以上ゲームやスマホを利用している割合は『非該当』の37.2%に対し、『経済的貧困』では52.6%と多くなっています。

『支援利用者』では、「1～2時間」と「3時間以上」が25%前後でほぼ同率となっています（支援利用者の回答には就学前児童も含みます）。



子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』の小学生、中高生とも、『全体』の小学生、中高生に比べて「3時間以上」の割合が多くなっています。

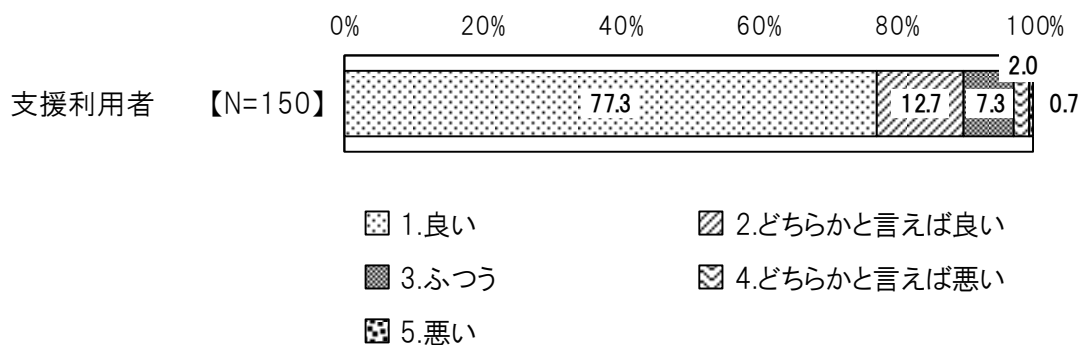
【子どもの年齢別集計】

	全体調査		支援利用者調査	
	小学生	中高生	小学生	中高生
1.まったくしない	6.3	2.1	7.9	4.1
2.30分より少ない	11.4	2.5	12.7	-
3.30分～1時間	25.2	9.2	15.9	4.1
4.1時間～2時間	34.0	26.4	28.6	24.5
5.2時間～3時間	16.5	28.9	12.7	24.5
6.3時間以上	6.6	31.0	22.2	42.9
N値(人)	544	436	63	49

問 お子さんの健康状態はいかがですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 18
N 値				150

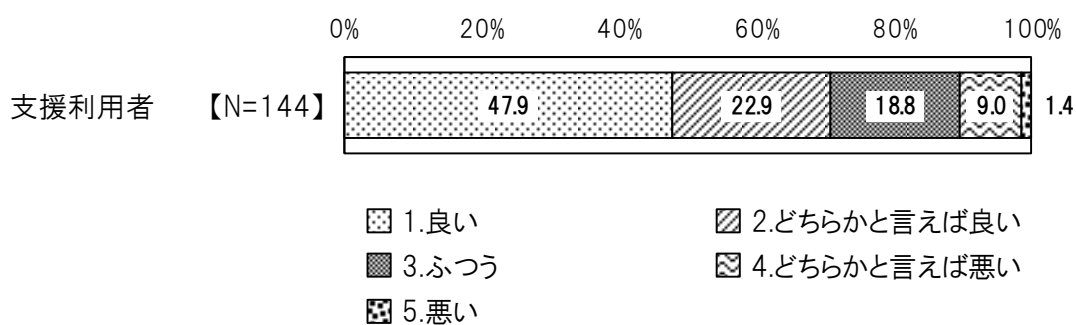
『支援利用者』の子どもの健康状態については、77.3%が「良い」で、「どちらかと言えば」を加えた肯定的回答が9割を占めます。一方、「悪い」「どちらかと言えば悪い」は合わせて2.7%となっています。



問 あなたや配偶者の方の健康状態はいかがですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 19
N 値				144

『支援利用者』の保護者の健康状態については、47.9%が「良い」で、「どちらかと言えば」を加えた肯定的回答は約7割となっています。一方、「悪い」「どちらかと言えば悪い」は合わせて10.4%となっています。

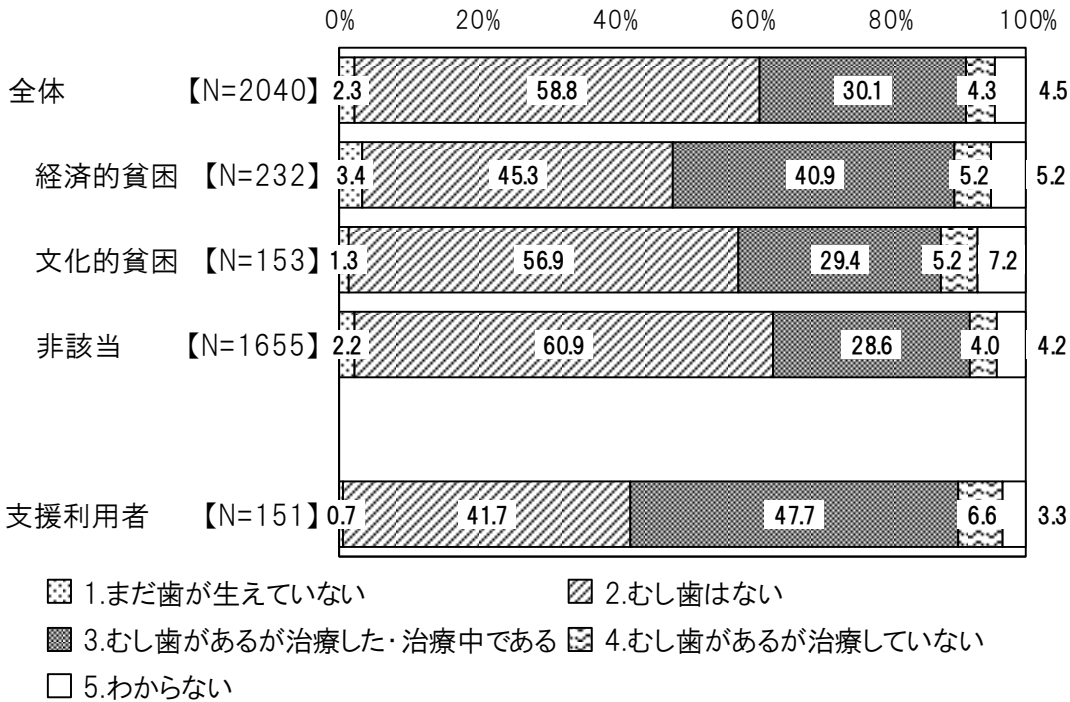


問 お子さんにはむし歯がありますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 45	問 37	問 23	問 20
N 値	1,090	526	424	151

子どものむし歯について、『非該当』『文化的貧困』では「むし歯がある（治療・未治療合わせて）」が約3割ですが、『経済的貧困』では46.1%と、他に比べて多くなっています。また、むし歯を「治療していない」は、いずれの区分も数%となっています。

『支援利用者』では「むし歯がある（治療・未治療合わせて）」が約5割となっています。



※小学生調査、中高生調査には「1.まだ歯が生えていない」の選択肢なし

子どもの年齢別内訳をみると、『支援利用者』の就学前児童では「むし歯がある（治療・未治療合わせて）」が非常に多く 50.0%に上り、『全体』の就学前児童に比べて 30 ポイント近く上回っています。また、『支援利用者』の小学生、中高生とも、『全体』の小学生、中高生に比べて「むし歯がある（治療・未治療合わせて）」が多くなっています。

【子どもの年齢別集計】

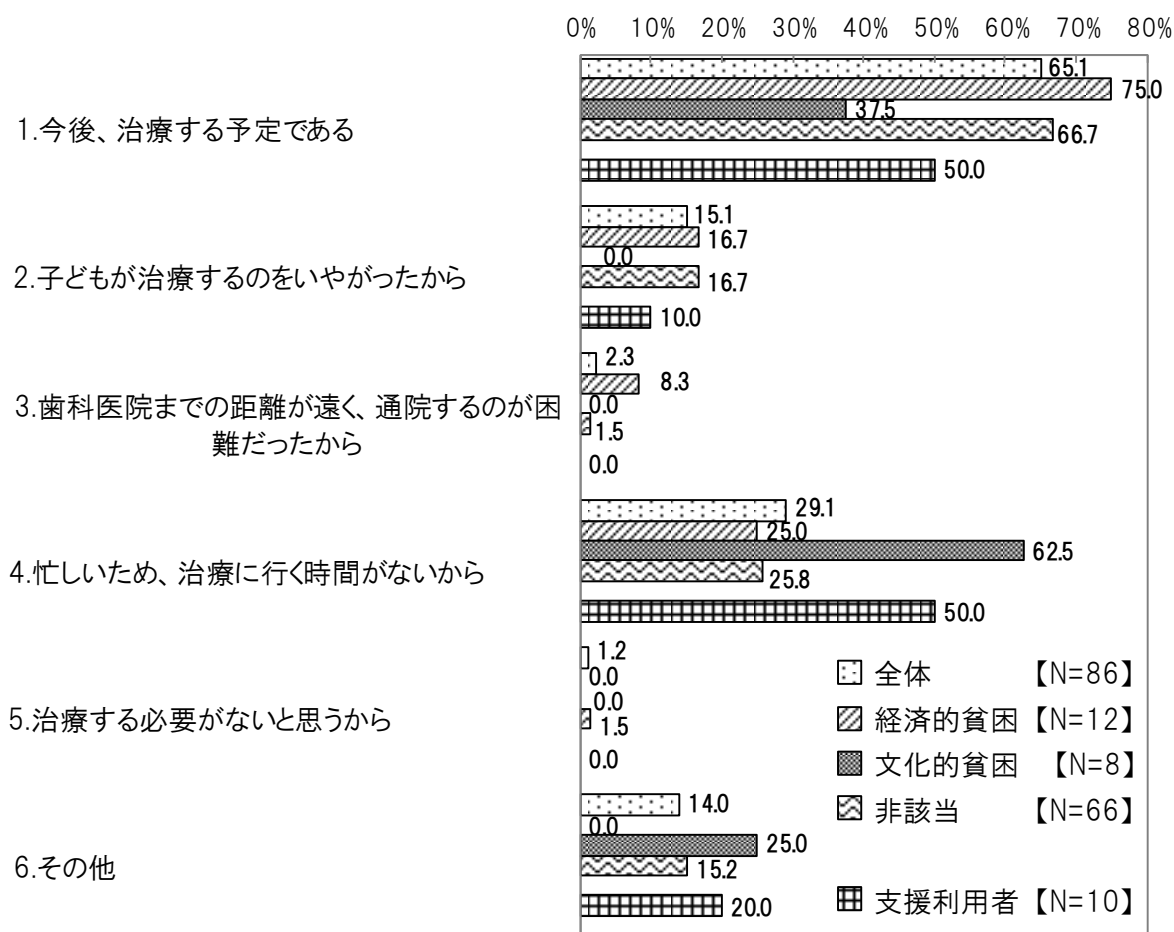
	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1. まだ歯が生えていない	4.3			2.6		
2. むし歯はない	69.0	46.6	48.2	44.7	38.1	42.9
3. むし歯があるが治療した・治療中である	17.6	48.4	39.3	44.7	49.2	49.0
4. むし歯があるが治療していない	3.6	3.3	6.6	5.3	7.9	6.1
5. わからない	5.5	1.6	5.9	2.6	4.8	2.0
N値(人)	1128	547	438	38	63	49

問 「4」に○をつけた方にうかがいます。
むし歯を治療していない理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 45-①	問 37-①	問 23-①	問 20-①
N 値	40	18	28	10

むし歯を治療していない理由は、『非該当』『経済的貧困』では「今後、治療する予定である」が最も多くなっていますが、『文化的貧困』では「忙しいため、治療に行く時間がないから」が最も多くなっています。

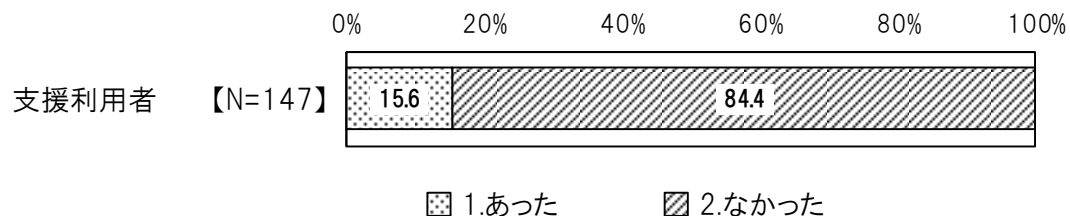
『支援利用者』では、「今後、治療する予定である」と「忙しいため、治療に行く時間がないから」が同率で多くなっています。



問 過去1年間に、医療機関でお子さんを受診させたほうが良いと思ったにもかかわらず、実際には受診させなかったことがありましたか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 21
N 値				147

『支援利用者』で医療機関の受診をさせなかった経験が「あった」と答えた人は15.6%でした。



『支援利用者』を貧困層区別にみると、『経済的貧困』では「あった」が18.6%と多くなっています。

【支援利用者／貧困層区別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.あった	18.6	11.1	6.3
2.なかった	81.4	88.9	93.8
N値(人)	102	9	32

『支援利用者』を母親の就労状況別にみると、パート・アルバイト等は「あった」が9.5%と少なくなっています。

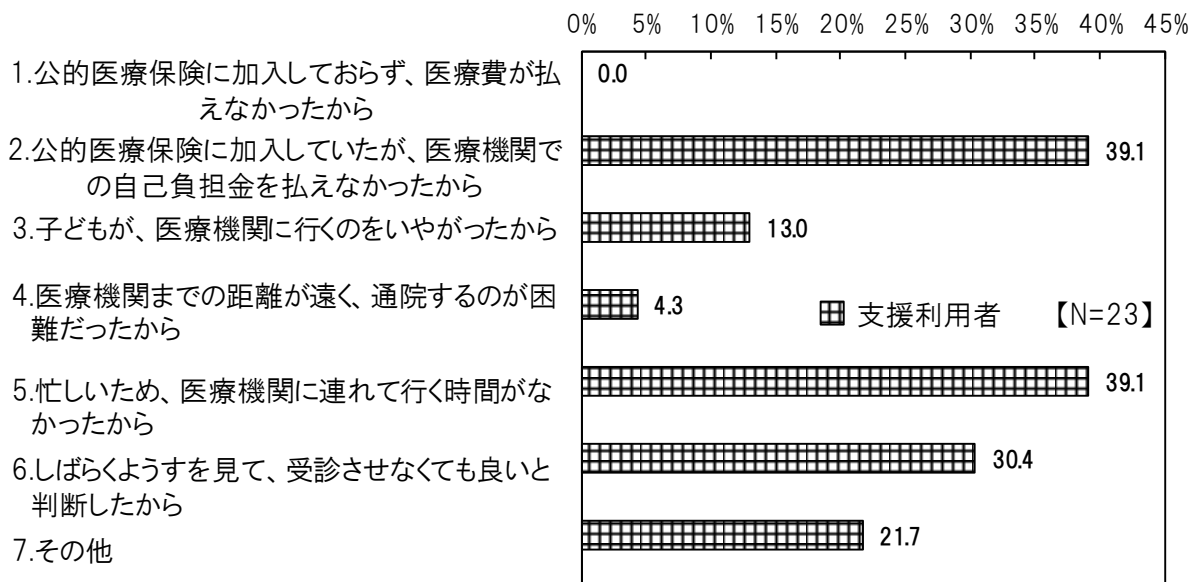
【支援利用者／母親の就労状況別集計】

	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.あった	16.0	9.5	-	100.0	50.0	20.0
2.なかった	84.0	90.5	100.0	-	50.0	80.0
N値(人)	81	42	1	1	4	10

問 「1」に○をつけた方にうかがいます。
その理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 21-①
N 値				23

受診させなかった人に、その理由を訊いたところ、「自己負担金を払えなかった」と「連れて行く時間がなかった」が最も多く、39.1%に上ります。



『支援利用者』を貧困層区分別にみると、『経済的貧困』では「自己負担金を払えなかった」が42.1%とやや多くなっています。また、『文化的貧困』では「自己負担金を払えなかった」「距離が遠く、通院するのが困難だった」「連れて行く時間がなかった」が100%となっています。

【支援利用者／貧困層区分別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1. 公的医療保険に加入しておらず、医療費が払えなかったから	-	-	-
2. 公的医療保険に加入していたが、医療機関での自己負担金を払えなかったから	42.1	100.0	-
3. 子どもが、医療機関に行くのをいやがったから	15.8	-	-
4. 医療機関までの距離が遠く、通院するのが困難だったから	-	100.0	-
5. 忙しいため、医療機関に連れて行く時間がなかったから	31.6	100.0	50.0
6. しばらくようすを見て、受診させなくても良いと判断したから	31.6	-	-
7. その他	21.1	-	50.0
N値(人)	19	1	2

母親の就労状況別にみると、人数が少ないものの、フルタイムでは「連れて行く時間がなかった」が61.5%（8人／13人）となっています。また、パート・アルバイト等では「自己負担金を払えなかった」が75.0%（3人／4人）となっています。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.公的医療保険に加入しておらず、医療費が払えなかったから	-	-	-	-	-	-
2.公的医療保険に加入していたが、医療機関での自己負担金を払えなかったから	30.8	75.0	-	100.0	-	50.0
3.子どもが、医療機関に行くのをいやがったから	7.7	-	-	100.0	50.0	-
4.医療機関までの距離が遠く、通院するのが困難だったから	7.7	-	-	-	-	-
5.忙しいため、医療機関に連れて行く時間がなかったから	61.5	-	-	-	-	50.0
6.しばらくようすを見て、受診させなくても良いと判断したから	38.5	-	-	-	-	50.0
7. その他	15.4	50.0	-	-	50.0	-
N値(人)	13	4	-	1	2	2

(4) お子さんと保護者や地域の方とのかかわりについて

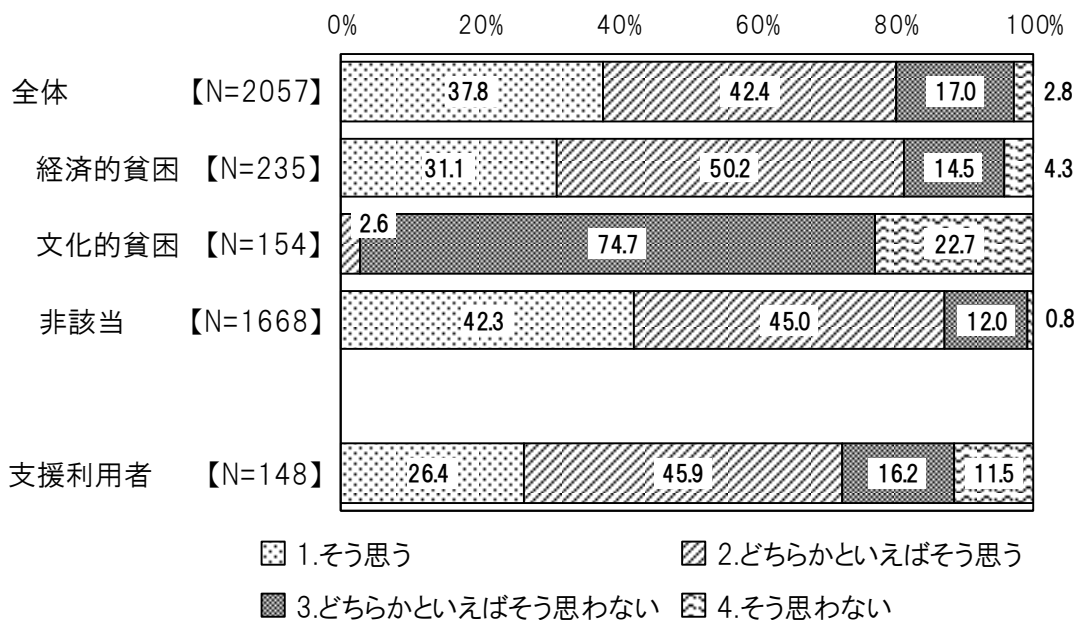
問 あなた(回答されている方)は、以下のような点についてどのように感じますか。

① お子さんと十分時間を過ごしている

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 46-①	問 38-①	問 24-①	問 22-①
N値	1,114	522	421	148

子どもと十分時間を過ごしているかどうかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答は、『非該当』『経済的貧困』ではいずれも8割を超えています。一方、『文化的貧困』では肯定的回答はわずか2.6%となっており、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的回答が97.4%に上っています。

『支援利用者』では、肯定的回答が合わせて72.3%にとどまり、「そう思わない」も11.5%とやや多くなっています。



子どもの年齢別にみると、『支援利用者』は『全体』よりも各年代とも「そう思わない」が多くなっており、特に『支援利用者』の小学生は、『全体』の小学生に比べて10.5ポイント多くなっています。

【子どもの年齢別集計】

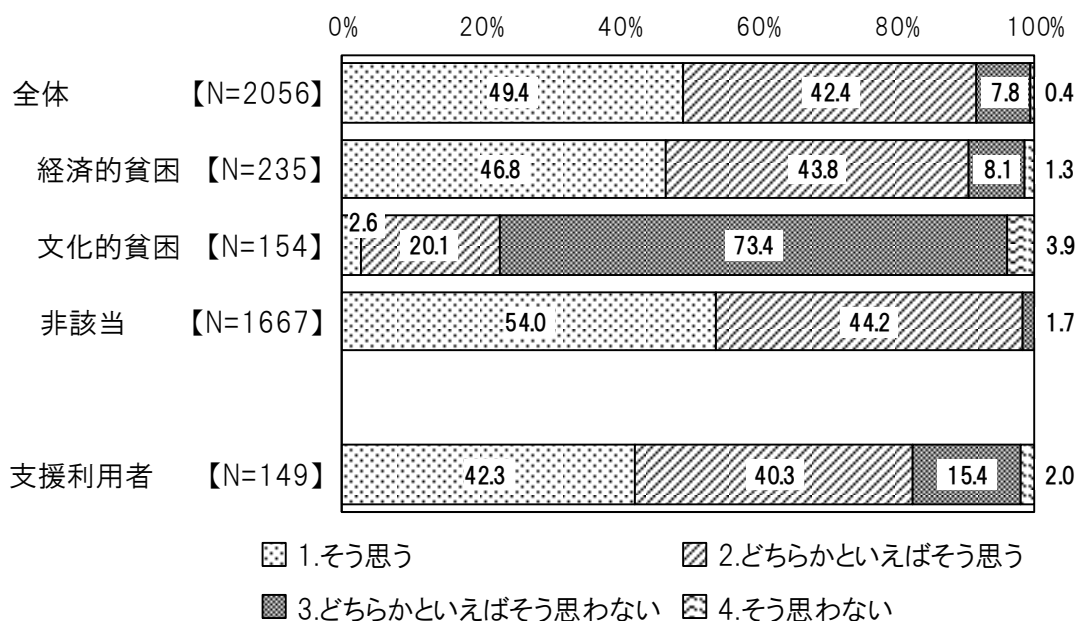
	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1. そう思う	39.9	37.8	34.3	32.4	23.5	22.0
2. どちらかといえばそう思う	39.3	42.2	49.9	40.5	48.1	52.4
3. どちらかといえばそう思わない	18.3	16.9	13.1	18.9	14.8	17.1
4. そう思わない	2.5	3.1	2.8	8.1	13.6	8.5
N値(人)	1,155	543	435	37	81	82

②お子さんとよく会話をする

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 46-②	問 38-②	問 24-②	問 22-②
N値	1,112	522	422	149

子どもと良く会話するかどうかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答は、『非該当』『経済的貧困』ではいずれも9割を超えています。一方、『文化的貧困』では肯定的回答はわずか2.6%となっており、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的回答が77.3%に上っています。

『支援利用者』も肯定的回答が82.6%に上りますが、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的回答が17.4%とやや多くなっています。



子どもの年齢別にみると、『支援利用者』は『全体』よりも各年代とも肯定的回答が少ない傾向にありますが、『支援利用者』では年齢による差が『全体』よりも少なく、いずれの年代とも肯定的回答が80～85%となっています。

【子どもの年齢別集計】

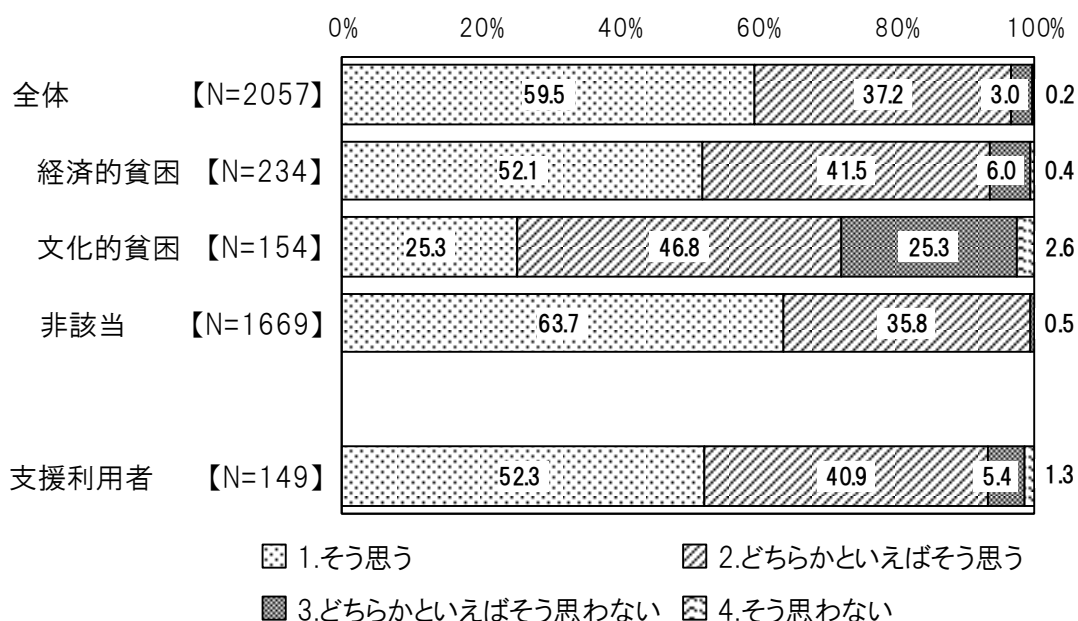
	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1. そう思う	53.4	46.0	44.3	43.2	40.7	39.8
2. どちらかといえばそう思う	40.8	44.9	42.4	40.5	45.7	42.2
3. どちらかといえばそう思わない	5.6	8.8	12.2	16.2	11.1	16.9
4. そう思わない	0.3	0.2	1.1	-	2.5	1.2
N値(人)	1,153	543	436	37	81	83

③お子さんに十分愛情をかけている

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 46-③	問 38-③	問 24-③	問 22-③
N 値	1,114	522	421	149

子どもに十分愛情をかけているかどうかについて、いずれの区分でも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答は、『非該当』『経済的貧困』ではいずれも9割を超えています。一方、『文化的貧困』では肯定的回答は72.1%となっており、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的回答が27.9%に上っています。

『支援利用者』も肯定的回答が93.2%に上ります。



子どもの年齢別にみると、『支援利用者』の就学前児童と小学生は、『全体』の就学前児童と小学生よりも肯定的回答が少なくなっていますが、『支援利用者』の中高生は『全体』の中高生に比べて肯定的回答が多く、合わせて98.8%となっています。

【子どもの年齢別集計】

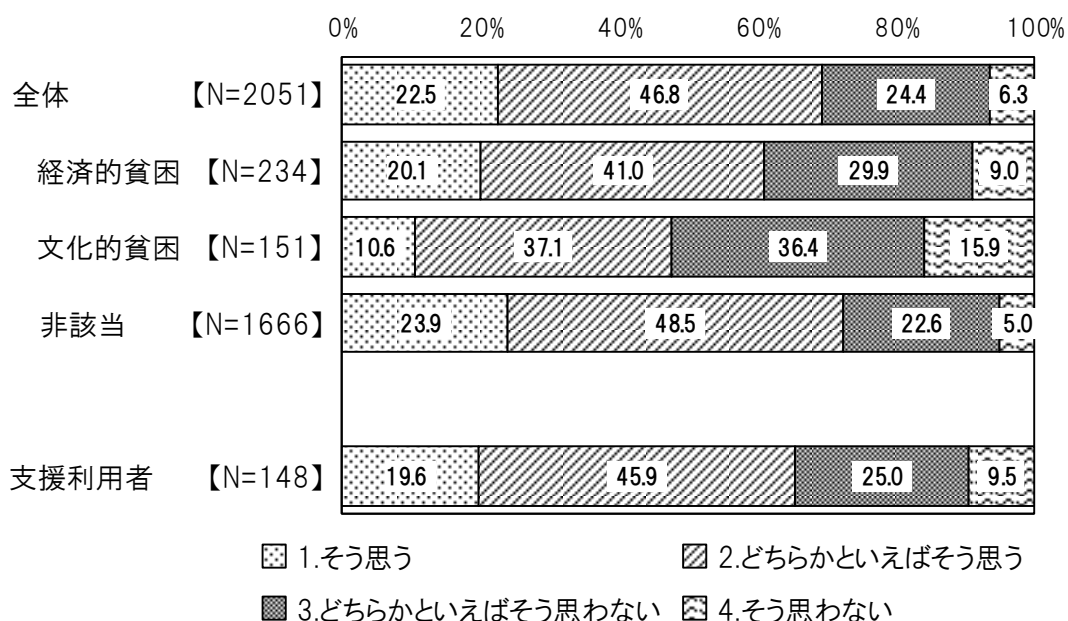
	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1. そう思う	63.1	55.6	55.9	54.1	45.7	53.0
2. どちらかといえばそう思う	34.6	39.8	40.2	37.8	44.4	45.8
3. どちらかといえばそう思わない	2.0	4.4	3.7	8.1	7.4	1.2
4. そう思わない	0.3	0.2	0.2	-	2.5	0.0
N 値(人)	1,155	543	435	37	81	83

④自分（回答されている方）自身のことが好きである

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 46-④	問 38-④	問 24-④	問 22-④
N 値	1,112	521	418	148

回答者が自分自身のことを好きかどうかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答は、『非該当』では約 7 割に上り、『経済的貧困』でも約 6 割となっています。一方、『文化的貧困』では「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的回答が過半数を占めています。

『支援利用者』では、肯定的回答が約 65%に上ります。



子どもの年齢別にみると、『支援利用者』の就学前児童と小学生は『全体』の就学前児童と小学生よりも肯定的回答がやや少なくなっていますが、『支援利用者』の中高生は『全体』の中高生と肯定的回答がほぼ同じ 71.1%となっています。

【子どもの年齢別集計】

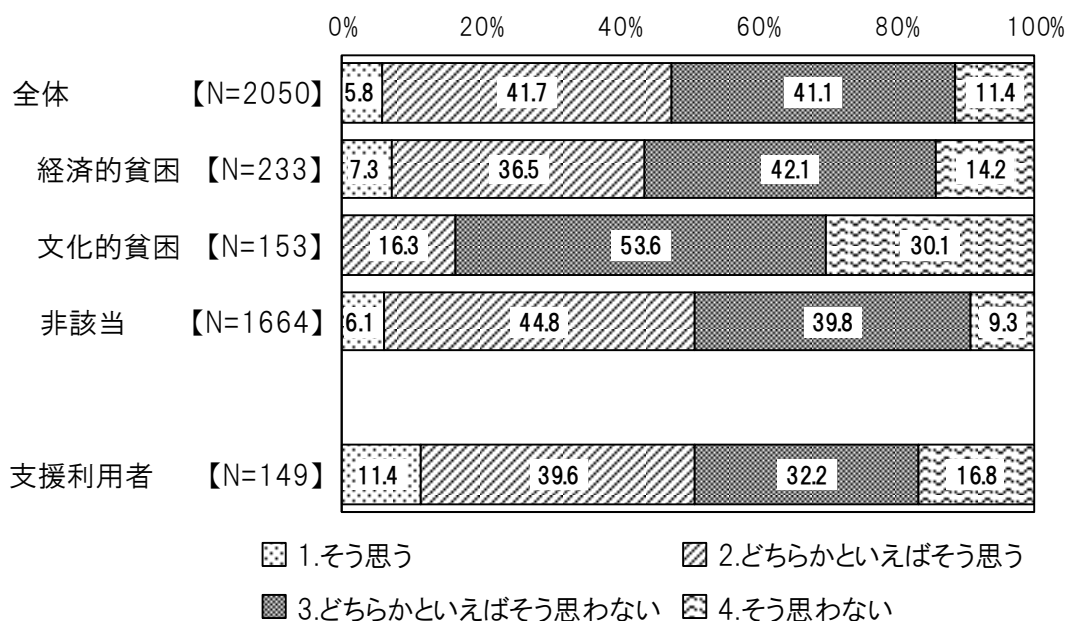
	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1. そう思う	22.4	25.1	18.5	13.5	21.3	20.5
2. どちらかといえばそう思う	43.5	50.1	52.1	48.6	45.0	50.6
3. どちらかといえばそう思わない	26.8	19.2	25.5	27.0	22.5	22.9
4. そう思わない	7.3	5.5	3.9	10.8	11.3	6.0
N 値(人)	1,150	541	432	37	80	83

⑤ 自分（回答されている方）の子どもの育て方に自信がある

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 46-⑤	問 38-⑤	問 24-⑤	問 22-⑤
N 値	1,109	520	421	149

回答者が自分自身の子どもの育て方に自信があるかどうかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答は、『非該当』では 50.9%と半数を占めますが、『経済的貧困』では 43.8%、『文化的貧困』では 16.3%と少なくなっています。また、『文化的貧困』では「そう思わない」が 30.1%と多くなっています。

『支援利用者』では、肯定的回答が 51.0%となっていますが、「そう思わない」が 16.8%とやや多くなっています。



子どもの年齢別にみると、『支援利用者』の就学前児童は肯定的回答が 32.4%と『全体』の就学前児童を 11.1 ポイント下回りました。一方、『支援利用者』の小学生は『全体』の小学生とほぼ同率であり、『支援利用者』の中高生は『全体』の中高生を 9.0 ポイント上回っています。

【子どもの年齢別集計】

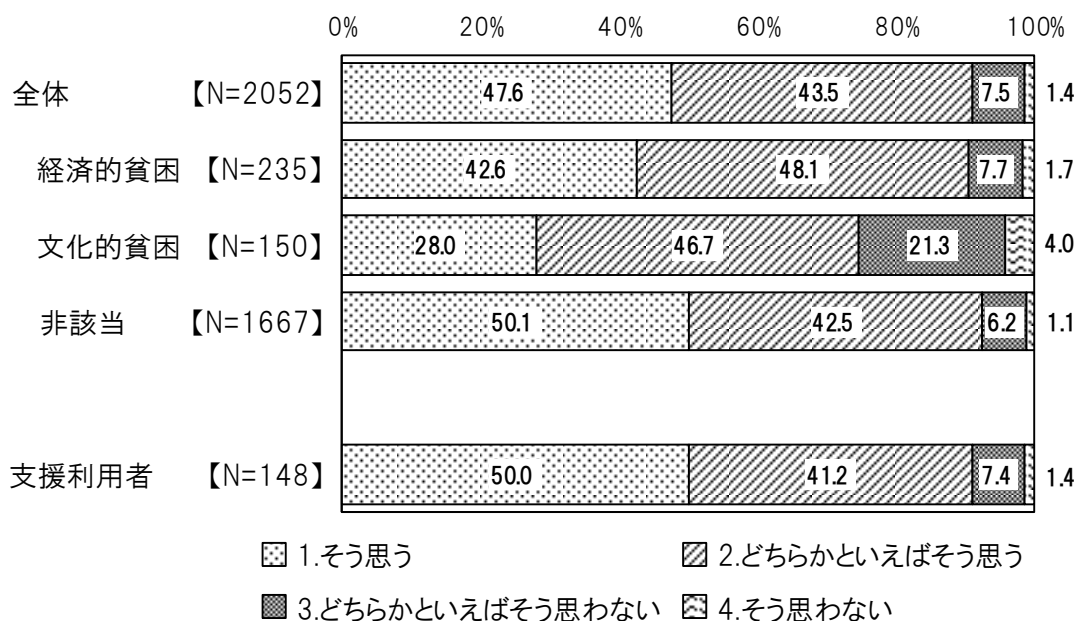
	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1. そう思う	5.5	6.7	5.5	8.1	12.3	12.0
2. どちらかといえばそう思う	38.0	45.5	46.9	24.3	39.5	49.4
3. どちらかといえばそう思わない	43.3	36.2	40.2	51.4	27.2	30.1
4. そう思わない	13.2	11.6	7.4	16.2	21.0	8.4
N 値(人)	1,147	541	435	37	81	83

⑥自分（回答されている方）自身のことよりも子どものことや教育にお金を使うことが多い

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 46-⑥	問 38-⑥	問 24-⑥	問 22-⑥
N 値	1,111	520	421	148

回答者が自分自身よりも子どものことや教育にお金をかけているかどうかについて、『非該当』『経済的貧困』では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答が9割を超えています。一方、『文化的貧困』では肯定的回答は74.7%となっており、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的回答が25.3%と多くなっています。

『支援利用者』では、肯定的回答が91.2%に上ります。



子どもの年齢別にみると、いずれの年代も『支援利用者』と『全体』とがほぼ同じ結果となりました。

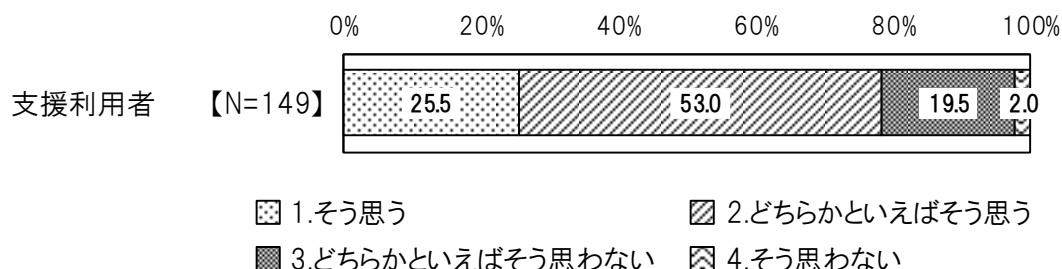
【子どもの年齢別集計】

	全体調査			支援利用者調査		
	就学前児童	小学生	中高生	就学前児童	小学生	中高生
1. そう思う	48.3	47.5	46.9	43.2	45.7	58.5
2. どちらかといえばそう思う	42.8	42.7	45.3	45.9	44.4	35.4
3. どちらかといえばそう思わない	7.5	8.7	5.7	8.1	7.4	6.1
4. そう思わない	1.4	1.1	2.1	2.7	2.5	0.0
N 値(人)	1,149	541	435	37	81	82

問 あなたは、お子さんの面倒を十分みていると思いますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 23
N 値				149

『支援利用者』の保護者が子どもの面倒を十分みているかどうかについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答が 78.5%に上り、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的回答が 21.5%となっています。



『支援利用者』を貧困層区別にみると、『経済的貧困』『非該当』では肯定的回答が 8～9 割に上りますが、『文化的貧困』では「どちらかといえばそう思わない」が 66.7%と多くなっています。

【支援利用者／貧困層区別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1. そう思う	29.8	-	15.6
2. どちらかといえばそう思う	49.0	33.3	75.0
3. どちらかといえばそう思わない	18.3	66.7	9.4
4. そう思わない	2.9	-	-
N 値(人)	104	9	32

子どもの年齢別にみると、就学前児童では肯定的回答が 78.3%、小学生では 74.1%、中高生では 81.9%となり、小学生がやや少なくなっています。

【支援利用者／子どもの年齢別集計】

	就学前児童	小学生	中高生
1. そう思う	35.1	24.7	21.7
2. どちらかといえばそう思う	43.2	49.4	60.2
3. どちらかといえばそう思わない	18.9	22.2	18.1
4. そう思わない	2.7	3.7	0.0
N 値(人)	37	81	83

母親の就労状況別にみると、フルタイムでは肯定的回答が74.7%であるのに対し、パート・アルバイト等では87.8%に上ります。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

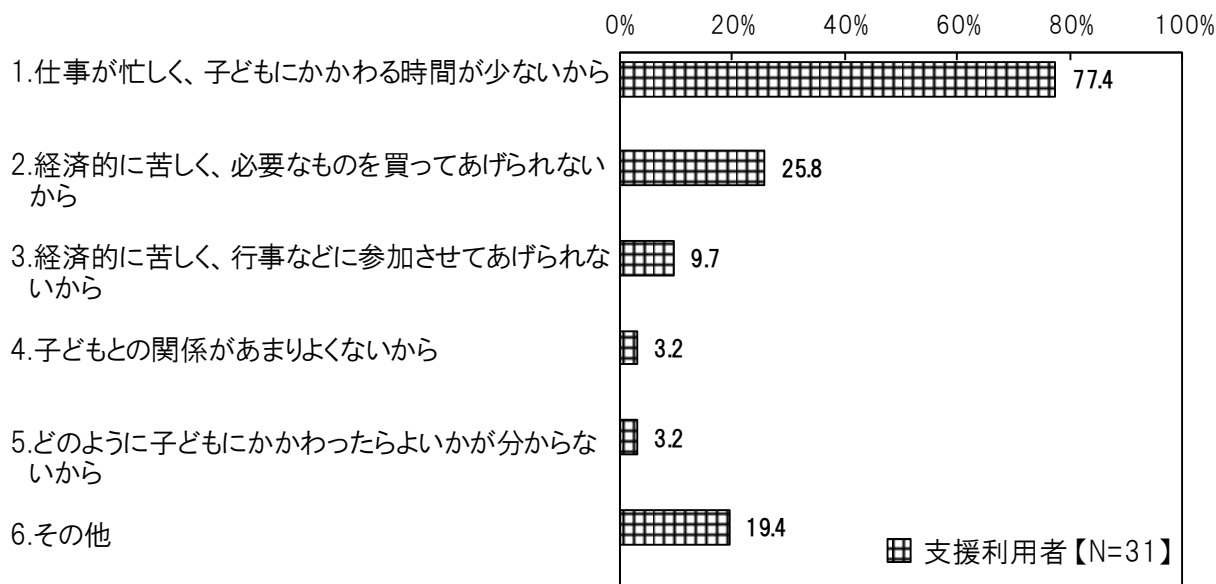
	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.そう思う	25.3	24.4	-	-	50.0	40.0
2.どちらかといえばそう思う	49.4	63.4	-	100.0	25.0	40.0
3.どちらかといえばそう思わない	21.7	12.2	100.0	-	25.0	20.0
4.そう思わない	3.6	-	-	-	-	-
N値(人)	83	41	1	1	4	10

問 「3」または「4」に○をつけた方にうかがいます。

面倒を十分みていないと思う理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 23-①
N 値				31

面倒を十分みていないと思う人に、その理由を訊いたところ、「仕事が忙しく、子どもにかかわる時間が少ない」が最も多く77.4%に上り、「経済的に苦しく、必要なものを買ってあげられない」が25.8%となっています。

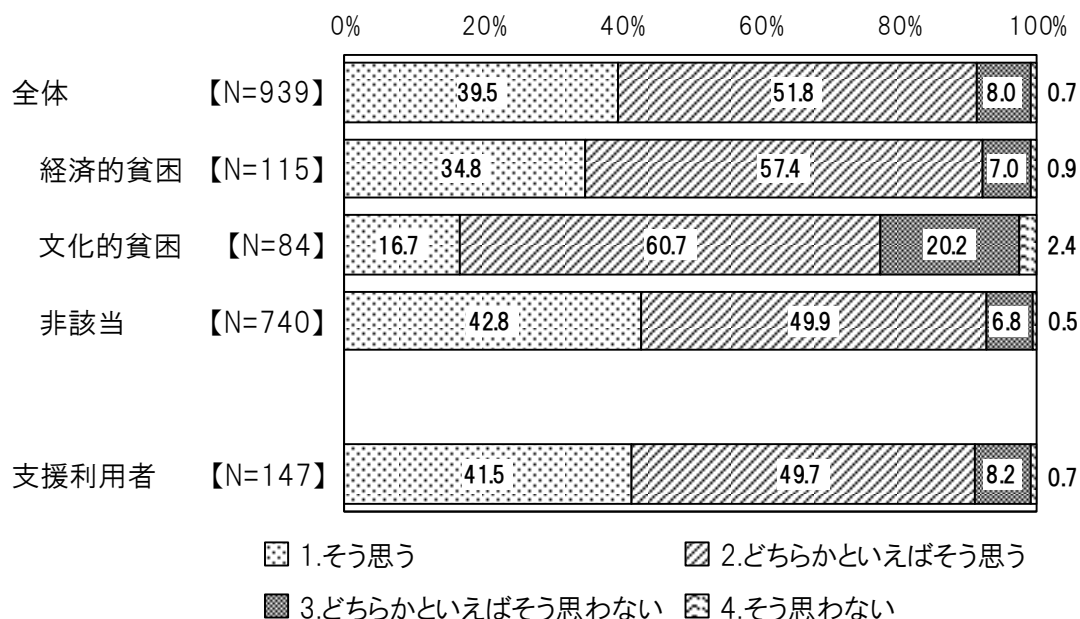


問 お子さんは、お子さん自身のことが好きだと思いますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号		問 39	問 25	問 24
N 値		520	419	147

子どもが自分自身のことを好きかどうかについて、『非該当』『経済的貧困』では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的回答が 9 割を超えています。一方、『文化的貧困』では肯定的回答は 77. 4%となっており、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的回答が 22. 6%と多くなっています。

『支援利用者』では、肯定的回答が 91. 2%に上ります。

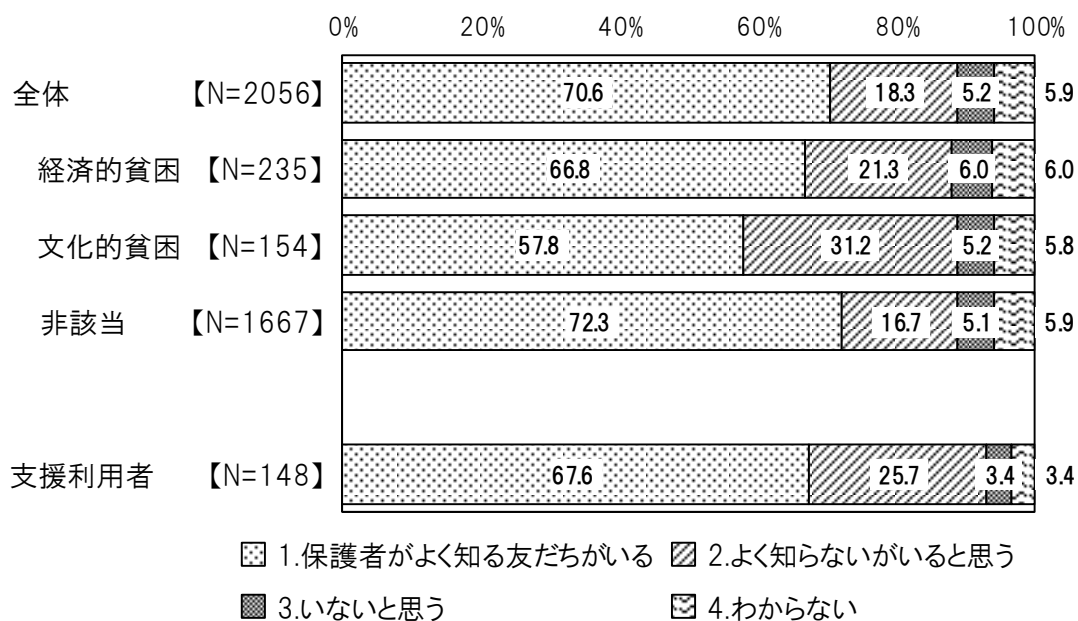


問 お子さんには仲の良い友だちがいますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 47	問 40	問 26	問 25
N 値	1,110	523	423	148

子どもに仲の良い友だちがどうかについて、いずれの区分でも「保護者がよく知る友だちがいる」が6～7割に上り、「よく知らないがいると思う」を加えた大半が友だちがいると回答しています。

『支援利用者』でも全体的に仲の良い友だちがいるとしている人が多くなっています。

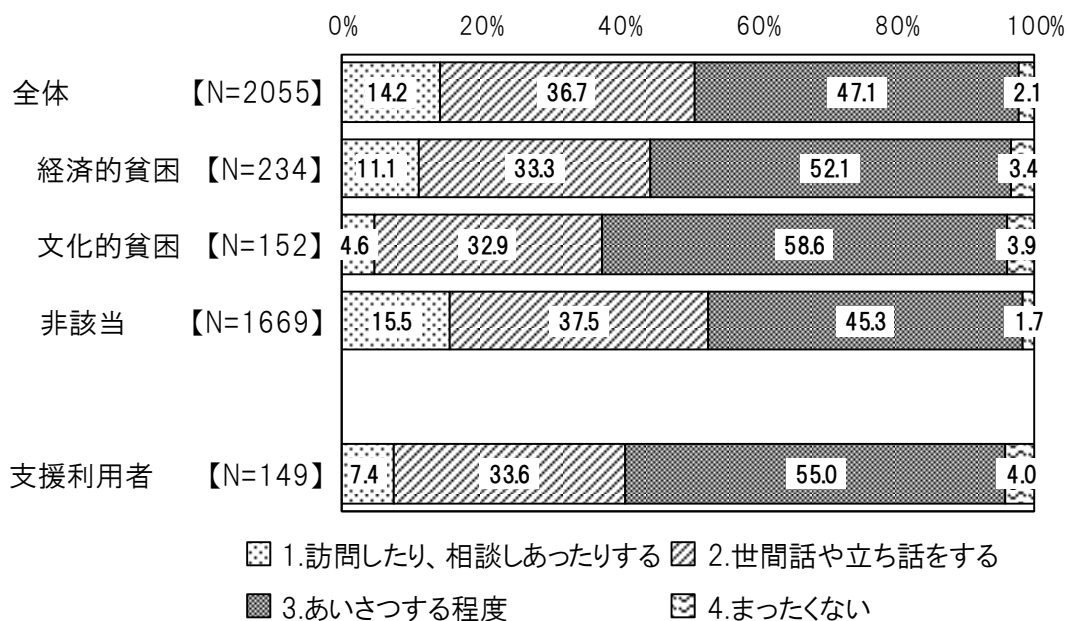


問 あなたの家庭は、近所の方との程度付き合いですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 48	問 41	問 27	問 26
N 値	1,111	522	422	149

近所の方との付き合いの程度については、いずれの区分でも「あいさつする程度」が最も多くなっています。「訪問したり、相談しあったりする」という深い付き合いについては、『非該当』が15.5%に上るのに対し、『文化的貧困』は4.6%にとどまっています。

『支援利用者』では「あいさつする程度」が55.0%と最も多く、「訪問したり、相談しあったりする」は7.4%と少なくなっています。



『支援利用者』を小学校区別にみると、人数が少ないものの、屋生、野登、亀山南、神辺では「世間話や立ち話をする」の割合がやや多くなっています。また、川崎では「まったくない」が10.5%とやや多くなっています。

【支援利用者／小学校区別集計】

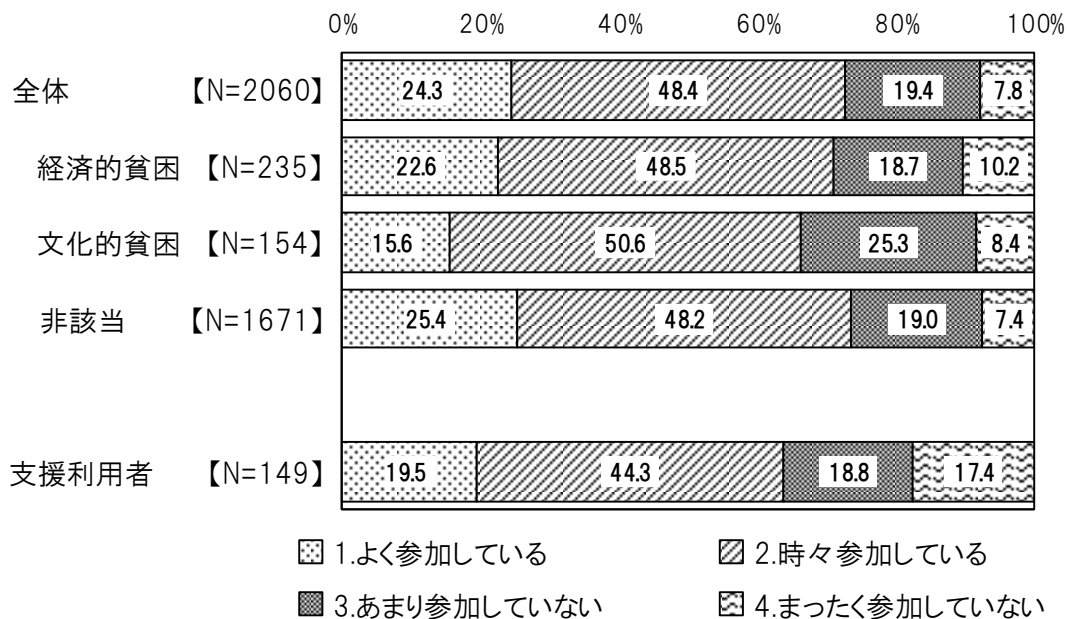
	亀山 西	亀山 東	亀山 南	屋生	井田 川	川崎	野登	白川	神辺	関	加太
1. 訪問したり、相談しあったりする	-	11.5	-	-	9.7	10.5	-	-	-	7.7	-
2. 世間話や立ち話をする	37.9	26.9	42.9	60.0	35.5	26.3	50.0	-	42.9	30.8	-
3. あいさつする程度	55.2	57.7	57.1	40.0	51.6	52.6	50.0	-	57.1	61.5	100.0
4. まったくない	6.9	3.8	-	-	3.2	10.5	-	-	-	-	-
N 値(人)	29	26	7	5	31	19	2	-	7	13	2

問 あなたの家庭では、地域の行事に参加していますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 49	問 42	問 28	問 27
N 値	1,114	523	423	149

地域の行事への参加について、『非該当』『経済的貧困』では「よく参加している」「時々参加している」を合わせた肯定的回答が7割を超えていますが、『文化的貧困』では66.2%と他に比べて少なくなっています。

『支援利用者』では肯定的回答は63.8%であり、「まったく参加していない」という人は17.4%となっています。



『支援利用者』を小学校区別にみると、人数が少ないものの、加太、亀山東、神辺では肯定的回答が7割を上回っています。一方、川崎では「まったく参加していない」が31.6%に上り、亀山西、関でも20%を上回っています。

【支援利用者／小学校区別集計】

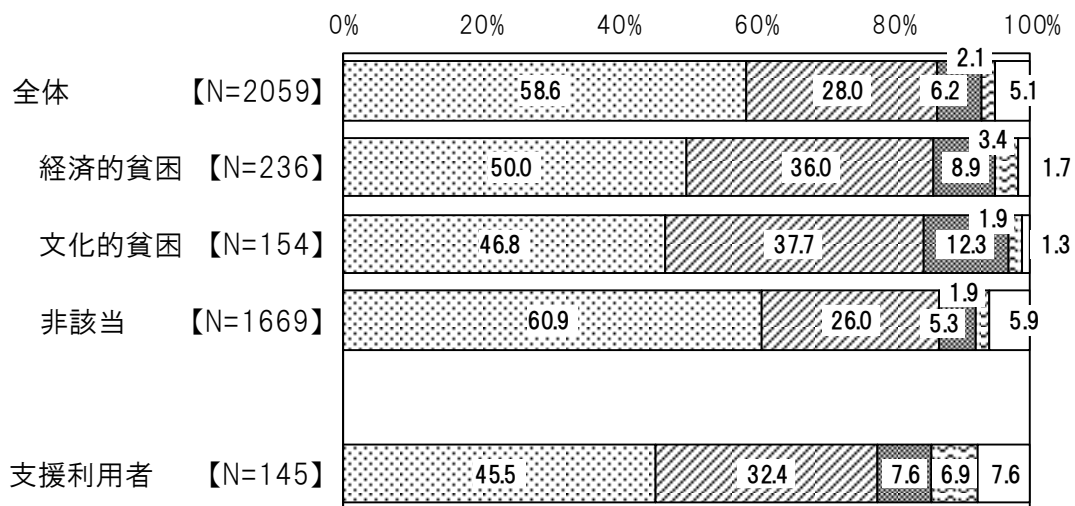
	亀山西	亀山東	亀山南	昼生	井田川	川崎	野登	白川	神辺	関	加太
1.よく参加している	13.3	19.2	28.6	-	20.0	21.1	50.0	-	14.3	30.8	50.0
2.時々参加している	50.0	53.8	28.6	60.0	46.7	42.1	-	-	57.1	30.8	50.0
3.あまり参加していない	13.3	19.2	28.6	40.0	23.3	5.3	50.0	-	14.3	15.4	-
4.まったく参加していない	23.3	7.7	14.3	-	10.0	31.6	-	-	14.3	23.1	-
N値(人)	30	26	7	5	30	19	2	-	7	13	2

問 あなたの家庭では、保育所、幼稚園や学校の行事に参加していますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 50	問 43	問 29	問 28
N 値	1,114	522	423	145

保育所、幼稚園や学校の行事への参加について、「よく参加している」「時々参加している」を合わせた肯定的回答がいずれの区分でも 8 割を超えています。

『支援利用者』では 8 割弱であり、「まったく参加していない」という人も 6.9%となっています。



- ☒ 1.よく参加している
- ☒ 2.時々参加している
- ☒ 3.あまり参加していない
- ☒ 4.まったく参加していない
- ☐ 5.子どもが保育所、幼稚園や学校に通っていない

※小学生調査、中高生調査には「5.子どもが保育所、幼稚園や学校に通っていない」の選択肢なし

『支援利用者』を小学校区別にみると、人数が少ないものの、加太、井田川、関では肯定的回答が 9 割を超えています。また、亀山南と川崎は「良く参加している」が 6 割を超えています。

【支援利用者／小学校区別集計】

	亀山 西	亀山 東	亀山 南	昼生	井田 川	川崎	野登	白川	神辺	関	加太
1.よく参加している	41.4	46.2	71.4	-	45.2	63.2	-	-	28.6	45.5	50.0
2.時々参加している	41.4	30.8	-	40.0	48.4	10.5	-	-	42.9	36.4	50.0
3.あまり参加していない	3.4	3.8	-	20.0	3.2	10.5	100.0	-	28.6	-	-
4.まったく参加していない	6.9	11.5	14.3	20.0	-	10.5	-	-	-	-	-
5.子どもが保育所、幼稚園や 学校に通っていない	6.9	7.7	14.3	20.0	3.2	5.3	-	-	-	18.2	-
N値(人)	29	26	7	5	31	19	2	-	7	11	2

(5) お子さんの教育費や生活費について

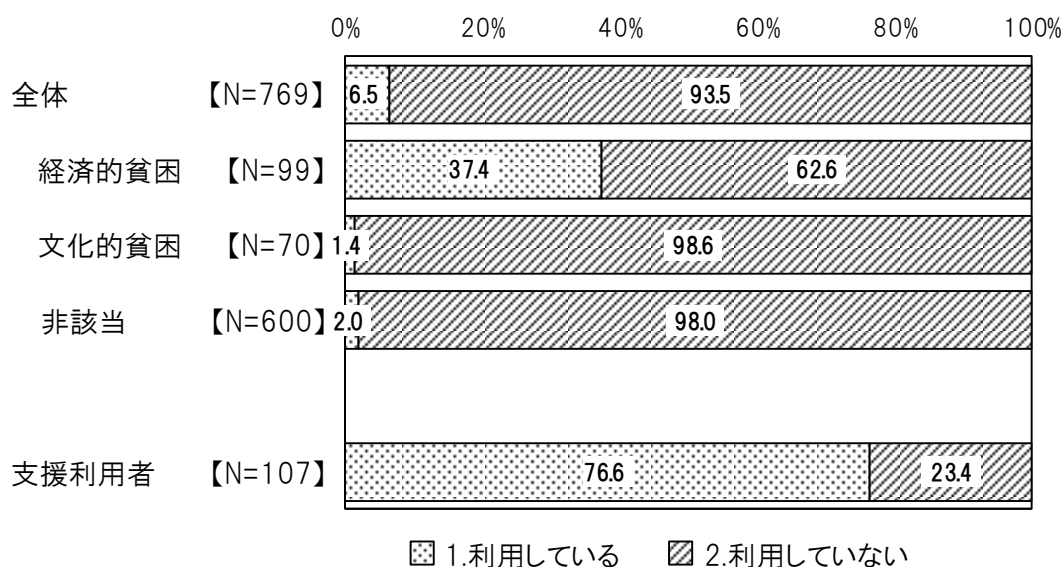
問 小・中学生のお子さんをお持ちの方にうかがいます。

現在、お子さんのために就学援助制度を利用していますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号		問 30	問 16	問 38
N 値		521	248	107

就学援助制度の利用については、『経済的貧困』の 37.4%、『文化的貧困』の 1.4%、『非該当』の 2.0%が利用しています。

『支援利用者』では 76.6%が利用しています。

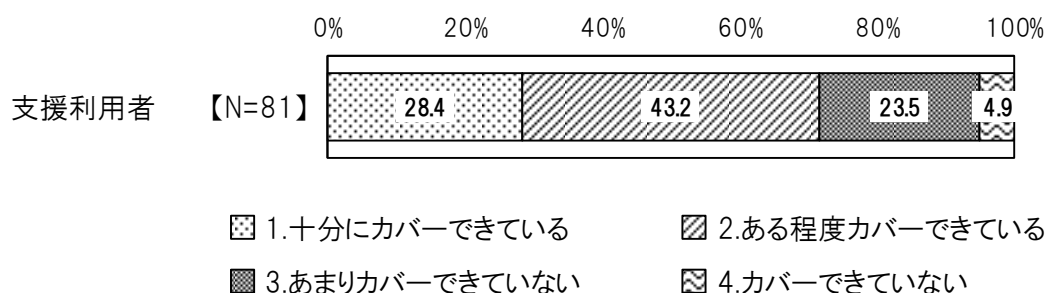


問 「1」に○をつけた方にうかがいます。

就学援助は、学校にかかる費用をカバーできていますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 38-①
N 値				81

『支援利用者』のうち就学援助を利用している人に、学校にかかる費用のカバー状況を聞いたところ、「十分に」と「ある程度」を合わせたカバーできているという肯定的回答が 71.6%であったものの、「あまりカバーできていない」が 23.5%、「カバーできていない」が 4.9%ありました。



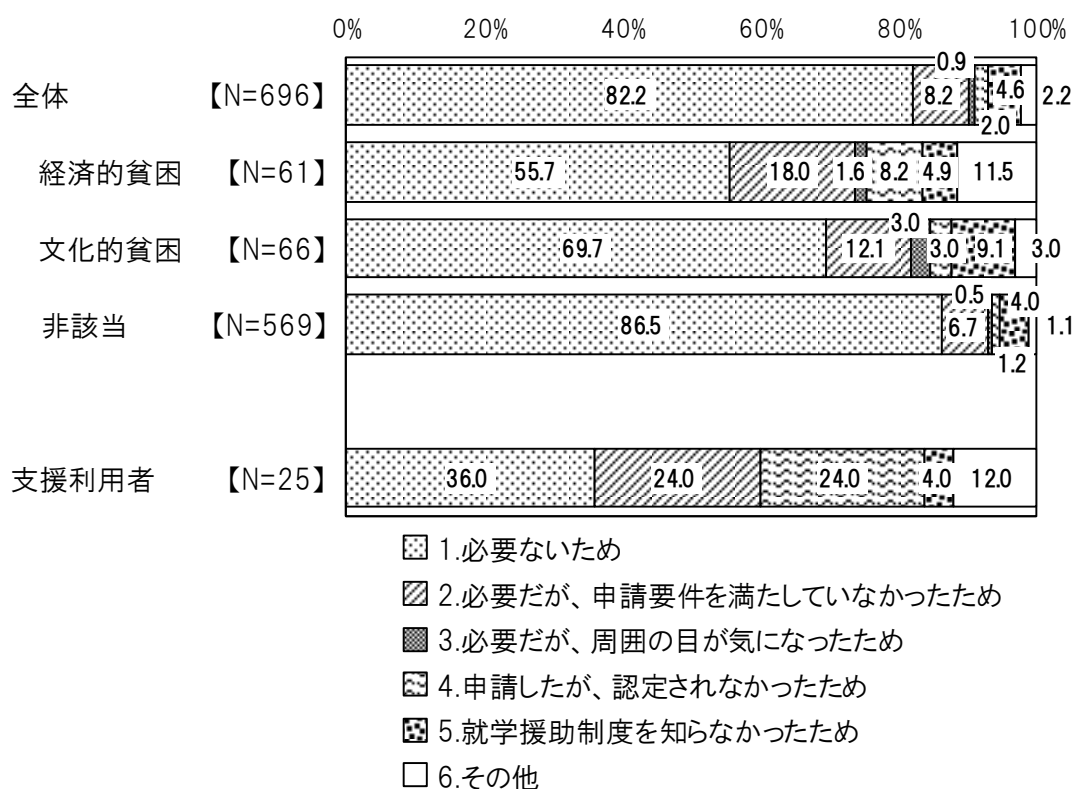
問 「2」に○をつけた方にうかがいます。

利用していない理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号		問 30-①	問 16-①	問 38-②
N 値		469	227	25

就学援助を利用していない人に、その理由を訊いたところ、いずれの区分でも「必要ないため」が最も多くなっています。一方、『経済的貧困』では「必要だが、申請状況を満たしていなかったため」が約2割、「申請したが、認定されなかったため」が約1割あり、『文化的貧困』では「必要だが、申請状況を満たしていなかったため」や「就学援助制度を知らなかったため」がそれぞれ約1割あります。

『支援利用者』では、「必要ない」が36.0%で最も多いものの、「必要だが、申請条件を満たしていなかった」や「申請したが、認定されなかった」がそれぞれ24.0%となっており、必要であるにもかかわらず利用できていない人がいることがうかがえます。

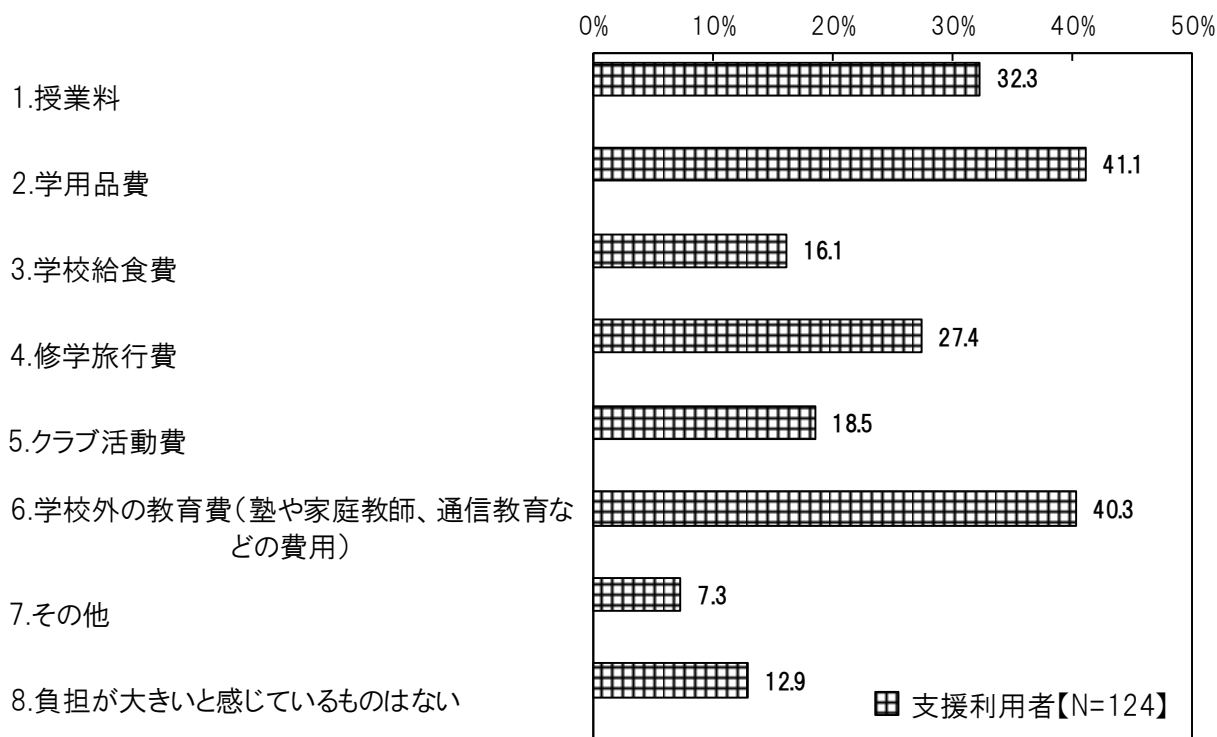


問 小・中学生、高校生のお子さんをお持ちの方にうかがいます。

お子さんの教育にかかる費用について、負担が大きいと感じるものは何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 39
N 値				124

『支援利用者』の子どもの教育費で負担が大きいものについては、「学用品費」が 41.1%、「学校外の教育費」が 40.3%で多くなっています。次いで、「授業料」「修学旅行費」が続きます。



子どもの年齢別にみると、就学前児童では「学用品費」が最も多く、小学生では「学校外の教育費」が最も多くなっています。中高生では「学用品費」に次いで「授業料」も多く、5 割近くの人が回答しています。

【支援利用者／子どもの年齢別集計】

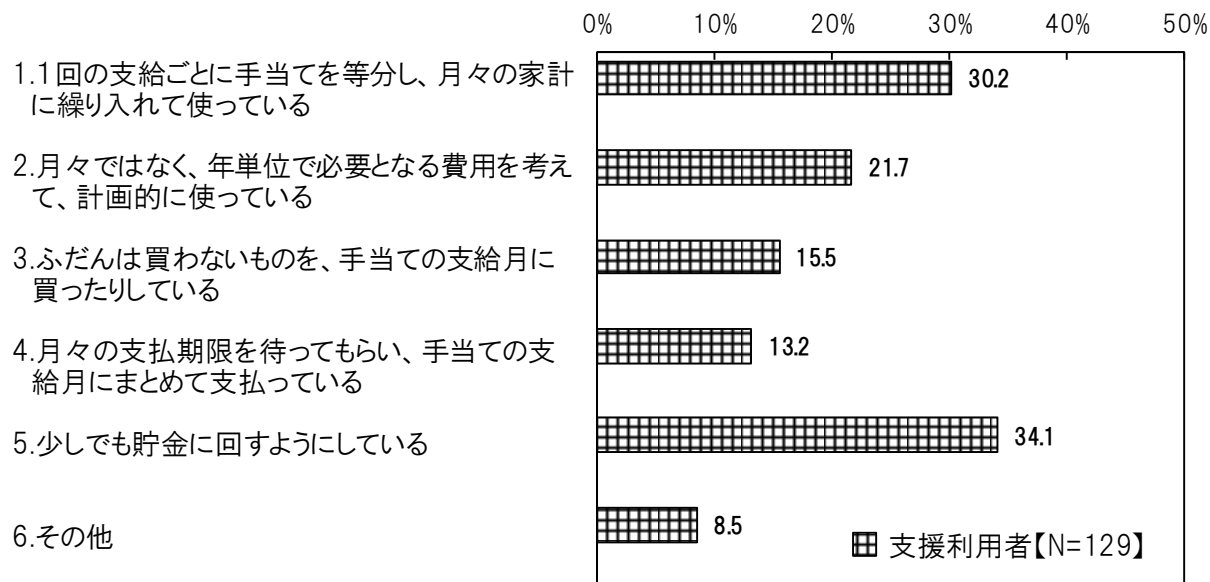
	就学前児童	小学生	中高生
1.授業料	15.0	21.1	46.3
2.学用品費	40.0	38.2	48.8
3.学校給食費	25.0	19.7	13.8
4.修学旅行費	20.0	18.4	37.5
5.クラブ活動費	10.0	18.4	27.5
6.学校外の教育費(塾や家庭教師、通信教育などの費用)	30.0	47.4	38.8
7.その他	5.0	5.3	8.8
8.負担が大きいと感じているものはない	25.0	14.5	7.5
N値(人)	20	76	80

問 児童扶養手当を受給している方にうかがいます。

児童扶養手当はどのように使っていますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 40
N 値				129

『支援利用者』の児童扶養手当の使い方については、「少しでも貯金に回す」が34.1%で最も多く、次いで、「手当てを等分し、月々の家計に繰り入れて使う」が30.2%となっています。

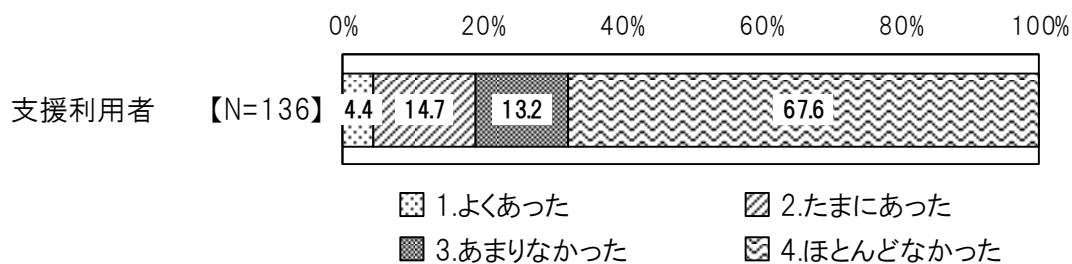


問 これまで、経済的な理由で、次のような経験がありますか。

①お子さんが必要とする文具や教材が買えなかった

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 41-①
N 値				136

『支援利用者』で子どもが必要とする文具や教材が買えなかった経験については、「ほとんどなかった」が67.6%に上りますが、「たまにあった」が14.7%、「よくあった」が4.4%となっています。



『支援利用者』を貧困層区分別にみると、『経済的貧困』では「よくあった」の回答が6.3%あり、「たまにあった」は『文化的貧困』では33.3%、『経済的貧困』では14.7%あります。

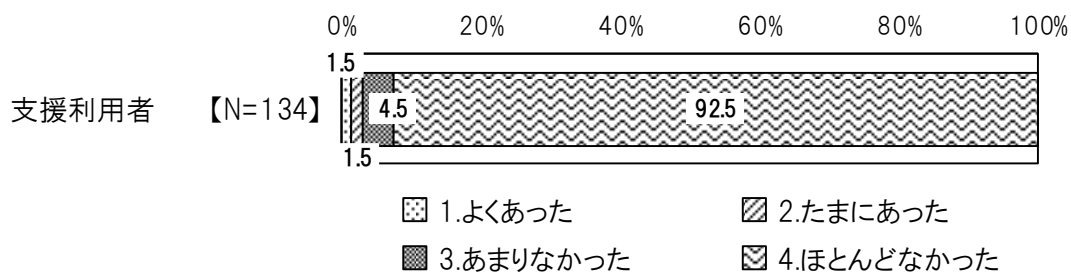
【支援利用者／貧困層区分別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.よくあった	6.3	-	-
2.たまにあった	14.7	33.3	7.1
3.あまりなかった	12.6	11.1	14.3
4.ほとんどなかった	66.3	55.6	78.6
N値(人)	95	9	28

②お子さんを学校行事（遠足、修学旅行など）に参加させられなかった

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 41-②
N 値				134

『支援利用者』で子どもを学校行事に参加させられなかった経験については、「ほとんどなかった」が92.5%と大半を占めますが、経験がある人がわずかながらいます。



『支援利用者』を貧困層区分別にみると、わずかながら、『経済的貧困』では「よくあった」「たまにあった」の回答がみられます。

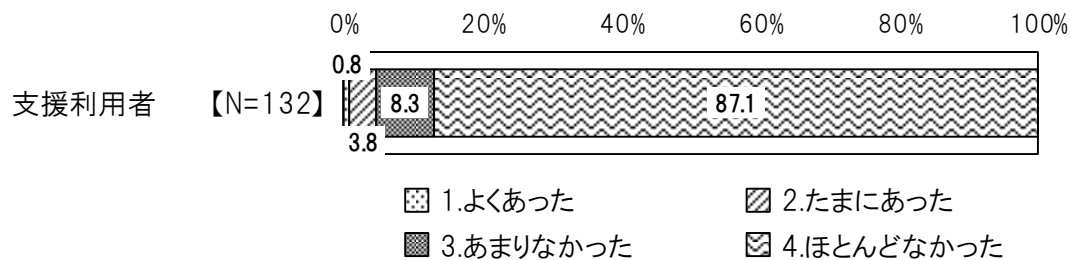
【支援利用者／貧困層区分別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.よくあった	2.1	-	-
2.たまにあった	2.1	-	-
3.あまりなかった	4.3	-	7.1
4.ほとんどなかった	91.5	100.0	92.9
N値(人)	94	9	28

③お子さんをクラブ活動に参加させられなかった

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 41-③
N 値				132

『支援利用者』で子どもをクラブ活動に参加させられなかった経験については、「ほとんどなかった」が 87.1%を占めますが、「あまりなかった」が 8.3%、「たまにあった」が 3.8%など経験のある人がいます。



『支援利用者』を貧困層区分別にみると、わずかながら、『経済的貧困』では「よくあった」「たまにあった」の回答がみられます。

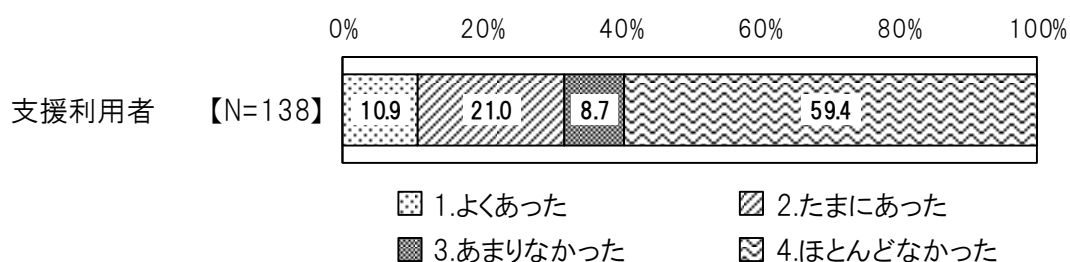
【支援利用者／貧困層区分別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.よくあった	1.1	-	-
2.たまにあった	5.4	-	-
3.あまりなかった	8.6	-	11.1
4.ほとんどなかった	84.9	100.0	88.9
N値(人)	93	9	27

④お子さんに誕生日プレゼントやお年玉をあげることができなかった

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 41-④
N 値				138

『支援利用者』で子どもにプレゼントやお年玉をあげられなかった経験については、「ほとんどなかった」が 59.4%に上りますが、「たまにあった」が 21.0%、「よくあった」が 10.9%と比較的多くなっています。



『支援利用者』を貧困層区別にみると、『経済的貧困』では「よくあった」が 14.3%に上ります。

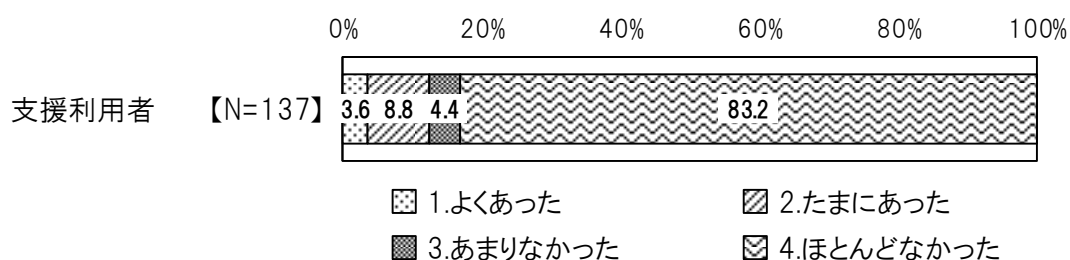
【支援利用者／貧困層区別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.よくあった	14.3	-	3.7
2.たまにあった	19.4	22.2	22.2
3.あまりなかった	6.1	33.3	11.1
4.ほとんどなかった	60.2	44.4	63.0
N値(人)	98	9	27

⑤ 料金滞納のために、電気、ガス、水道が止められた

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 41-⑤
N 値				137

『支援利用者』で料金滞納のために電気等が止められた経験については、「ほとんどなかった」が 83.2%を占めますが、「たまにあった」が 8.8%、「よくあった」が 3.6%など経験のある人がいます。



『支援利用者』を貧困層区分別にみると、『経済的貧困』では「よくあった」が 4.2%、「たまにあった」が 11.5%となっています。また、『文化的貧困』では「よくあった」が 11.1%とやや多くなっています。一方、『非該当』では「ほとんどなかった」が 100%となっています。

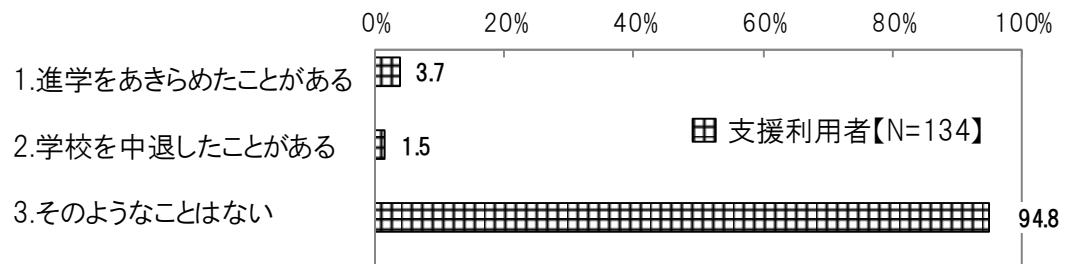
【支援利用者／貧困層区分別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.よくあった	4.2	11.1	-
2.たまにあった	11.5	-	-
3.あまりなかった	6.3	-	-
4.ほとんどなかった	78.1	88.9	100.0
N値(人)	96	9	28

問 これまで、経済的な理由で、お子さんが進学をあきらめたり、学校を中退したりしたことはありますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 42
N 値				134

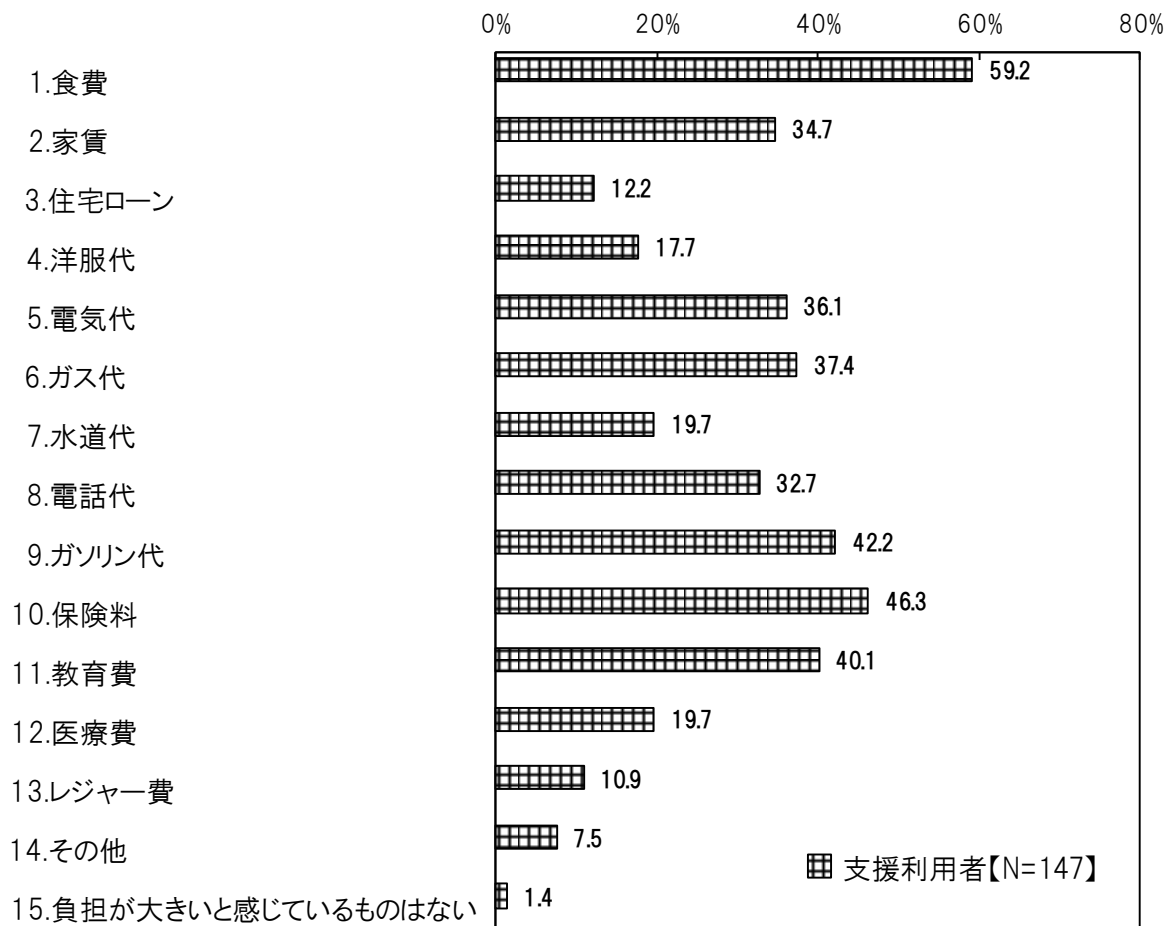
『支援利用者』で経済的な理由により子どもが進学等をあきらめた経験については、「そのようなことはない」が94.8%と大半を占めますが、「進学をあきらめたことがある」が3.7%、「学校を中退したことがある」が1.5%と、わずかながらいます。



問 生活にかかる費用について、負担が大きいと感じるものは何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 43
N 値				147

『支援利用者』で生活費用のうち負担が大きいと感じるものについては、「食費」が最も多く59.2%、次いで「保険料」「ガソリン代」「教育費」の順となっています。



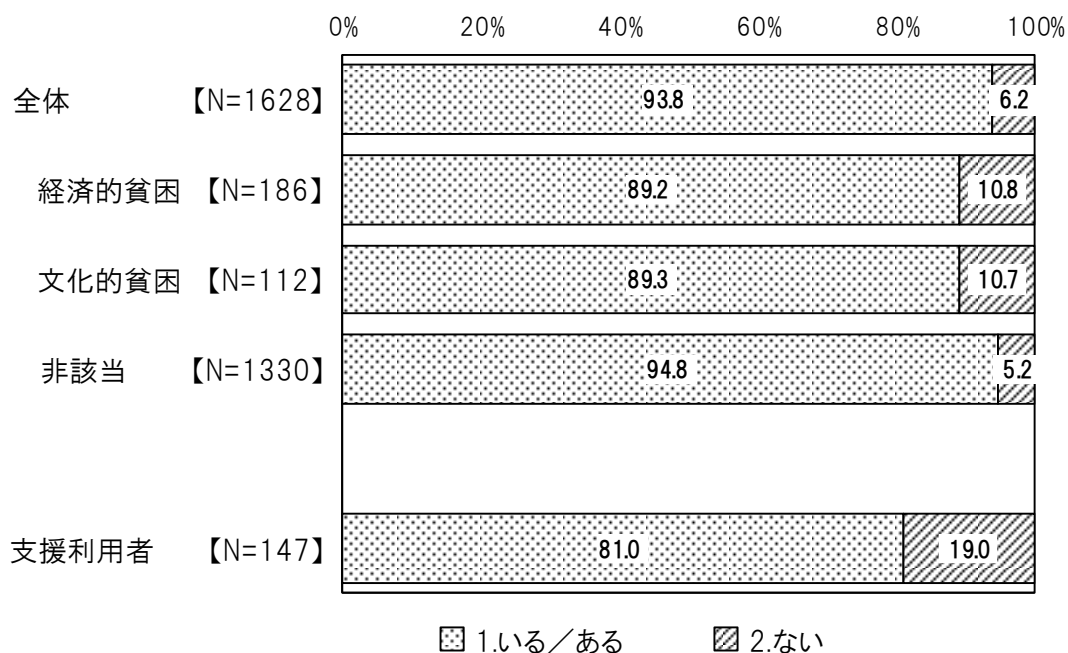
（６）相談や支援・助成制度について

問 お子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人または場所がありますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 9	問 9		問 44
N 値	1,107	521		147

子育てに関する相談先については、いずれの区分でも 9 割前後が「いる／ある」としています。一方、『経済的貧困』『文化的貧困』では約 1 割が「ない」としています。

『支援利用者』については「いる／ある」が 81.0%であり、19.0%が「ない」としています。



『支援利用者』を子どもの年齢別にみると、就学前児童では「ない」が 10.8%、小学生では 14.1%ですが、中高生になると 27.7%と多くなっています。

【支援利用者／子どもの年齢別集計】

	就学前児童	小学生	中高生
1. いる／ある	89.2	85.9	72.3
2. ない	10.8	14.1	27.7
N 値(人)	37	78	83

『支援利用者』を母親の就労状況別にみると、パート・アルバイト等では「ない」が 7.5%ですが、フルタイムでは 24.4%と多くなっています。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

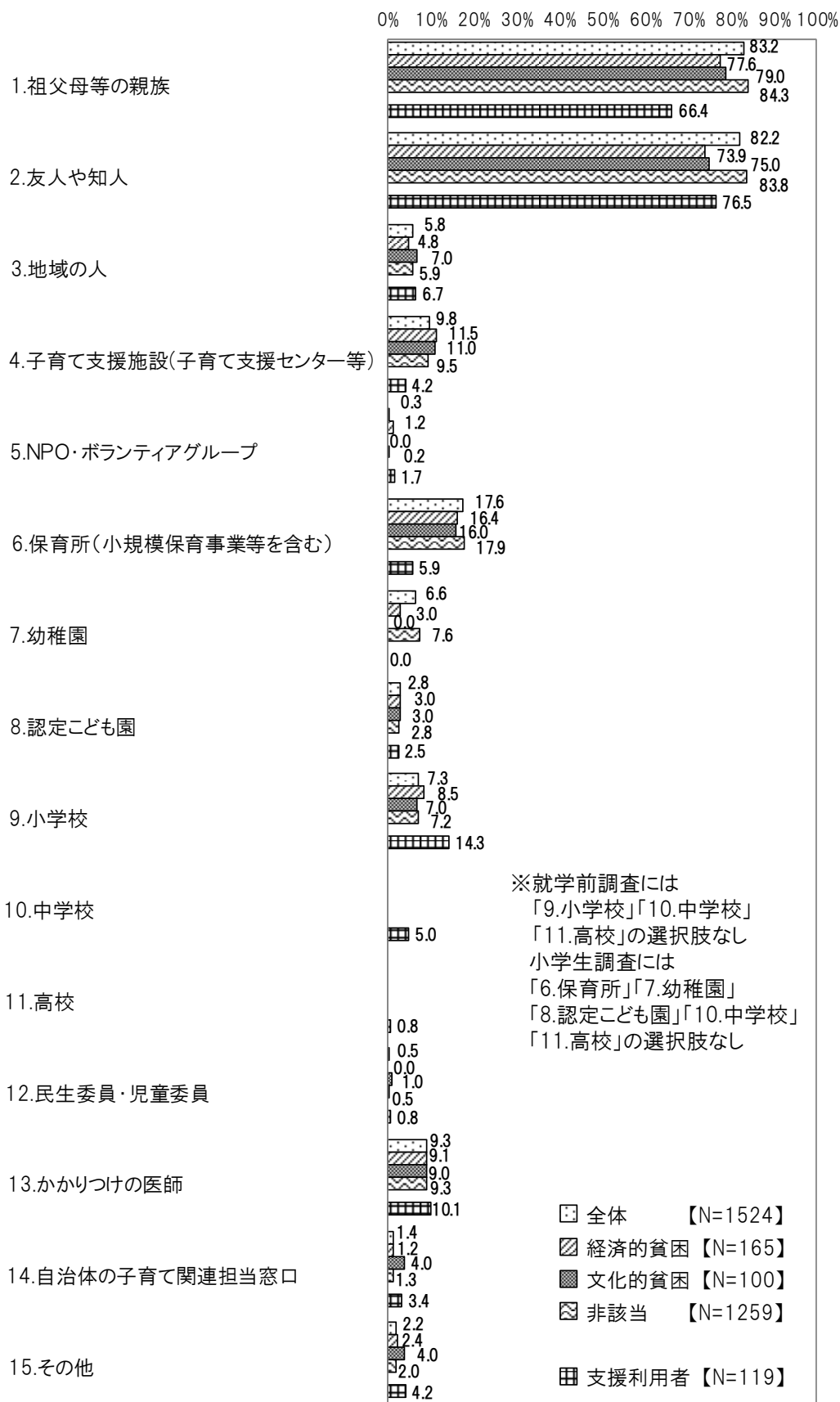
	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1. いる／ある	75.6	92.5	-	100.0	100.0	100.0
2. ない	24.4	7.5	100.0	-	-	-
N 値(人)	82	40	1	1	4	10

問 「1. いる／ある」に○をつけた方にうかがいます。

お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 9-①	問 9-①		問 44-①
N 値	1,048	476		119

相談先は、いずれの区分も「祖父母等の親族」「友人や知人」が多くなっています。

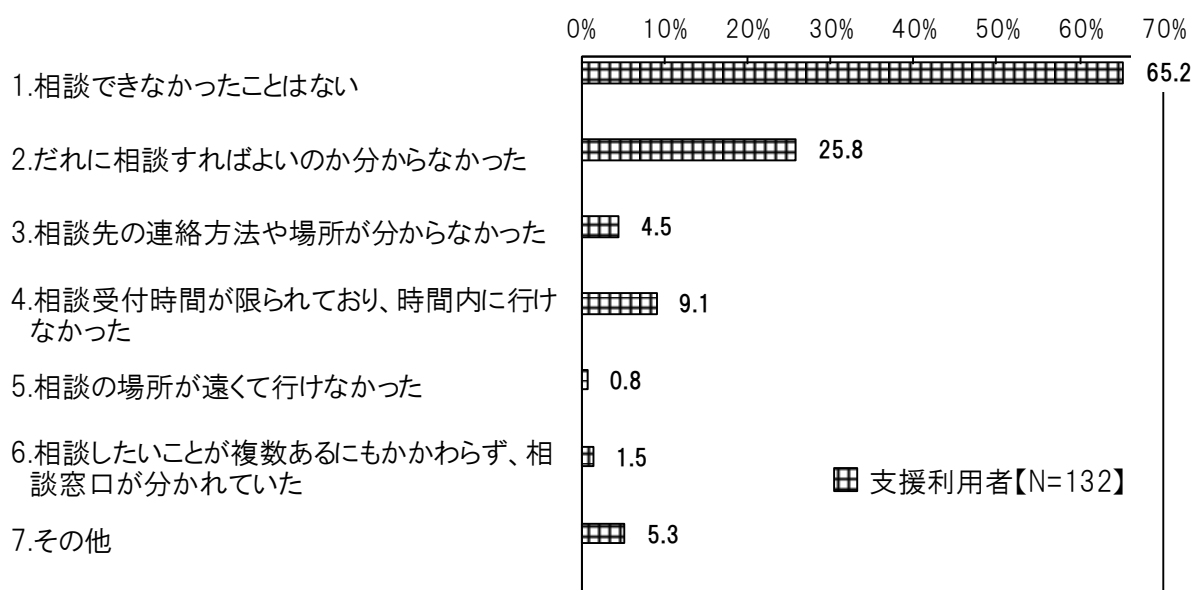


問 子育て（教育を含む）のことで相談したかったが、相談できなかったことはありますか。相談できなかった場合、その理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 45
N 値				132

『支援利用者』が相談できなかった経験の有無を聞いたところ、「ない」と答えた人が 65.2% という結果でした。

残る約 3 分の 1 が相談できなかったことが「あった」ということであり、その理由については、「だれに相談すればよいのかが分からなかった」が 25.8% に上り、「時間内に行けなかった」が 9.1% となっています。



母親の就労状況別にみると、パート・アルバイト等では「ない」が 79.4% に上りますが、フルタイムでは 60.5% にとどまります。フルタイムの人が相談できなかった理由は、「だれに相談すればよいのかが分からなかった」が 28.9%、「時間内に行けなかった」が 11.8% となっています。

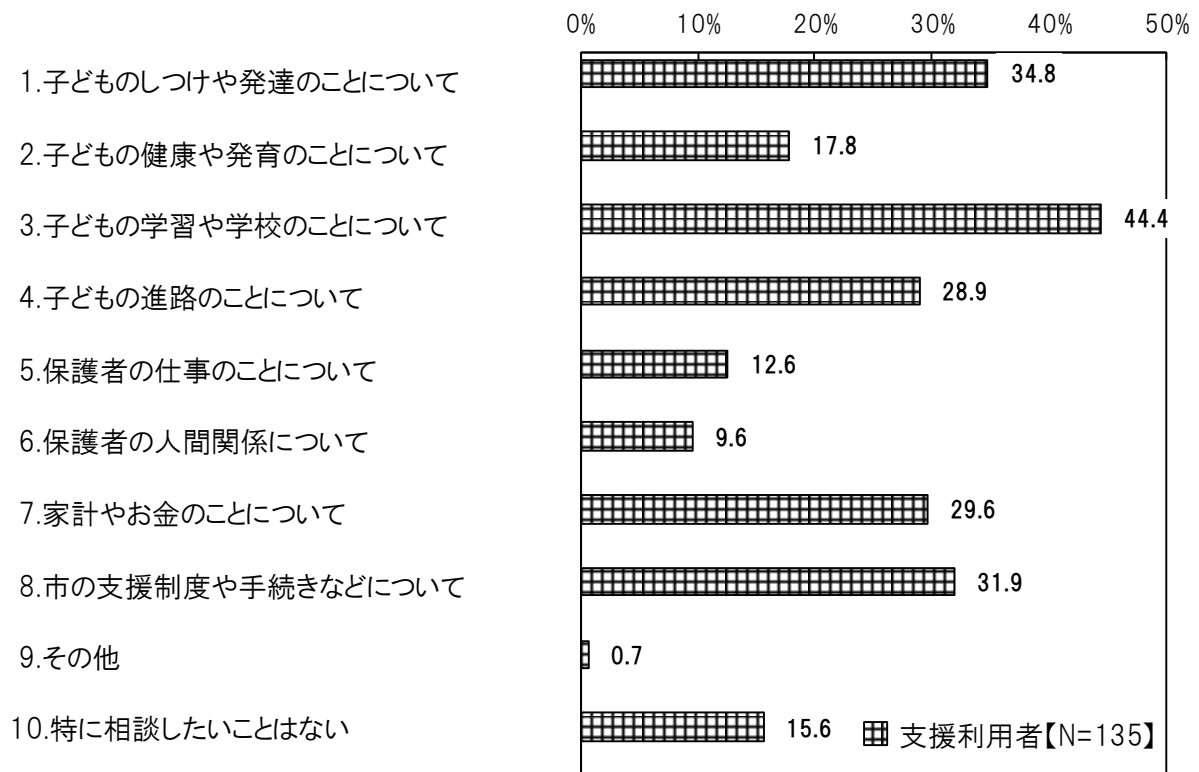
【支援利用者／母親の就労状況別集計】

	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1. 相談できなかったことはない	60.5	79.4	-	-	100.0	60.0
2. だれに相談すればよいのかが分からなかった	28.9	14.7	100.0	100.0	-	20.0
3. 相談先の連絡方法や場所が分からなかった	5.3	5.9	-	-	-	-
4. 相談受付時間が限られており、時間内に行けなかった	11.8	-	-	-	-	10.0
5. 相談の場所が遠くて行けなかった	-	2.9	-	-	-	-
6. 相談したいことが複数あるにもかかわらず、相談窓口が分かれていた	1.3	2.9	-	-	-	-
7. その他	5.3	2.9	-	-	-	20.0
N 値 (人)	76	34	1	1	3	10

問 どのようなことを相談したいと思っていますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 46
N 値				135

『支援利用者』の相談内容については、「子どもの学習や学校のこと」が最も多く 44.4%に上り、次いで「子どものしつけや発達のこと」が 34.8%、「市の支援制度や手続きなど」が 31.9%、「家計やお金のこと」が 29.6%、「子どもの進路のこと」28.9%などとなっています。



子どもの年齢別にみると、就学前児童では「子どものしつけや発達のこと」「子どもの学習や学校のこと」「家計やお金のこと」が多くなっています。小学生では「子どもの学習や学校のこと」と「子どものしつけや発達のこと」が4割を超えています。中高生では「子どもの進路のこと」と「子どもの学習や学校のこと」が4割を超えています。

【支援利用者／子どもの年齢別集計】

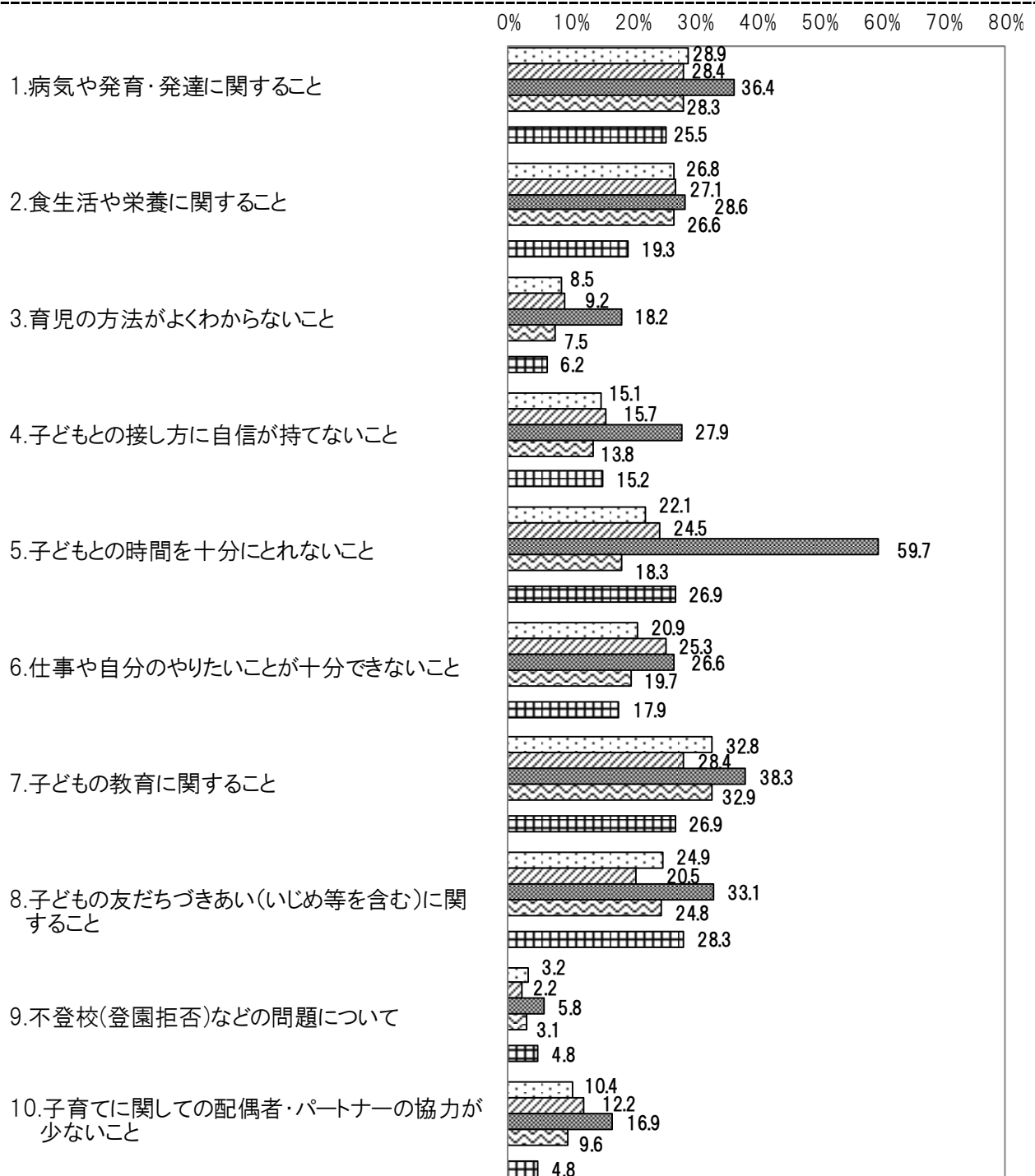
	就学前児童	小学生	中高生
1. 子どものしつけや発達のことについて	37.1	40.8	26.8
2. 子どもの健康や発育のことについて	20.0	18.4	11.3
3. 子どもの学習や学校のことについて	34.3	47.4	45.1
4. 子どもの進路のことについて	8.6	18.4	47.9
5. 保護者の仕事のことにについて	17.1	13.2	11.3
6. 保護者の人間関係について	14.3	10.5	7.0
7. 家計やお金のことについて	34.3	27.6	32.4
8. 市の支援制度や手続きなどについて	28.6	30.3	35.2
9. その他	-	1.3	1.4
10. 特に相談したいことはない	25.7	17.1	9.9
N値(人)	35	76	71

問 子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることはどのようなことですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号	問 51	問 45	問 30	問 47
N 値	1100	515	416	145

子育てに関する悩みや気になることについては、『経済的貧困』では「子どもを叱りすぎている気がする」「病気や発育・発達」「子どもの教育」などが僅差で続いています。『文化的貧困』では「子どもとの時間を十分にとれない」が59.7%と突出して多く、「子どもを叱りすぎている気がする」「子どもの教育」などが上位となっています。『非該当』では「子どもの教育」「子どもを叱りすぎている気がする」「病気や発育・発達」などが上位となっています。

『支援利用者』では「子どもの友だちづきあい」「子どもとの時間を十分にとれない」「子どもの教育」「病気や発育・発達」などが上位となっています。





『支援利用者』を子どもの年齢別にみると、就学前児童では「子どもを叱りすぎているような気がする」が最も多く、37.8%に上ります。小学生では「病気や発育・発達」「子どもの友だちづきあい」「子どもを叱りすぎているような気がする」が3割を超えています。中高生では「子どもとの時間を十分にとれない」が30.4%で最も多く、「子どもの教育」「子どもの友だちづきあい」も僅差で続きます。

【支援利用者／子どもの年齢別集計】

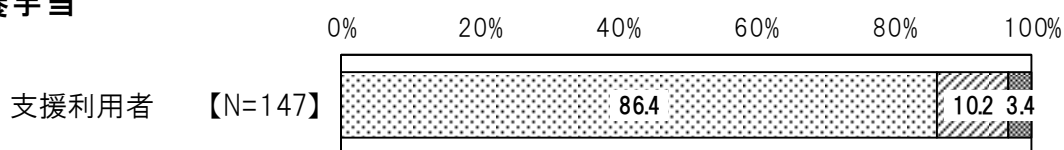
	就学前児童	小学生	中高生
1.病気や発育・発達に関すること	24.3	32.9	21.5
2.食生活や栄養に関すること	24.3	21.5	16.5
3.育児の方法がよくわからないこと	5.4	7.6	2.5
4.子どもとの接し方に自信が持てないこと	18.9	15.2	13.9
5.子どもとの時間を十分にとれないこと	24.3	27.8	30.4
6.仕事や自分のやりたいことが十分できないこと	24.3	12.7	15.2
7.子どもの教育に関すること	21.6	29.1	27.8
8.子どもの友だちづきあい(いじめ等を含む)に関すること	24.3	31.6	26.6
9.不登校などの問題について	2.7	3.8	7.6
10.子育てに関しての配偶者・パートナーの協力が少ないこと	2.7	7.6	6.3
11.配偶者・パートナーと子育てに関して意見があわないこと	-	5.1	1.3
12.保護者に話し相手や相談相手、協力者がいないこと	8.1	5.1	13.9
13.自分の子育てについて、親族・近隣の人・職場など、まわりの見目が気になること	8.1	10.1	7.6
14.保護者同士の交流・つきあいが難しいこと	16.2	19.0	17.7
15.配偶者・パートナー以外に子育てを手伝ってくれる人がいないこと	8.1	3.8	1.3
16.子どもを叱りすぎているような気がする	37.8	31.6	7.6
17.子育てのストレスがたまって、子どもに暴力をふるったり、世話をしなかったりしてしまうこと	2.7	3.8	0.0
18.地域の子育て支援サービスの内容や利用・申し込み方法がよくわからないこと	5.4	2.5	5.1
19.特になし	18.9	25.3	21.5
20.その他	-	2.5	8.9
N値(人)	37	79	79

問 次のような支援・助成の制度があることをご存知ですか。

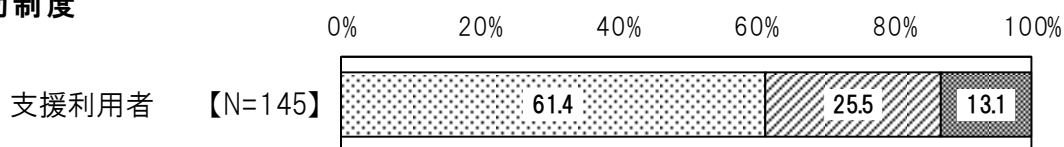
種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 48

『支援利用者』の支援・助成制度への認知度について、①児童扶養手当の86.4%、②就学援助制度の61.4%、④高等学校等就学援助金の21.3%は「利用したことがある」との回答でしたが、他の制度の利用は5%以下でした。「利用したことはないが知っている」を含めた認知度は、①児童扶養手当、②就学援助制度及び③生活保護については、大半が知っていますが、④高等学校等就学援助金と⑤奨学のための給付金は約5割の認知にとどまり、⑥母子父子寡婦福祉資金貸付金と⑦生活福祉資金貸付金については2~3割の認知しかない結果となりました。

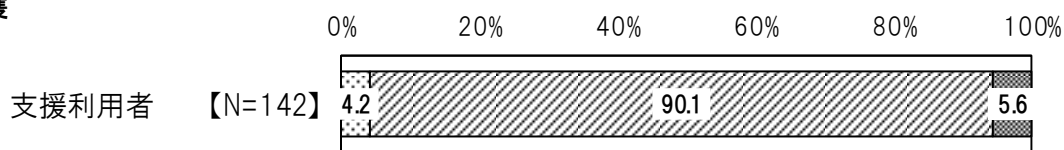
① 児童扶養手当



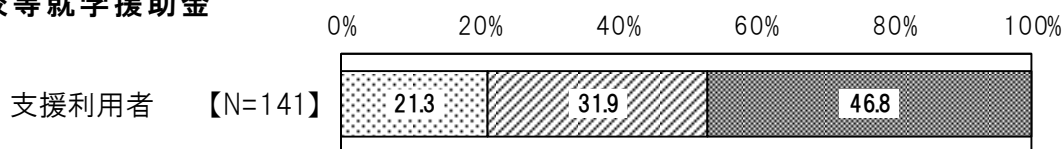
② 就学援助制度



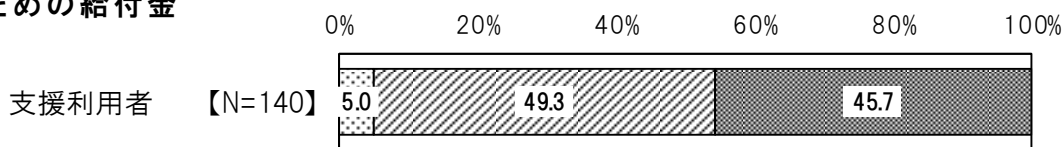
③ 生活保護



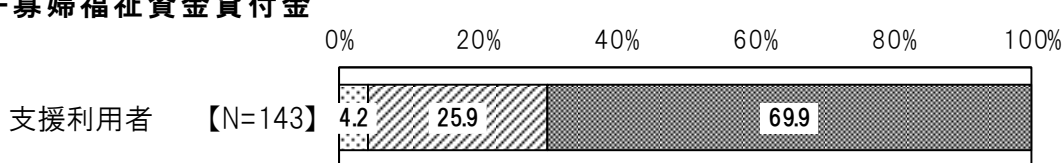
④ 高等学校等就学援助金



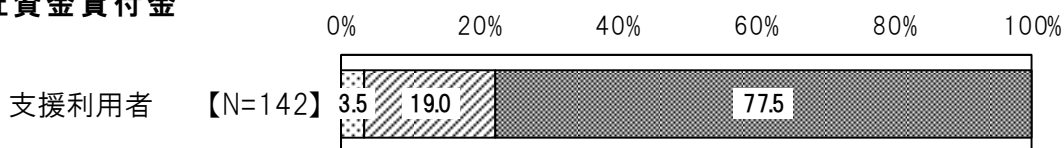
⑤ 奨学のための給付金



⑥ 母子父子寡婦福祉資金貸付金



⑦ 生活福祉資金貸付金



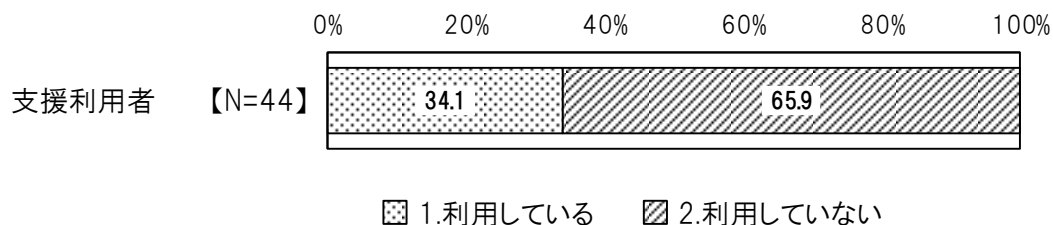
- 1. 利用したことがある
- 2. 利用したことはないが、知っている
- 3. 知らない

問 中学生のお子さんがいらっしゃる方におうかがいします。

お子さんは学習支援事業を利用していますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 49
N 値				44

『支援利用者』で中学生の子どもがいる人の、学習支援事業の利用状況については、34.1%が「利用している」と回答しています。



小学校区別にみると、人数が少ないものの、神辺、昼生、亀山南、野登では「利用している」が多くなっています。

【支援利用者／小学校区別集計】

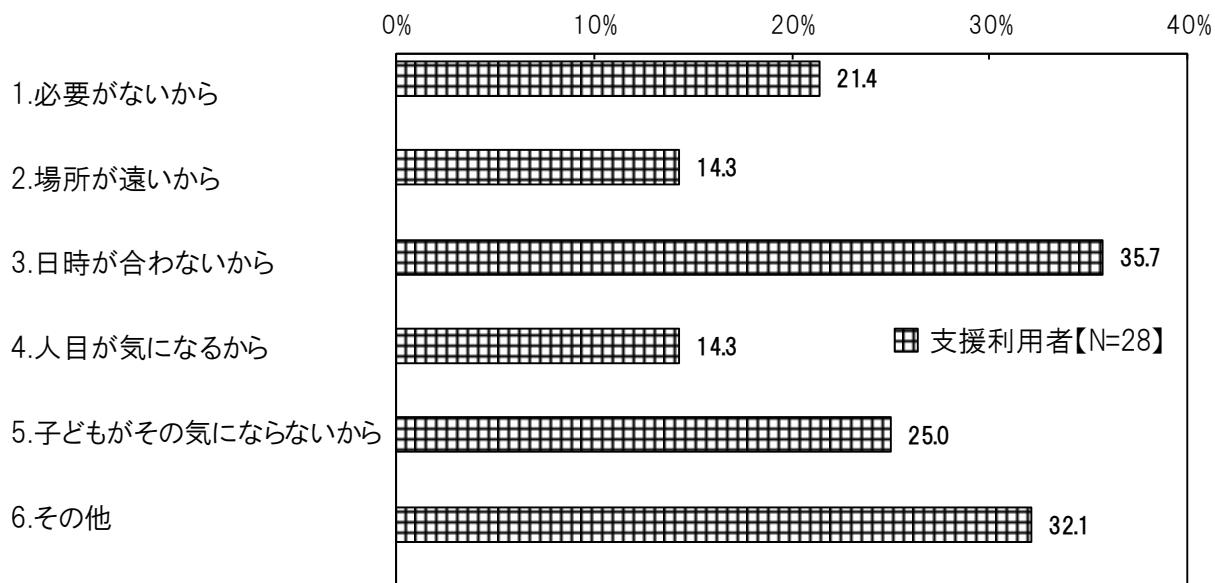
	亀山 西	亀山 東	亀山 南	昼生	井田 川	川崎	野登	白川	神辺	関	加太
1.利用している	28.6	16.7	50.0	66.7	33.3	-	50.0	-	100.0	33.3	-
2.利用していない	71.4	83.3	50.0	33.3	66.7	100.0	50.0	-	-	66.7	100.0
N値(人)	7	12	2	3	9	2	2	-	2	3	1

問 「2. 利用していない」に○をつけた方にうかがいます。

利用していない理由は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 49-①
N 値				28

『支援利用者』で中学生の子どもが学習支援事業を利用していない人に、その理由を聞いたところ、「日時が合わない」が最も多く 35.7%であり、次いで、「子どもがその気にならない」、「必要がない」と続きます。



小学校区別にみると、人数が少ないものの、井田川、亀山東では「日時が合わない」が多く、亀山西では「子どもがその気にならない」が多くなっています。

【支援利用者／小学校区別集計】

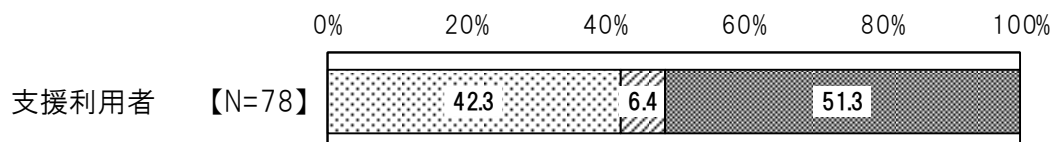
	亀山 西	亀山 東	亀山 南	昼生	井田 川	川崎	野登	白川	神辺	関	加太
1.必要がないから	-	22.2	-	100.0	16.7	50.0	-	-	-	-	100.0
2.場所が遠いから	20.0	11.1	-	-	16.7	-	100.0	-	-	-	-
3.日時が合わないから	20.0	55.6	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-
4.人目が気になるから	20.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-
5.子どもがその気にならないから	80.0	11.1	-	-	16.7	-	-	-	-	50.0	-
6.その他	20.0	44.4	100.0	-	16.7	50.0	-	-	-	50.0	-
N値(人)	5	9	1	1	6	2	1	-	-	2	1

問 小学生のお子さんがいらっしゃる方におうかがいします。

お子さんは、中学生になった時に学習支援事業を利用したいと思いますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 50
N 値				78

『支援利用者』で小学生の子どもがいる人の、学習支援事業の利用希望については、42.3%が「利用したい」と回答していますが、「わからない」が51.3%に上ります。



1.利用したい 2.利用する必要はない 3.わからない

小学校区別にみると、人数が少ないものの、野登、亀山南、神辺などで「利用したい」が多くなっています。

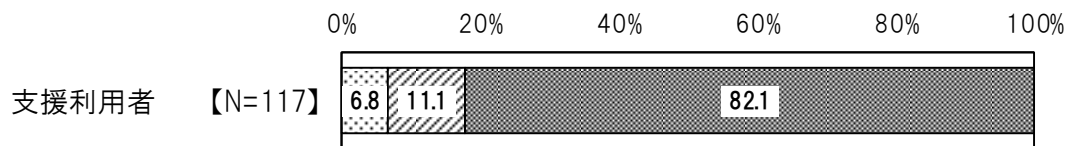
【支援利用者／小学校区別集計】

	亀山 西	亀山 東	亀山 南	昼生	井田 川	川崎	野登	白川	神辺	関	加太
1.利用したい	33.3	42.9	66.7	-	44.4	46.2	100.0	-	50.0	20.0	-
2.利用する必要はない	11.1	-	33.3	-	11.1	-	-	-	-	-	-
3.わからない	55.6	57.1	-	-	44.4	53.8	-	-	50.0	80.0	-
N値(人)	18	14	3	-	18	13	1	-	6	5	-

問 子ども食堂（みんなの食堂）のことをご存知ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 51
N 値				117

『支援利用者』の子ども食堂（みんなの食堂）の認知度は、「利用したことがある」が6.8%、利用したことがある人、ない人を含めて「知っている」人が17.9%にとどまり、多くの人が「知らない」と回答しています。



- 1. 知っているし、利用したことがある
- 2. 知っているが、利用したことはない
- 3. 知らない

小学校区別にみると、人数が少ないものの、「利用したことがある」は井田川が14.3%（4人／28人）、亀山東が9.5%（2人／21人）となっています。「知っている」人は井田川が28.6%（8人／28人）、亀山東が23.8%（5人／21人）、亀山南が20.0%（1人／5人）などとなっています。

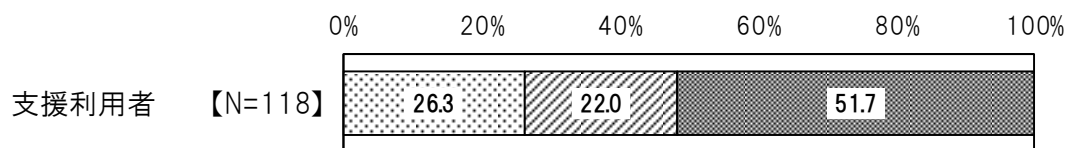
【支援利用者／小学校区別集計】

	亀山 西	亀山 東	亀山 南	昼生	井田 川	川崎	野登	白川	神辺	関	加太
1. 知っているし、利用したことがある	4.2	9.5	-	-	14.3	6.7	-	-	-	-	-
2. 知っているが、利用したことはない	12.5	14.3	20.0	-	14.3	6.7	-	-	-	11.1	-
3. 知らない	83.3	76.2	80.0	100.0	71.4	86.7	100.0	-	100.0	88.9	100.0
N値(人)	24	21	5	3	28	15	2	-	5	9	2

問 子ども食堂（みんなの食堂）を利用したいと思いますか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 52
N 値				118

『支援利用者』の子ども食堂（みんなの食堂）の利用希望は、26.3%が「利用したい」と回答していますが、「わからない」が51.7%に上ります。



▨ 1.利用したい ▨ 2.利用する必要はない ■ 3.わからない

小学校区別にみると、井田川、昼生、川崎で「利用したい」が3割を超えています。

【支援利用者／小学校区別集計】

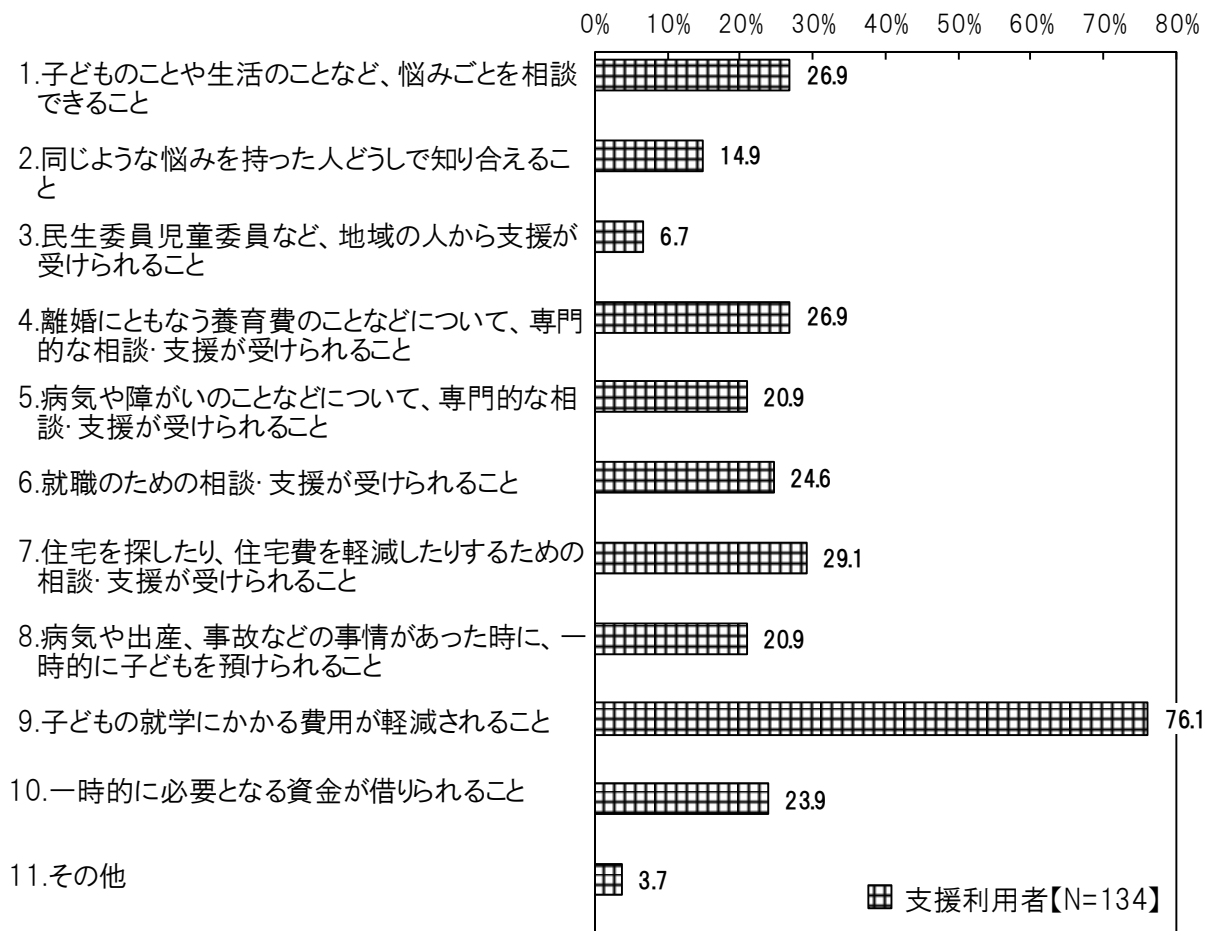
	亀山 西	亀山 東	亀山 南	昼生	井田 川	川崎	野登	白川	神辺	関	加太
1.利用したい	20.8	23.8	20.0	33.3	35.7	33.3	-	-	16.7	22.2	50.0
2.利用する必要はない	16.7	28.6	20.0	33.3	10.7	26.7	50.0	-	50.0	22.2	-
3.わからない	62.5	47.6	60.0	33.3	53.6	40.0	50.0	-	33.3	55.6	50.0
N値(人)	24	21	5	3	28	15	2	-	6	9	2

(7) 今後必要となる施策について

問 あなたが現在必要としていること、今後重要だと思う支援は何ですか。

種別	就学前児童	小学生	中高生	支援利用者
問番号				問 53
N 値				134

『支援利用者』が現在必要としていること、今後重要だと思う支援については、「子どもの就学にかかる費用の軽減」が最も多く 76.1%に上ります。以下、「住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための相談・支援」「子どものことや生活のことなど、悩みごとの相談」「離婚にともなう養育費のことなどについての専門的な相談・支援」などが25～30%の回答となっています。



『支援利用者』を貧困層区分別にみると、いずれの区分でも「子どもの就学にかかる費用の軽減」が多くなっています。次いで、『経済的貧困』『文化的貧困』では「住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための相談・支援」が多くなっています。一方、『非該当』では「子どものことや生活のことなど、悩みごとの相談」が多くなっています。

【支援利用者／貧困層区分別集計】

	経済的貧困	文化的貧困	非該当
1.子どものことや生活のことなど、悩みごとを相談できること	23.3	-	41.9
2.同じような悩みを持った人どうしで知り合えること	13.3	11.1	19.4
3.民生委員児童委員など、地域の人から支援が受けられること	8.9	-	-
4.離婚にともなう養育費のことなどについて、専門的な相談・支援が受けられること	28.9	22.2	19.4
5.病気や障がいのことなどについて、専門的な相談・支援が受けられること	22.2	22.2	12.9
6.就職のための相談・支援が受けられること	25.6	22.2	16.1
7.住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための相談・支援が受けられること	30.0	33.3	25.8
8.病気や出産、事故などの事情があった時に、一時的に子どもを預けられること	21.1	22.2	22.6
9.子どもの就学にかかる費用が軽減されること	74.4	55.6	83.9
10.一時的に必要な資金が借りられること	25.6	11.1	25.8
11.その他	4.4	-	3.2
N値(人)	90	9	31

子どもの年齢別にみると、「子どもの就学にかかる費用の軽減」はいずれの年齢層でも高いものの、特に就学前児童では88.2%に上ります。その他、就学前児童では「病気や出産、事故などの事情があった時の一時的な子どもの預かり」や「住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための相談・支援」も多くなっています。

【支援利用者／子どもの年齢別集計】

	就学前児童	小学生	中高生
1.子どものことや生活のことなど、悩みごとを相談できること	32.4	32.4	19.4
2.同じような悩みを持った人どうしで知り合えること	17.6	16.2	9.7
3.民生委員児童委員など、地域の人から支援が受けられること	14.7	4.1	4.2
4.離婚にともなう養育費のことなどについて、専門的な相談・支援が受けられること	29.4	24.3	29.2
5.病気や障がいのことなどについて、専門的な相談・支援が受けられること	14.7	18.9	23.6
6.就職のための相談・支援が受けられること	23.5	20.3	27.8
7.住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための相談・支援が受けられること	38.2	20.3	31.9
8.病気や出産、事故などの事情があった時に、一時的に子どもを預けられること	41.2	21.6	15.3
9.子どもの就学にかかる費用が軽減されること	88.2	77.0	73.6
10.一時的に必要な資金が借りられること	17.6	23.0	29.2
11.その他	-	2.7	5.6
N値(人)	34	74	72

母親の就労状況別にみると、「子どもの就学にかかる費用の軽減」はフルタイムよりもパート・アルバイト等のほうが多く、83.8%に上ります。また、「就職のための相談・支援」についてもパート・アルバイト等のほうが多くなっています。

【支援利用者／母親の就労状況別集計】

	フルタイム	パート・アルバイト等	フルタイムとパート・アルバイト等	複数のパート・アルバイト等	その他	就労していない
1.子どものことや生活のことなど、悩みごとを相談できること	21.9	29.7	-	-	66.7	40.0
2.同じような悩みを持った人どうしで知り合えること	13.7	16.2	-	-	-	20.0
3.民生委員児童委員など、地域の人から支援が受けられること	6.8	5.4	-	100.0	-	10.0
4.離婚にともなう養育費のことなどについて、専門的な相談・支援が受けられること	26.0	29.7	-	-	66.7	20.0
5.病気や障がいのことなどについて、専門的な相談・支援が受けられること	15.1	24.3	-	100.0	-	40.0
6.就職のための相談・支援が受けられること	17.8	27.0	-	100.0	-	50.0
7.住宅を探したり、住宅費を軽減したりするための相談・支援が受けられること	24.7	29.7	100.0	-	-	50.0
8.病気や出産、事故などの事情があった時に、一時的に子どもを預けられること	20.5	24.3	100.0	100.0	-	10.0
9.子どもの就学にかかる費用が軽減されること	71.2	83.8	100.0	100.0	66.7	80.0
10.一時的に必要な資金が借りられること	17.8	29.7	-	100.0	-	20.0
11.その他	5.5	-	-	-	-	10.0
N値(人)	73	37	1	1	3	10

問 最後に、子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。(自由記述)

※この報告書では省略